

門 卷 4  
號 2332  
卷

昭和36年5月9日  
平野金之助氏贈

36.600



法寓象存  
此法之在於孝為為極為  
極理義之條達結神之  
煥發皆為不終之故為明也  
死活初聯并其冥極錯綜

之物志有如此語孫孫之  
也竟以夫不富此語之法  
以厚文章謂煩籍者厚  
猶猶抗之也而不可猶者  
之及踪必不(是)詩于後

者老松溪富之不易得自  
處氏者一而此法而隨  
跟振求者有意及十家約  
之有猶言(感)不己採援亦  
或如高先生得之秘小子

其心演說與字用法在  
象密象出精入微吾等  
受而為子轉之名曰助德富  
象遂以上梓布之也言兩小  
冊子實大川之一杓大風三

吸何之者帳中之秘亦極  
讀若轉所思密所念無  
用之以極靈化一滴之水與  
精強之者身至功易可  
河也哉

文化丙子豫月

門人奧妙弘奇醫員三上博  
淺後于雪島客舍



助語審象卷之上目次

總論

矣也哉來焉旃居諸十三耳爾已那夫耶同邪乎厚同歟與

二十止只軼尺里思忌且二十而其猗兮些員斯胥二十

盖夫彼渠同詎伊侯維惟九二十粵同越曰聿同通繫言猷爰

時二十云噬烝逝此是同謏斯茲三十於于乎都案同寔

且之二十厥其戎乃爾而若汝附者以用武庸三十足可宜同儀

當合須同胥應容六四十攸所見被遭遇受逢觀蒙獲四十

振道緣因由繇自從附依一平故肆為雖俞爾然而如五平

親附躬自居坐尋行追隨附從旋八平敢肯猥濫汎叨聊

頗向垂九五平彌愈益增加倍況滋附添一平

助語審象卷之上

橘園三宅先生口授

門人

釋海定

三上惇

筆錄

宮永寅

凡文章ヲカクニ助字ヲ用ユルハ何ノ為ソカハ文章ハ助字  
ヲ用ヒテ意象ニユク處ヲカタドリ助字ハタラキニテ其事實ノ  
緩急顏色声音ノ有サマ、デ今日ニ見ル如クカキトリ論說ノ  
條理意象ノ細密ナルヲ毫ヲ折キ繇ヲ分ツテ詳ラカニコレヲ

知ラシムルコナリコノ故ニ先ツ其字義ト用法トヲクワシク吟味シ  
 テ逐一ニ明ラカニコレヲ辨別シ百字八百字ナガラ晰然トシテ  
 胸中ニ條理ヲ紊サズ並ヘオキテ然シテ後筆ヲ下スニ非レハ  
 意象ヲ細密ニ書キウツスコ成リ難シ漢土ノ人ハ生レテヨリ  
 シテ字音ニ熟シタルコナレハ大抵ハ條理ノ違フコモナクシ任意象  
 粗暴ナル人ハナク謬リシコアリト見ヘテ柳宗元モコレヲ辨セル  
 コアリシテ本邦ニテハ言語モ違ヒ字音ニナレザルコナレハ切問  
 ヒ深く思フテコレヲ辨セズシハ鹵莽ニナリヤスキナリ凡助字ヲ

用ユルヤスカラザルコハ本邦ノ天尔於波ニテト云字ラジト濁バ  
 反語トナル如ク助字モ焉字ヲ下ニ用バ地位ヲスエルコニナリ上  
 ニ用バ反語トナル敢不ト不敢亦無ト無亦ノ語意相反スル  
 ニテモ用字ノ大切ナルコヲ知ベシ謂之ト之謂欲以ト以欲有  
 嘗ト嘗有ノ類上下ニ易ヘ用ルハ大ナル差別アルコナリ粗率  
 ニ心得ハ條理ノ紛ルコ多カルベシ  
 助字ヲ用ユルニ先ツ其字義ヲ細密ニ分チテ其上ニ古人ノ用  
 法ヲ徴シ合セテ精覈シ然シテ後コレヲ用ユベシ字義ヲイダ

カ  
吾  
審  
身  
卷  
之  
上

審ニセズシテ徒ニ古人ノ用タル例ノミニ倣ハ、タトハ其面ヲ識リ  
テ其心ヲ知ラサル如クナレハ必思ヒノ外ナル錯謬アルベシ今人  
多ク字義ヲヨソニナレオキテ只例ノミニ據リテ用ユル人アリ己  
ハ大ニ危キコナリ特ニ左國莊子孟タドノ文ハ至極手タレノ  
妙筆ナレハ變化ニカセテ絶妙ノ用ヒ様多シ今徒ニ其跡  
ニ擬セバタトハハ勝敗ノ勢ヲ明ニセズシテ古人ノ奇兵ノミ子ヲ  
スルガ如シ韓信ガ背水ノ陣ハ兵法ニソムキテ一時ノ應變又ニ  
設ケタルナリ今時勢ヲ詳ニセズシテ背水ノ陣ヲ布カバ誰カ

敗レザル者アラシヤ用字モ亦妙手ノ迹ヲマ子テ覆亡ニ似タル  
コ多カルベシレバ文字ノコハ誰モ咎ムル者ナキ故ニソレナリニ  
ナシ置キテ自カラ足レリトスルコ愧ズギコナリ

字義ヲ詳ニスルコハ音紀ニ據テ義ヲ明カスニ非レバ精微ヲ盡  
シガタシ凡字義ニ体用動靜彼我ノ分アリ又遠近淺深ノ  
別アリ又來往アリ内外閑合ノ異ニヨリテ字義ニ心識ヲ既  
往ニ注ルアリ將來ニ注ルアリ又神象器法ノ分チアリ平声ノ  
字ハ神用活動ノ處ニテ名ケタルナリ上声ハ象ヲ立テ其モ



ヨウヲ想ヒヤリテ名クル者ナリ去声ノ字ハ形ニ屬シテ物ニシ言  
フ意アリ入声ハ神用ノ跡ヲ模擬シテ稱スル者ナリ此等ノ  
コハ迂遠ニ似テ實ハ字義ヲ知ル捷徑ナリサレバ任意象ノ  
精シキ人ニ非ハ共ニ語リカタシ

凡助字ヲ用ルニ勿論スベテ文章ヲカクニ先ツ明幽兩界ヲ  
明ニ辨ズベシ凡ソ日ノ光ノアタル處ハ明ナリ日ノ光ノ及バザル  
所ハ幽ナリ人ノ身ニトリテハ當面ニ目ノ及フ所ハ明ナリ目  
ノ及バザル所ヲ心識ニ想ヤル所ハ幽ナリ凡眼前明界ノコ

ラ記スニ語辭ノ用テ幽界ノコヲ心識ニ想カタドリテ書ク  
ニ助字ヲ用ヒテ其條理ヲ分ツコナリ譬ハ當面ニテハ鷺白  
鳥脛短ト書クコナルヲ心識ニカ、リテハ白矣白也短矣短  
也トド、書クコアリナラシクノ字ノ下ニ柔ク注セリ凡助字  
ノ有ルベク見ユル處ニ略シテ助字ナキハ皆明界ナレナリ是故ニ  
叙事ノ文ニハオツカラ助字少ク議論ノ文ニハオツカラ助字  
多シ此レ自然ノ道理ナリコ、ヲ以テ文章ニハ助字ヲ用ユベキ  
處ニハイカホド重疊シテモ苦シカラズ用ユマシキ處ニハ一向ニ

ナクテモ佳ナリ何モ多少ニ拘ラズナリ又叙事中ノ議論アリ  
議論中ノ叙事アリ此幽中ノ明明中ノ幽ナル故ニ助字ノ  
用ヒ様少シヅカワレリ莊子孟子ナドニアヤシキ助字ノ用ヒ  
方アルハ皆コソ故ナリソモク明界ニ助字ヲ用ザルハ何故ゾナレ  
ハ凡助字ノ意象ヲカクドリテ人ニ云聞ス辞ナルユニ一字モ幽  
界ノ心識ニカハラザルハナシ故ニ當面ノイヲ記スニ決シテ用  
ナシ古人モ當面無語トイヘリ予ガ恒ニ言フ明界無助字  
ト云フ誠ニ助字ノ大關要ト知ルベシ

古人ノ文字ノ用ヒカタ色クニ變化ノツカヒ様アル字義ハ一致ニ  
ナラズシテ叶ハヌコナリモシ音轉スレバ義モ亦轉スレテ同字ニ  
音ニテハ何レノ書ニテモ其義一定ナルベキコナル漢以來ノ註解  
ハ爾雅ニナラフテ轉注ヲ專トセルヨリ各其所クニ臆ニ任セテ  
注スル故ニ毫釐千里ノ差ヲナセリ蓋字ヲ發語之辞トモ謙  
辞トモ疑辞トモ注スル類笑フベキコナリ一字ニテカク數義ヲ  
兼ルナラハ古人何ノ故ニ數萬ノ文字ヲ造ルヘキヤ學者轉  
注ニ拘ラズ字ノ本義ヲ較明スベキコナリ

夫蓋ナドノ字ヲ發語ト云フ昔ヨリ言フナレハ一向ニキコナリ  
何ノワケモナキ時ニ發端ナレバトテ助字ヲ置キ理ナシ古人  
ノ文ニ最初ニ夫蓋若夫夫以ナド、書キ出シタルハ其論ノ  
主タルヲ姑ク多隱シオキ客タルヲ先ツ言出シテサテ奥ニ  
主タルヲ出シシト照應スルコアリテ助字ヲ置タルナリ奥  
ニ應スル所ナケレハ初ニ助字ヲ置コナレ又主トスルヲ初ヨリ  
言出シタルハ決シテ發端ニ助字アルコナシ後世ノ文章ニ  
ハ突出冒頭ノ二法ヲ立タルヨリ此惑起レリ冒頭ニカキ

タル語ハ多ク客ニナル故夫字ナドヲ置ケリ然レモト冒頭ト  
云フハ古文ニナキコナリ此コトハ別ニ論スベシ今此ニ贅セズ又  
倒裝法ト云フコシ亦故ナクシテ倒裝スルコサレ無シ其與有  
幾ト云句ヲ倒語法ト注シタルハ笑フベキ至ナリ古人ノ  
文字ヲ相錯シテ用タルハ皆其意味ノ差別アルコナリ能  
々心ヲ注テ考フベキナリ

於越ノ於阿蒙ノ阿ハ發声ナリ發語ニ非マ語ト声トノ別知  
ラズレバアルベカラス庾公之斯ノ之モ助声ナリ此等ハ意義

ナキニ似タレ凡阿於ハ本喉音ニテ神氣ニ物ヲ象ル全体  
スワリノ声ナリ之ハ細齒音ニテ神氣ノ彼ニ從フテウツリ行  
ク声象ナリ

史遷班固が同一事ヲ記シテ助字ノカワリテ有ルヲ見テ  
語辞ニハ意義ナシナド、言フ者アリ愚ノ至トイフベシ史遷  
ノ文ハ變化ヲ主トシテ列傳モ一篇ノ体ヲカヘ文字ノ用  
様モ奇詭ヲ專トセリ班固ハ整齊ヲ主トシ前後始終  
一定ニシテ班固が大ニ心ヲ用テ書換ヘタルヲナルヲ辨畧ニ

見ル遺憾ナルヲ深ク玩味シテ其差別ヲ察スヘキナリ

歌辞騷賦等ノ韻文ニミ用テ散文ニ用ヒザル助字アリ

コレハ詩經ヲ祖トセル者ナリサレ凡分些ニナドノ字ヲ散文

ニ偶用ルコトアレ凡容易ナラサルコトナリ又古書ニハ助語ニ用

タル字ニテ後世ニハ用ヒズシテ韻文ニミ偶用ル字アリ古

ニハ助字ニ用ヒズシテ魏晉已後用ル字アリ又後世ノ五

七言ノ詩及ヒ四六ノ文ニハ助字ヲ略スルコト多シ此モ源ヲ

詩經ニ取タルモノナレ凡是皆浮虚華飾ヲ主トスル故ニ心

ノ真象ヲソク、寫スニ及ハザル故ナリ

文字ヲ用ルニ古今雅俗ノ別アルコトアリトカク文章ハ西漢

已上ヲ宗トスヘキコナル故ニ今徴引スルところ左國史漢ヲ

主トシ旁ヲ諸ノ古書ヲ採ル左國史漢ハ一々書名ヲ舉グズ  
タゞ隱元某傳ナド、書ス

其古書ニ用例ナク已ムコトヲ得ズ魏晉以後ノ書ニ及フ

者ハ是後世ニナリテ用元語ナリト知ルヘシ但後世ノ人ハ

心ヲ用ルコト精ナラス故ニ文字ノ吟味モ粗ナルコト多シ法ト

スルニ足ラス因テ今唐宋已後ノ文ハ例ニ採用ヒズ又近

躰ノ詩ノ語辭ハ多ク俗語ナリ因テ俗語ノ助字ヲ

別ツテコレヲ末ニ出ス初學ノ輩雅文ニ混入セシコト恐ル

故ニ其科ヲ別ニスルナリ

助字掲上ノ法アリ隔承ノ法アリ掲上ト下ノ語ヲ上ヘ引

上ケ語勢ヲ急ニシテ緊切ニ聞カシムルナリ惡乎成名其

與幾何ノ類ナリ其語句凡ニ掲上セルアリ美哉山河之固

ノ類ナリ隔承トハ或ハ字ヲ隔或ハ句ヲ隔テ下ヘ越サセ

タル法ナリコレハ下ノ句ヲ主ニシテ云タル處ナリ葬故衆而

後ノ類ナリ數句ヲ隔承セル法モアリ委々ハツレクノ字  
ノ下ニ注セリ

助字複用ノ法アリ疊用ノ法アリ疊用ノ法アリ複用  
ニ句頭句尾句腰ノ別アリ句頭ノ複用ハ若乃蓋夫ノ類  
ナリ此ハ上ノ一字ヲ全体ノ文ヘカケ下ノ一字ヲ其下ノ一語ニ  
ツケテ其義ヲ見ルコトナリ句尾ノ複用ハ焉矣也夫ノ類  
ナリコレハ上ノ一字ヲ句末ノ一語ニツケ下ノ一字ヲ全体ノ文  
ニ係ケテ見ルコトナリ三字四字複用シタルモ此例ニテ推スヘシ

句腰ノ複用ハ既已亦復且猶ノ類ナリコレハ相錯シテ上ノ  
一字ヲ下ノ文ヘ係ケテ下ノ一字ヲ上ノ文ヘカケテ見ルコ  
トナリ所以於是雖則ナドハ上下ノ繋キノ語ナレハ句頭ニ  
アリテモヤリ句腰複用ノ例ニシテミルヘシ疊用トハ同字ヲ多  
ク用ヒタル于周于京美矣至矣ノ類幾字モ疊用スルコトアリ  
句ヲ隔テ句頭ニ疊用スルモアリ句尾ニハ猶サラツ子ク用ル  
コトナリ疊用トハ稍稍故故ノ類ナリコレハ唯オモク言タルニ  
ニ非ス其事ノ續キタル意ノ所ニ用ユルナリ此等ノ數法ヲ

上之

能密察シテ其位置ヲ檢究スヘシ

助字標目歌

矣也哉來 焉旃居諸 耳爾已那 夫耶乎歟

止只軼咫 里思忌且 而其猗兮 些員斯胥

盖夫彼渠 伊侯維惟 粵曰聿繫 言猷爰時六三

云噬烝逝 此是斯茲 於于乎都 安寔且之

厥其戎者 以用式庸 足可宜當 合須應容四六

攸所見被 遭遇受逢 振道緣因 由繇自從

卷

中之

故肆為雖 俞爾然而 親自居坐 尋行追隨

敢肯猥濫 聊頗向垂 彌愈益增 加倍況滋

嘗曾惜經 既已業訖 無亡罔莫 蔑靡毋勿

少末微否 曼未不弗 非匪叵難 幾殆危沆

乃迺載便 還輒卽則 就登遲動 宛轉見仄十

唯徒但亶 啻只徑直 第地立乍 最尤獨特

甚太奇絕 孔痛酷苦 極至殊異 驟數亟屢

原本主舊 雅素職固 翻還却倒 反般覆顧三

卷

卷

明詩審象 卷之

旋寢漸徐	稍差較良	端趣頓溢	豫欲且將
適屬祗多	端鼎正方	偏一誕大	奄丕駿荒
必會定計	要期斷決	悉備盡單	詳具畢屑
皆咸僉舉	裁才僅劣	代狎間拾	交互遞迭
俱偕共併	與及之暨	相胥兩耦	竝竊遲比
適迄了回	終竟卒遂	連頻仍旋	薦荐恣累
如若似均	仍故猶尚	幸賴熟倩	信允情諒
實寔展賣	真洵誠亮	能善克巧	好喜矧况

下 之 卷

更改起兼	還復亦又	始初肇甫	造昉在有
任耐勝堪	慤強咋迨	長每恒常	值會脫偶
抑或果苟	卽儻設試	審就如若	縱借假譬
嚮匹使令	遣教俾致	拜仵作為	庶幾上冀
許頃所可	空虛姑薄	凡聶率槩	抵歸類約
慮諸統合	總切粗畧	幾豈巨寧	孰疇誰各
詎侯那奈	奚曷何胡	盍闔遐庸	焉安惡烏
嗟噫嘻戲	唉欵嗚呼	叱啞寒羌	嘍咨都吁

力吾審象 卷之



馨麼地阿 頭邊許價 恁儘做慣 忤色上下

等底恁甚 那他這箇 可該是也 解險然些

任放浪謾 不休沒莫 來去除只 說道得着

負取窄斗 打赤了却 恰纔剛的 殺生樣脚

向和枉賸 番回子兒 靠交消厮 哩呢咄咦

古今語辭 槩具于斯 精之覈之 勿錯毫釐

右助字ノ目ヲ押韻シタルハ初學ノ輩ヲレテ記得シヤスカラシ  
メンガ為ナリ其復出セルモノハ或ハ同字ニテ語頭語尾ノ用

例異ナルアリ或ハ訓ニツニツアリテ用例異ナルアリ其類々

ニ從ツテ復出ス又標目ニモレタル字ハ其類ノ字ノ下ニ附

出セリ搜索シテ見ルベシ又コノ中ニ語辭ニハアラヌ字モ有リ

ケメド類ニ觸レテコレヲ書キツラ子初學ノ人ニ便リスルナリ

字注ニ某者云云之辭トアルハ真ノ語辭ナリ云云日某トアルハ  
助辭虛字相兼ルナリ云云之稱トアルハ助字ニ非ルモノナリ

矣也哉來ヨリ嘆咨都吁マデ四百八十字ハ古文ニ用ヒ

來リタル字ナリ馨麼地阿ヨリ哩呢咄咦マデ八十字ハ

小説俗語ノ助字ナリ其ウチ那是可然ナドノ字ハ前

ニ出タレ凡俗語ノ用ヒ法ヲ別ニ知ラシメガ為ニ俗語ノ部ニ  
モ重テコレヲ出セルナリ

○矣也哉來 焉旃居諸

矣イ カフアツタ カアラフ ト 訣ス 矣者心知其然而直處之辭

矣ハ幽界ノ心識ニテカヤウナルベシト定メテ云出ス辭ナリ何

コトニテモ當面ニナキコトニ我心ニテカク成ラスマテアルコト定メオ

キテ言フナリ 既往コトバカ將來コトスエカニ係ケテ語ル助字ナリカマツ

タカフアラフナト言ヒ流シテ辭ノ尾ヲ下ヘ引テ人ニ聞カシムル

意モチアリ 焉字ト相反ス焉 凡他ノ助字ハ明幽兩界ニ涉ル

字モ多ケレ凡矣字ニ限リテハ明界ニ少シモ係ラズ見在

ハシヨニ公用ヒヌ字ナリト知ヘシ  
矣字ハ幽界ハカリノ字ナル故ニ昔ヨリ置字ニシテ和訓ナキコトナリ  
リ 天朝古人ノ始テ和訓ヲ附ラレシ人々意象精密ニシテ西字ノ文理ニ審カナルコト分毫モタカハヌ處コレニテモ觀クニトカク今人ハ書ヲヨムコト粗ナルコトニ神識モ其至ル所ヲ盡サブルナリ

論 使子路反見之至則行矣  
今テサリタルニ非ス既ニサリテアリタルナリ

左宣 二年寢門闢矣  
トクニヒラケテアツタナリ今眼前 哀 日門已閉矣  
五

己字ヲ加ヘテ 成其自為謀也則過矣其為吾先君謀也則忠  
謀其自謀リシコトハ過ニシテニフテオキテ先君ノタメニ當面ノ主ニシテ言ル故ニ忠字ノ下ハ助字ナリ

成 申叔時老矣在申  
前ニ老シテアリタルナリ今老シタルニアラズ

己上皆既往ハ係ル矣ナリ  
カフアツタト訣ス

六 鄭不來矣  
不來ニテリテアル 叔孫我不忘矣  
不忘ニシテアル

子孟死矣盆成括括死矣  
死ルデアツタ 曲侍坐者請出矣  
出ルデアラフトコト

全崩曰天王崩復曰天王復矣  
崩ハ明界見在コトナル故助字ナシ復矣ハカヘリ玉ヘト將來ヲ言フナリ

已上將來ヘカハル矣ナリ  
ト訣ス サレ凡矣字ハ徃ニ屬スル

字ナレハ其事既ニツレニナレバツニ定マリテアルコトニシテイフク

元 子封曰可矣厚將得衆  
コレ方今テ心ニカヤウナルヘト定メテ云タルコトニ矣字ヲ置タリ

法 吾又執之以信齊沮吾不既過矣乎  
矣字ヲ過字ニ附ケ乎字ヲ

上ノ全文ニカケテ見ルナリ凡句尾ニ助字連用スル者ニナリ例ナリ

昭十深思而淺謀邇身而遠

志家臣而君圖有人矣哉

哉字有人ニカ、ル哉字全文ニカ、ル

劇孟吾知其無能為己矣

也矣焉矣耳矣矣夫

法子至矣盡矣美矣大矣

鄭王師若在其救之亦必

然矣王心怒矣魏公從矣凡周存亾不二檢矣君若

欲避其難速規所矣

コハ句ヲ隔テ、累用セル法ナリ

揭上語鮮矣有レイニ鮮有仁矣トアレハ語勢緩ナリ語ヲ緊切ニ

封禪三代邈絕遠矣難存速クワテアルデ難存デアラフナリ速難存

ト書トキハ彼遠多リテ

也也也者析其條理而示之之辭

也ハコレハカフ云コト、辨別ヲ入レテスダヲワケルナリ説文ニ

也也也女陰也トアリコトハ同シ人ナレモ男ト形ノカワリテ女々

ルノ理ノ別ル、處ナラヲ以名付ルナリ助字ノ時モコノ

理理シヤト云テコノ理テナイト云モノヲ相手ニ持ナイフ辞ナリ

也ト矣、別ハ矣ハ往ニ属シテ心ニオシスエテ定メ置テ云ラ辞ナリ

也ハ來ニ属シテ今テ引キ別ヲ入テ云辞ナリ譬ハ鷺白ニ鳥短ナ

助ド當面ニテ書ク時ハ助字ヲ用ヒス心識ヘカケテ云トキ、助字アルヘシ

デハナイ白キモノシヤト云ハ也字ナリ鳥脛ハ短クナリテ多短キモ  
ノテアラフト云ハ矣字ナリ鳥脛ハ長キモノト云ハ也字ナ  
可也 不可也ト云モノヲカタク  
持テスチ分ケラスルナリ 不可也 可也ト云モノヲ心ヲカタク  
立テ置テスチ分ルナリ

他家穀城山下黄石即我矣 即我ニナルト定  
テ云キカスリ 即我也 我ニチカヒ  
ナリトスチ

フ分テ云ヒ 即我  
助字ナキハ當面ノメ  
キカスナリ

凡ステ假名ニナリト讀ミテ也字カ矣字凡ヘキ様ニ見ユ所ニ助字ナ  
キハ語勢急ニシテ幽界ノ心慮ヲ語ルニ及ハズ只當面ノクマ、ヲ寫シ  
タルミナリワザニ字ヲ省キタルニ非ズ  
凡テ助字ヲ畧ス法此ニ准知スヘシ

也字句腹ニ用テヤト訓スル時モ先ツ辨別ヲ立テ置テ其

事ヲ説キ出スナリ句尾ニ用ルモ同シ

論回也 回一人ヲ引クテ云フナリ 參乎ハ只呼カケタルニナリ  
凡人各々下ニ也字ヲ付タルハミナクノ例ニテ知ルヘシ

其舍人臨者晋人也逐出之秦人六百石以上奪爵

遷 秦人ハ也字ナレ晋人ニバカ  
也字アリ主客ノミガヒナリ 秦與兵是邪非也

豈所謂素封者邪非也 コレカト訓スレトモ也字ニ疑意モ問意  
モアルテラス上ノ語勢ニ牽レテ疑問ノ

何也 何字ニ疑問ノ意ヲ持テ也字ヲ  
加ヘタルハラフスチラフケテ問フニナル

成浹辰之間而楚克其三都無備也夫 也字無備ニナル  
夫字全文ニナル

也焉也矣也乎也與也邪也哉 ミナ句尾複用ナリ  
上ノ例ニ准知スヘシ

カ吾...

累昭十 用六 楚子聞蠻氏之乱也與蠻子之無信也

也字句尾ニ累用スルコト子ク多キナレハ例ヲ卷ルニ及ハス易ノ象  
傳ハレバウ也字句尾テアリ又物ヲ歷ク數元語ニ其不可一也其  
不可一矣ナド用ルコトアリ留侯世家ニ六國ノ後ヲ立ルコトヲ議シテ  
其不可ヲイフニ三ツヨリマハ也字ヲ用四ツヨリ己後ハ矣ナドヲ用  
タリコト前ハコレテ不可ガイクツトスチヲワケテ云フキニテ也字ナリ  
後ハ語急テリテ留侯カ自ニ定テ數ハテ幾ツト云タル故ニ矣字

哉 カナ キント上訳ス 哉者自我裁之以確斷之之辞

哉ハジメト訓ジテコレカラ切分ケテ入テヲハジメトスル意ナリ哉  
生明ノ類ナリ助字ニ用元時モ大哉トイハ外ノ小ナル者ヲ  
オシケシマフテコレヲ大ナルノ首トシテコレハクサテモくと嘆

異スル意ナリ句尾ニアル時モ推切テドコニデモコノ通りト其  
上ノ語ヲ推カエシテ云程ノ意持ナリ

矣ト哉トノ差別ハム矣ハ我心ニテカフアルヘシト定メテ外ヘ云出スナリ  
哉ハ明界ノ物カ事カラ見テ誠ニカフアルゾト我心ノ幽界ニ引入テ嘆  
異スルナリ我ヨリ彼ヘスルハ矣ナリ彼ヨリ我ヘスルハ哉ナリ  
哉ト乎トノ別ハ哉ハ二段意ヲ加テ嗟嘆スルナリ乎ハ唯ソノコトヲ云カケ  
テ入ル心ヲ引  
出スノミナリ

仁哉 コトニ仁 仁夫 仁アルハ 仁矣 仁ニナツ 仁也 仁ニチガヒ 仁焉

典 往欽哉 欽ニト云フヲ念ヲ入テツヨク 襄三 魯其懼哉 十一

傳十 君其悔是哉

哀十 公曰諾哉 諾ヲ多シカニ云タルナリ

司馬相 如傳 朕獨不得与此人同時哉 歎テ言タルナリ

復轉世 終為諸侯十餘世宜乎哉 乎字ヲ宜字バカリニツケ哉字ヲ全文ヘカケテ見ルナリ下例此

昭十 為人子不可不慎也哉 檀弓 尚行夫子之志乎哉

論語 子游為武城宰子曰女得人焉耳乎哉 焉ハ為武城宰トコロニナリ耳ハ入

ヲ得タルニスルナリ乎ハツレラ云カケタルナリ哉ハ推返シテツヨクイヒタルナリ凡三字四字複用スルモノ皆此例ニ准知ヘシ

累臯陶 臣哉鄰哉鄰哉臣哉

揭樊噲 觀故蕭曹樊噲滕公之家及其素異哉所聞

始皇 善哉乎賈生推言之也 賈生推言之也善哉乎ト云語ヲ勢ヲ緊切ニキカセシタメニ上ヘ引上タル者ナ

故句尾複用ノ例ニシテ哉字ヲ善字ガカリニツケ乎字ヲ賈生推言之也善ト云全文ニカケテ見ルナリ

吳起 傳 美哉乎山河之固 檀弓 仁哉夫公子重耳

哉字句尾ニアリテヤト訓スレト哉ニ反意モ疑意モアル

ナシ上ニ豈何ナドノ字アルバ語意既ニ反語ニナリタルラ哉

字ヲ加テツヨク聞セタルナリ上ニ豈何ナドナキニモ語勢ニテ既ニ

反語モシクハ疑問ノ語トナリタルラ哉字ヲ加テツヨク云タルナリ

哉字疑意アルヤウニ心得ルハ大謬ナリ

荀夫又誰為恭矣哉

又誰為恭ニテ恭ヲ為「ハセ」ト云語意ナラ為恭ト云「ヲ」ヲ定ルタメニ矣字ヲオキ全体ノ語

ヲヨク云タメニ哉字ヲ置タナリ

何征而不服乎哉

豈字何字ナド反語ノ字上テハ下ノ乎哉等ノ

字ヲ子ニテ語意ヲ見ヘシ何征而不服ニテ征スル処皆服スト云「ニ」ル其服スト云「ヲ」人ニ云カケルニテ乎字ヲ置キ其全文ノ意ヲ重クスルタメ

ニ哉字ヲオクナリ

或曰齊衰不以弔曾子曰我弔也與哉

我弔也與ニテ我弔スルニテアルヤ弔スルニテナキゾト云語意ナリソレヲツヨク云タメニ哉字ヲオキタル

獨吾君也乎哉

獨吾君也乎ニテ獨吾君ノ君ナルヤサスデハナイト云語意ナリソレヲツヨク云タメニ哉字ヲオキタルナリ

來

サト歎ス

來者誘而啓之之辭

來人ヲ呼テイザナヒ出ス辭ナリ

哉字ヲ彼ヘコサセテイフキミナリ

長鋏歸乎來食無魚

盍歸乎來

嗟來桑戶乎

嘗以語我來

焉

サトトコト歎ス焉者提覆之以帖之其地位之辭

焉ハ本鳥ノ名ニテ鳥ノ類ナリ鳥飛天上云テ空へ上ル性

アリ助字ニ用ル時モソレトコロニト云意ニテ上ノ文ノ事カ物カ

ノ其地位ヘモドリテ下ノ文段ヲ其處ヘ持越シテソコニスルテ

カフデアルト云意ナリ古人モ焉字意揚ト注セリ焉ヲコレト訓スルトキ

モ同意ナリ之ト焉トノ別ハ之字ノ下ニ詳ナリ



矣ト焉ノ別ハ焉ハ焉字ニテ文意ヲ留テ跡ヘ引カヘス意持ナリ  
矣ハ語ノ尾ヲ引テ下ヘ言ヒ流スナリ前後ノ別全ク相反スルナリ

宣公卿宜淫民無效焉

子孟雖褐寬博吾不憚焉上句皆

語勢ヲ焉字ニテ受テハ子返ス故ニ反語トナリ莫大焉勢大焉  
ナドモ同シ語氣ナリ無效矣トアレハ效コトナキト云コナリ不憚矣ト  
アレハオツレハセヌト云コニナルナリ  
コレラニテ矣レ焉ト差別ヲ推知シ

曹相國 參於是避正堂舍蓋公焉焉字避正堂ノ處ヘモドルナリ

桓反行飲至舍爵策勲焉禮也焉字行飲至ヘモドルニ焉字ナクハ舍爵策勲ト飲至ト別コトニナル

襄十 凡書取言易也用大師焉日滅焉焉字上ノ取字ニ係ルナリ

文十 凡勝國日滅之獲大城焉日入之焉字勝國ノ處ヘモドルテ勝トレテ取ル意ヲコトナリ

成 以兩之一卒適吳舍偏兩之一焉與其射御焉字兩之一卒ヲ指ス

小 繫之維之以永今朝所謂伊人於焉逍遙焉字ハ上ツ文段ヲ認取シテ

地位ラスル字意ナリ永今朝ガ主ニナリ於此於茲ナドナバ伊人が主ニナル於焉ノ字句首句腰用ニ尾句尾ニ用ルナリ此茲等ノ字ノ下ニ詳ナリ

莊 兩涘渚崖之間不辨牛馬於是焉河伯欣然自喜於

是焉ハヤハリ小推ノ於焉逍遙ノ於焉ト同シ義ニテ見ルヘシ事ノカワリ自ナル故ニ是字ヲ加ヘルナリ

昭 焉始乘舟 變焉乃遊以徘徊焉字ハ上ツ文段ヲ認取シテ

置タルナリ奇法ニテ類ニ倣ヒガタシ

復義所以重責婦順焉也 衛亦已焉哉

上掲隠我周之東遷晉鄭焉依依晉鄭焉ト云フナルヲ晋鄭ノ字ヲ主ニシテハタラカセタル故ニ上ヘ引上タル之

昭三遲速衰序於是焉在コレハ入ニ云カケタル語ナルユヘニ急ニシテ焉字ヲ引上タルナリ於是在焉ノ意ナリ

莊有數存焉於其間存於其間焉陳誰侑子美心焉切風誰侑子美心焉切

切心切切焉群帝焉取藥取藥焉

襄三安定國家必大焉先先焉

旃之焉切旃者之焉之合也

旃ハ之焉ノ二字ヲ合セタル意ナリ文ニ重ク体用ヲ具シテ

書ク時ハ之焉二字ヲ連用ス輕ク用ハカリヲ云時ハ旃字ヲ用ス

桓初虞叔有玉虞公求旃法舉茲以旃

居音姫居者度其所處以呼道之之辭

居ハ其ハ言ヘスエテ言テニル意ナリ

邶日居月諸胡迭而微誰侍立乎前曰何居乎

成誰居後之人必有任是天誰居其孟椒乎

諸之諸者之於之合也

諸ハ之於二字ヲ合セタル意ナリ之于之乎ハシヨモ假リ

用ニ体用ヲ具スル時ハ之於之于之乎ト二字連用ス輕ク

用ノミヲ云トキハ諸字ヲ用ユ

成<sup>ニ</sup>會<sup>ニ</sup>于<sup>ニ</sup>戚<sup>ニ</sup>討<sup>ニ</sup>曹<sup>ニ</sup>成<sup>ニ</sup>公<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>執<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>歸<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>京<sup>ニ</sup>師<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup> コノ諸ハ之于

倍<sup>ニ</sup>執<sup>ニ</sup>衛<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>歸<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>于<sup>ニ</sup>京<sup>ニ</sup>師<sup>ニ</sup>實<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>深<sup>ニ</sup>室<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup> 上六重クテ之ニトキキ 下八輕ク諸字ヲ用ク

擅<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>反<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>幽<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup> コノ諸ハ之于 ノ意ナリ 論<sup>ニ</sup>山<sup>ニ</sup>川<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>舍<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup> コノ諸ハ之于 ノ意ナリ

祭<sup>ニ</sup>勿<sup>ニ</sup>勿<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>欲<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>饗<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup> カクノ如ク貌ノ形容ニ 用ル時モ同意ナリ

郊<sup>ニ</sup>特<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>彼<sup>ニ</sup>乎<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>此<sup>ニ</sup>乎<sup>ニ</sup>或<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>遠<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>乎<sup>ニ</sup>

復<sup>ニ</sup>宣<sup>ニ</sup>待<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>乎<sup>ニ</sup> 之ヲ於ニミタ ニ乎ナリ

上<sup>ニ</sup>揭<sup>ニ</sup>論<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>異<sup>ニ</sup>乎<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>求<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup> 公其<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>為<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>雙<sup>ニ</sup>雙<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>俱<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup> カ

○耳爾已那 夫耶乎歟

耳<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>止<sup>ニ</sup>切<sup>ニ</sup> ノイト歟 耳<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>止<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>合<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>

耳<sup>ニ</sup>ハ高<sup>ニ</sup>ガコ<sup>ニ</sup>レ<sup>ニ</sup>ヤト<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>グ<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>ヒ<sup>ニ</sup>コ<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>レ<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>マ<sup>ニ</sup>フ<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>

論<sup>ニ</sup>前<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>戲<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>耳<sup>ニ</sup> ノイ 荀<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>恭<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>止<sup>ニ</sup>矣<sup>ニ</sup> 而止二字連 用ノ法ナリ

複<sup>ニ</sup>荀<sup>ニ</sup>雜<sup>ニ</sup>識<sup>ニ</sup>志<sup>ニ</sup>順<sup>ニ</sup>詩<sup>ニ</sup>書<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>耳<sup>ニ</sup>則<sup>ニ</sup>末<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>窮<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>不<sup>ニ</sup>免<sup>ニ</sup>為<sup>ニ</sup>陋<sup>ニ</sup>儒<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>

爾<sup>ニ</sup>如<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>切<sup>ニ</sup> カテアルト歟ス 爾<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>紀<sup>ニ</sup>此<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>如<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>辞<sup>ニ</sup> 語尾 之爾

爾<sup>ニ</sup>ハコ<sup>ニ</sup>ソ<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>デ<sup>ニ</sup>アル<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>意<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup> 耳ハ往ニ属ス已ハ來ニ属ス 爾ハ往ヨリ來ニナルナリ

檀弓祭祀之禮主人自盡焉爾重ク云タル全斯盡其道焉耳

輕ク云タル  
故耳ナリ

已音異去声 已者示無復有其他之辞語尾之已

已ハモフツレギリニテスミテアルト埒ヲ付テ云辞ナリ

元後雖悔之不可食已

而已アトデモフニ而字ヲ加レハ一段  
コレテサフシタアトデソレギリナリ 而已矣ソノスエガモフツレ  
ギリニ定ツテアル

魯仲連傳梁王安得晏然而已乎 且昔而止之合也

曾子問何必小功而已全 豈大功耳前ニ小功而已ト云タル  
アル故ニ、ニテハ言ナリタル

復用ハ莫余毒也已也字毒ニ係ル  
巳字全文ニカハル

已矣 已夫 已耳 耳矣 也耳 乎爾 也爾

也已矣 焉耳矣 而已爾 而止耳復用スル  
一々例ヲ奉ル及ハズ

那去声奴取切 那者詔彼之失所之辞

那ハイカント訓シテナシデアルト問フ意ナリ

後漢韓康傳公是韓伯休那舊說ニ那ヲ語餘聲トシ梅賾作モコレヲ引  
タレ此那字下ノ句ヘ屬シテヨム說ナリ按ルニ

那字語声ニ用タル  
他書ニ見エズ  
旧說非ナルベシ今此例ニシラフベカラス

夫カカナ 夫者認此以屬彼之辞語尾之夫

夫ハアノコト、外ニシテ言フ辞ナリ句尾ニアル時ハ上ノ文意

直チニ斥シ言ハズシテヨソナガラチゾラヘテ云フ意持之夫ヲ疑辞ト注スル誤

可無憂夫可無憂矣可無憂也ナド、同ク憂ルナキト云意ニナルナリ此ニテ夫ノ疑辞ニ非ルヲ知ヌベシ可無憂又焉

可無憂乎可無憂與可無憂邪可無憂哉ナト此自反語ナリ故ハ疑辞ニ非レバツヨクコダツケテ云フ字ナルニハ語勢ニテ反語ト

ナリ也ハタダスチワケル故ニ豈可無憂也何可無憂也ナトカケバ反語ナリ矣字夫字ナレバ上ニ豈何ナド一字ヲ置クハナ

昭二 十八 女遂不言不笑夫 用復子古人之糟魄已夫

揭韓王於戲悲夫夫計之生熟成敗於人也深矣コレハ悲夫ノ終ノニアルベキヲ上ヘ引上テ語勢ヲ切ニシタルナリ悲夫ハ悲シヒカナアノコト、云キニナリ明界コリ幽界ヘユキテ言フナリ

耶 以遮切 又作邪 耶者半信半疑之辞

邪ハテアルカデアアルマイカトト返シツウララ返シテ言フ

辞ナリコト入テ深ク推ラマワシテ云フ氣味ナリ

昭二 十六 不知天之弃魯邪 我此其以賤為本邪非乎

項羽 本紀 舜目盖重瞳子又聞項羽亦重瞳子羽豈其苗裔邪

貨殖 傳 豈非道之所符而自然之驗邪 コトニ條ハ豈ノ下ニ非字アリハ非字ナレ語意相反スル

ニ似テ相反セス紛ラハシキ外ナリ豈反語ナル故ニ豈其苗裔ノ四字ニテ豈其苗裔ナラヤト云語ナルヲ耶ノ疑辞ヲ加ヘタル故ニ

カエツテモレ苗裔問デアアルマイモダモナイト云フニカエル非字アルハ又ソレヲトカヘ返シテ深ク論シタルナリ

累子莊人大喜邪毗於陽人大怒邪毗於陰

荀將以為智耶則愚莫大焉將以為利耶則害莫大焉

神人尚肯耶不耶肯不二字ニテモ聞ヘテアレトモ疑ラ

乎又作辱乎者呼道之以達情於彼之辞

乎呼ハ呼ノ義ノ深キテ人ニ云ヒカケル辞ニテ別ニ意味アルニ非

ス呼カケテ向ス意ヲ注キテ聞者ノ心ヲ引出ス之疑意ニモ

决意ニモ拘ハズ上ノ云カクタル文勢ニテ疑ニモ决ニモ用ナリ

論不亦說乎ハタ悦ハキ乎コトハナイカ乎ハ乎日天乎仲為不道殺適立

庶天ヘ呼カケ也乎矣乎哉乎已乎

乎哉諸乎ミナ句尾複

用累昭已乎已乎非吾黨之士乎

上揭李廣傳曰惜乎子不遇時語ヲ切ニ聞シムル為ニ先最初ニ惜ヒソヤチ

論惡乎成名惡成名乎トイハハ緩ナル子道惡乎在

子孟辭尊居卑惡乎宜乎コレハ下ノ乎字マタ言

歟又作與歟者教彼聞而裁其然之辞

與ハ我心ニ大槩カアラフカトキワメテ向フノ心ヲ推尋ル辞

ナリ我カ思フヲ云ヒ聞セテ向フニテ然否ヲ判斷サセル

意ナリ與字ヲ用ユレハ語氣柔テナリテ向フヘ遠慮スル

様ニナル故ニ語氣厲シキ處ニハ與字ヲ用ヒズ語氣ハ

ゲシキ時ハ乎字哉字ナドヲ用ユ孰與ノ與ハ上声ナリ

乎夫與ノ別ハ乎ハ呼カケテ語急之夫ハヨシニ云辞ニテ語緩之與ハ向

フ之投カケテ云キ之夫ハ往ヲ主トス乎ハ來ヲ主トス與ハ往ヨリ來ヘユク

此之謂與此ノ謂デ此之謂乎謂デ有此之謂夫謂デ此之

謂矣謂ニ定ツ此之謂也謂ノスチ此之謂也夫謂ノスチテ

吾未之見也 覆韓詩 用外傳是非類與乎

論語 道之將行也與命也道之將廢也與命也

揭僂十三其人能靖者與有幾有幾與ノ意ナリ舊說ニ同

調其與能幾何能幾何與全何辞之與有全

檀師與有無名乎有無名與乎

○止只軼咫 里思忌且

止止者注意於其所底至之辞語尾

止八行ノ反ニテ意ヲ其地位ニ留メテイフナリ

齊風 日月陽止 女心傷止

只シ ガリト誤ス 只者見此有而彼無之辞語尾之只

只ハ其ノミニ成テアルナリ 止只相近シ止ハ体之只ハ用ナリ

周南 樂只君子 福履綏之襄二 十七 諸侯歸晉之德只

軼シ 咫シ 軼咫並與只同 同音ニテ通シタル

莊子 而奚來為軼 晉吾不能行也咫 咫字韋注ニ咫尺間トスルハ非ヤリ只ト同ク語助ク

里リ ゾト誤ス 里者質其所處之辞

里ハ其地位ヲ求メテ言フナリ 居ヲヤト訓スルト相似テ里ハ靜ナリ居ハ動ナリ

大雅蕩 瞻仰皇天 云如何里

思シ コニニ平声 思者冀其用心於茲之辞

思ハ其所ニ思ヒテ運シテ見ヨト云意ナリ

大雅蕩 神之格思 不可度思 矧可射思

忌キ 忌者躬尋思之而不自已之辞

忌ハ深ク其ヲ想ヒヤリテ躬ニツケテ見ル心ナリ

鄭風 叔善射忌 又良御忌

且シ 子魚切平声 且者姑此處之之辞 次且ノ且ト同義ナリ



且ハチヨツトスワリニスル意ナリ 且ニカツマサニナド訓スルトキハ七也切テ上声之下ニ詳ナリ

唐椒聊且遠條且 用鄭狂童之狂也且

風左執篋右招我由房其樂只且 只且カクバカリト訓ス且ハカクナリ只ババカリナリ

○而其猗兮 此員斯胥

而 サシテト訓ス 而者擬有越以承之之辞 語尾

而ハマダ其跡ニ言フコル心ニテ詞ヲ殘シテ餘意ヲモタセタルク

宣若敖氏之鬼不其餒而 言ライヒ終ラズシテヤメタルナリ

用齊侯我於著乎而充耳以素乎而 乎而サフシテマアト訓ス而ハサフシテ乎ハマアト

累論已而已而今之從政者殆而 揚雄太玄魁而顔而玉帛班而

其 其者注意於彼以指示之之辞 語尾

其ハソレノ方ト指テ用ニシ言フナリ 居ト相近シ其ハ用ニ属シ居ハ体ニ属ス

魏子曰何其 商書微子若之何其

猗 アソト訓ス 猗者示軟然若不自勝之辞

猗ハホソクトヨハクシク出ル声ナリ アト訓スル法 下卷ニ出

魏河水清且直猗 誓斷斷猗無他技

兮 兮者令語函餘響以遠及之辞

兮之為聲馨也  
香之遠聞曰馨

兮ハ語意ヲ引ノバシテ心ニ味テ持テ

居テ餘韻ヲ含マセタル辞ナリ

子禍兮福之所倚

今ハ辞賦ニ多クアル字  
ナルニ例ヲ奉ルニ及ハズ

些去声  
蘇箇切

此者且之轉也

此ハ且ト同意ナリ

鄭風ナド且字楚音ハ清高  
ナル故ニ轉メ此トナリタルナリ

宋玉招魂去君之恒幹何為兮四方些

員

員亦云也 云字見  
于後

員ハ云ト同義ニテ言フコガアルト云意ナリ

云ハ体  
員ハ用

鄭風 綰衣綦巾聊樂我員 樂我員ト解スルトキハ助字  
ニ非ス姑ク旧注ニ因テマニ録ス

斯

斯者舉其有條紀者之辞 語尾  
之斯

斯ハ其路合ヒラ持テイフ辞ナリ

コレト訓スル  
例下ニ出

藻 二爵而言言斯 注斯猶  
言耳也

小雅 莞彼柳斯

胥 平声

胥者相泊以處之之辞 語尾  
之胥

胥ハスワリニスル地位ニイタリタルライフ辞ナリ

且ハ休  
胥ハ用

小雅 君子樂胥受天之祜

右矣ヨリ胥ニ至ルマデ皆語末ニ用ル字ナリ

句ノ中間ニテ  
ルトキモモト

語尾ヲ主トスル字ナルニハ  
ソノ字ニテ語意切ルト知レソノウチ矣ヨリ歟ニテ十六字ハ韻文

ニモ散文ニモ通シテ用ル辞ナリ止ヨリ胥ニ至ルニテハ韻文

ニ限リテ用ル辞ナリ只而今ナドノ字散文ニタシクアレモ皆  
諷誦ノ意ヲ帶ルトコロニ非レハ用ヒスナリ

○蓋夫彼渠 伊侯維惟

蓋カイ  
ケダシ  
オホム子

蓋者占其梗槩以蔽之之辞

蓋ハ大畧ヲオサエテアテガフテ言フ意ナリ吾心ニテ下カ

ヘ構ヘテ云フキミナリ蓋ヲ疑辞謙辞ナド注スルハ大ニ非  
ナリ疑意モ謙意モアルコトナレモト

蓋織キヌガサノ蓋ヨリ出タル字ナリ孝經孔傳ニ蓋者稱幸較  
之辞ト云注的當ニ幸較ハ

酤權ニテ上ヨリ定數ヲ  
立テ其利ヲ占ムルコトナリ

蓋夫 蓋嘗 蓋聞コノ類スベテ發端ニアルハ蓋ノ字  
意其下一段ノ全文ニ蒙ルナリ

其人蓋少矣句腹ニアルハ其下ノ少矣ノ一語ニハ係レテ字ク  
多クアル字故例ヲ奉グス下例ヲアゲザルモノ此ニ倣ヘ

夫フ  
カソレ アト訳ス 夫者認彼以属此之辞語頭  
之夫

夫ハ其事ヲ客ニレ言フ時夫字ヲ冠ラレムルナリ語尾  
ノ夫ハ

我ヨリ彼ノ明界ヨリ幽界ヘユキテ言ナリ語頭  
ノ夫ハ彼ヨリ我ナリ幽ヨリ明ヘトリ來ルナリ

楚人謂夫旌子重之麾也 五羸夫非而讎乎

覆フク子夫是之謂天君



侯コレ 又作侯

侯者處於其所標的之辭スル

侯ハム方テ其目アテニアタリタル処ヲ云ナリ

射侯ノ字ヨリ  
轉用タルナリ

周頌  
載 侯主侯伯侯亞侯旅

維コレ

維者實其物繫往之之辭スラ

維ハ其物其事ヲ此地位ニツナギトメテ言フナリ

南維ハ其物其事ヲ此地位ニツナギトメテ言フナリ

惟コレ

惟與維同

禹厥草惟ハ絲厥木惟ハ條維ハ物ヲツナギトメテ置クナリ  
惟ハ心ヲツナギトメテ置ク

○粵曰聿繫言猷爰時

粵エツ  
コニ  
オヒテ  
フヨシテ 又作越

越者有踰邁以來及茲之辭スラ

越ハ段ウ子踰テ其處ニ來リ及ヒタルヲ云

越ノ字義ハ高キ上ヘテ踰テ  
又卑キ処ヘ下リタル意ナリ

詔惟二月既望越六日乙未王朝步自周

曰エツ  
コニ

曰與粵同

秦我送舅氏曰至渭陽

聿エツ  
コニ 通同

聿者度其所之以位之之辭スラ

聿ハ其子キノ地位ヲ計リテ云意ナリ

ツイニト訓スルモ同  
義ナリ例下ニ出

漢食<sup>コニ</sup> 貨<sup>コニ</sup> 患<sup>コニ</sup> 聿<sup>コニ</sup> 為<sup>コニ</sup> 改<sup>コニ</sup> 歲<sup>コニ</sup> 詩經ニ曰為改歲トアリ曰聿音近キ故ニ通シタルナリ

繫<sup>コニ</sup> 繫者思<sup>テ</sup>之<sup>ラ</sup>而位<sup>ス</sup>諸<sup>ス</sup>心<sup>ニ</sup>之<sup>ク</sup>辭

繫<sup>ハ</sup>心<sup>ニ</sup>テ<sup>コ</sup>ノ<sup>ク</sup>処<sup>ニ</sup>ト<sup>バ</sup>レ<sup>ヨ</sup>ラ<sup>テ</sup>立<sup>テ</sup>言<sup>フ</sup>ナ<sup>リ</sup> アハト訓スルモ同義ナリ例下ニ出

僖<sup>五</sup> 民<sup>不</sup> 易<sup>レ</sup> 物<sup>惟</sup> 德<sup>繫</sup> 物<sup>ハ</sup>

言<sup>コニ</sup> 言者從<sup>テ</sup>其所<sup>出</sup>以<sup>テ</sup>位<sup>ス</sup>之<sup>ク</sup>之<sup>ク</sup>辭

言<sup>ハ</sup>ズ<sup>ツ</sup>ト<sup>ク</sup>其<sup>マ</sup>ノ<sup>ク</sup>バ<sup>レ</sup>ヨ<sup>ニ</sup>ト<sup>ク</sup>云<sup>ク</sup>處<sup>ニ</sup>用<sup>ユ</sup>

周<sup>南</sup> 言<sup>告</sup> 師<sup>氏</sup> 言<sup>告</sup> 言<sup>歸</sup>

猷<sup>コニ</sup> 猷者擬<sup>シ</sup>度<sup>シ</sup>以<sup>テ</sup>位<sup>ス</sup>其所<sup>道</sup>之<sup>ク</sup>辭

猷<sup>ハ</sup>心<sup>ニ</sup>謀<sup>リ</sup>テ<sup>ク</sup>其<sup>ス</sup>テ<sup>ク</sup>云<sup>ヒ</sup>出<sup>ス</sup>ナ<sup>リ</sup> アハト訓スルモ同義ナリ

大<sup>誥</sup> 猷<sup>大</sup> 誥<sup>爾</sup> 多<sup>邦</sup> 越<sup>爾</sup> 御<sup>事</sup>

爰<sup>コニ</sup> 爰者得<sup>テ</sup>所以<sup>テ</sup>位<sup>ス</sup>之<sup>ク</sup>之<sup>ク</sup>辭

爰<sup>ハ</sup>コ<sup>ソ</sup>ト<sup>シ</sup>テ<sup>ク</sup>其<sup>所</sup>ヲ<sup>得</sup>タ<sup>リ</sup>ト<sup>ス</sup>ル<sup>意</sup>ナ<sup>リ</sup>

豐<sup>沮</sup> 玉<sup>門</sup> 百<sup>藥</sup> 爰<sup>在</sup> 爰<sup>ハ</sup>大<sup>物</sup>端<sup>ニ</sup>アリ

時<sup>記</sup> 時者示<sup>ス</sup>當<sup>ラ</sup>其<sup>宜</sup>然<sup>之</sup>之<sup>ク</sup>辭

時<sup>ハ</sup>サ<sup>フ</sup>ナル<sup>ベ</sup>キ<sup>バ</sup>レ<sup>ヨ</sup>ニ<sup>當</sup>リ<sup>タ</sup>ル<sup>ヲ</sup>云<sup>フ</sup>

湯<sup>誓</sup> 時<sup>日</sup> 曷<sup>喪</sup> 則<sup>チ</sup>少<sup>事</sup>長<sup>賤</sup>事<sup>貴</sup>共<sup>師</sup>時<sup>ニ</sup>

右蓋ヨリ時マデ十六字ハ語頭ニ用ル字ナリ 彼渠時ナトハ句尾ニ用ルアリ

中間ニアルトキモ皆下ノ語意ヲ引起ス勢ナリマタ侯曰

聿緊言猷時ノ七字ハ韻文ニミ用ルナリ 散文ニテモ詰命ノ体ニ擬スルカ又

ハ古人ノ成語ヲ切コシ  
各処ニハ用ルアリ

○云噬烝逝 此是斯茲

云  
ワ  
フニ

カ  
イ  
ノ  
下  
言  
有  
所  
蘊  
曰  
云

云ハカフ言フコガアルニト云意ナリ 云ハ往ニ属ス言ハ見入テニ属ス

邨道之云遠曷云能來 遠キト云コガアルニヨク  
來ルトイフコガアルマ

又云字ヲ句尾ニ置ク云云意ニテマダ言フコノアル意ナリ

伯夷傳 蓋有許由冢云 大宛臨大澤無崖蓋乃北海云

噬 コニ 噬者有所豫古以發之辭

噬ハコノ處ハト心ニカミシメテ發スル声ナリ アト訓スルモ義同

唐彼君子兮噬肯適我

烝 コニ 登進而有以結鬱曰烝

烝ハ氣滿テ鬱結シテ出ル声ナリ アト訓スルモ義同

烝在桑野 スニテ桑野ニ在リトヨム時ハ助字ニ  
非ス姑ク旧説ニ從ツテ録ス

逝 コ、ニ 往而不反曰逝

逝ハユキ去ツテカヘラヌ處ヲ云ナリ

邛乃如之入逝不古處 ユキテ古處セズトヨムトキハ助字ニ非ス姑ク旧説ニ從ツテ録ス

右云噬ハ韻文ニ用ル字ナリ烝逝ハ詩經ニアルニテ後世ノ文ニ見ヘス

此 コ、レ 對彼以舉其敵曰此

此ハ彼之反ナリ体ニ屬シテ其マヘニアルヲ斥ス辭ナリ

苟有物於此 爰有大物 爰字ニ上ニアルナリ此字ハ上ヲ承ル字ニ發端ニ用ルナリ

子孟於此有人焉入則孝出則悌 於此ハ上文ヲウケテ置キ有人ハ孟子己カコトヲ云テ見當ナリ

ナルユヘ体ニシテ下ニ置リ 又有人於此毀瓦畫墁 コレ無キ人ヲ假リ設クテ有ルヲ用ニシテ上ニナリ

非此其身也在其子孫 此人ノ其身ナリ 此非其身也 此事ナリ

是 コ、レ 對非以舉其實曰是

是ハ非之反ニ用ニ屬シテソノウチノ様子ヲイフ 此往ヲ主トス是ハ來ヲ主トス

此是斯之別ハ此ハ上ノ文ヲ主トシテ上ノ語ヲ引括リテ兼ケテ持テコノ事ハト云フ意ナリ 是ハ下ノ文ヲ主トシテカフ云フモノトツ持テ云意持

下ヲ喚起ス此ハ事ノ上ニテ彼ニ對シテ云 是ハ吾心ニテ是非ヲ分チテ云期ハ上下ニ主客タズ上下ヘ平ラカニ係ルナリ之ハツ指シモノアリ

僣此之謂瓦解是之謂土崩 瓦解ハ体ヲ云土崩ハ用ヲ云故ニ此ト是ト別チタルナリ

山海經 潛為之國是此毛氏 是字潛為之國ノ用ヲ指シ此字其マヘノ文ヘ係リテ今見ル處ノ毛氏ノ國ヲ





アルト確タシカニソチエヲ立テ、言フナリ

三年于茲ニ三年ノ月日ノタチシ 于茲二年コトハシヨラ歴シ

今茲コトシ 來茲來年

人所以立信知勇也信不欺君知不害民勇不作乱

失茲三者其誰與我ニコノ茲字モシ此字ナレハ三者ノ体ヲ云ニ

是字ナレハ三者ノ用ヲ云ナリ斯字ハ

コ、ニト訓スル類複用 爰在 緊有 於緊 粵者

茲者 于寔已上中間アリ

于爰 於焉已上中間ニアリテ句頭ニモ 于斯 於斯

于是 於是 於此 于此 于茲已上中間ニモ結

句腰句尾共ニ用煩

○於于乎都 寮寔且之

於者舉之處諸此之辞古文作爰ニテ

於ハ体用ヲカ子テ下ト上トへ係ルナリ此地位ニテカフアル

ト云フ意ナリ於ハ上下ノ字

于者安其所處之辞皆我ニ屬ス

于ハ体バカリニ付テ下ノ字ノバシヨラスヘタルノミナリ彼地位

ニハテカフアリタルト云意ナリ 于ハ下ノ字 彼ニ屬ス

乎 テハ 乎義見于前

乎 之乎 八用バカリニテ上ノ字ノ様子ヲ語ルミナリ此ノカ

彼方ニテ斯クナルゾヤト云意ナリ 乎ハ上ノ字 彼ニ屬ス

志於道 道志ス全体ノ用ラスヘテ云ク 志于道 志サス所ノヤフスヲ云クコノ 物カトノ辨

別ヲスエテ云ク彼道ト 志ヲ立ルナリ 志乎道 志サス所ノヤフスヲ云クコノ 道ニ彼志ヲ立ルナリ

論語 南官适問於孔子 孟或問乎曾西 論語ハ問於孔子 ト云フヲ文ノ正南

ニ立テ主トシタル故ニ於字ナリ孟子ハ子孟子公孫丑ヘン彼言ノ 中ニ曾西ノヲ引タルニテカフ云フ或問シテモ有タルゾヤト形容テ

云タル故ニ乎字ナリ莊子太ト持論中ニハ於字ナルベキ所ヲ多ク 乎字ニシテアルハ皆此例ニテ幽界ノ心思ヲ深クモタセタルナリ

閔 殺之于夷 夷ハレヨニ 瑯青出之於藍 藍ト云体ニ出スト 云ラ用ヲカケタリ

周勃 匡國家復之乎正 コレヲカエ シタゾ

其哉 武王竟至周而卒於周 ヒト通り死シタル処ヲ記スナレハ于字 ナリ 秦ニ死スヘキモノガ周マテ來テ

死シタルツノワサヲ述ル 成 穆姜出于房 出タルハレヨヲ記ス 意ニテ於字ヲ用タリ

出タル様子ノワサヲカケテ於字ナリ往々各キ ノバシヨニ對シテ出タル処ヲ奉ルトキハ自守ナリ

襄二 涉於樂氏門于師之梁縣門發獲九人焉涉于泥而 十六

乃吾下

歸於樂氏ハ本路ニ非ル処ヲスサニ通リタルユヘ

九學室於怒市於色假設ノ語ニテ上ニ如若ナドノ字アルベキ所

故ニ室市字ヲ活動シテ上ニ置タルナリ實事ヲ

四昭不脩政德亡於不暇昭一唯蔡於感此ニ夕臆度言カ

必感於蔡ナド、カクキ処ヲ上ノ字ヲ

雅心乎愛矣遐不謂矣乎字上ノ於

於人監監於水トカクキニ似タル処ナレ水ト人トノ辨

項紀今盡王故王於醜地而王其群臣諸將善地群臣諸

主ニシテ云タル故當向一レテ助字ナレ

世家茅蘭說王使乘布車從兩騎入匿於長公主園コレハハカクシ

ハ敘ヘタルワザヲ云故公孫詭羊勝匿王後宮タル明界ユヘ

助字春於越人吳

焉於語尾ニ用ルナリ語頭

論友于兄弟施於有政コレニテ于於ノ別ヲ見ベシ于ハ

南之子于歸歸ハシヨラ上帝既命侯于周服侯服于

周天命靡常于周服ハ周ニオイテスルコト主トシテイヘル

小雅 申伯還南謝于誠歸于謝トアルヘキニ似タレトモ

鄘 期我乎桑中要我乎上宮明界ノ叙事ナレハ于字ナレヘキ

今コニテハ假設ノ形容 庸莫見乎隱莫顯乎微隱レタルモ

ル、ヲ云ニ非ス隱シテアレドモ却テ外ノアレハレテアルモノヨリハアキラカ

如傳 聲稱決乎于茲熟連シタル

累大雅 于周于京 孟號泣于旻天于父母

都者相翕以處之之辭

都ハソレコソ此ハレヨニト云処ニ用ニ例並ニ下卷ニ出

司馬指如 終都攸卒此賦ノニテ他書ニ用タル

向 其方此賦ノニテ他書ニ用タル

案 案者貼此其所奠地位之辭

案ハ其バレヨニヲナツキテ言フナリ

苟是案曰是非案曰非 敵國案自屈矣

覽今置質為臣其主安重 策秦禍安移于梁矣

寔 寔是之迹曰寔

寔ハ是ノ字ヲオモクシテ其跡ヲイフナリ

身言界象

仲禮之詰簡賢附勢定繁有徒

且上声七夜切

將有所移姑此處之曰且

且カツチヨツトユトリヲ付テル意ナリ同シ例巾卷ニ出ス

周頌匪且有且

之コシ之者注心於其所識別之辭

之ハユクト訓スル時ハ此ヨリ彼へ移ルスチヲ云フ字ニテ明

界ノ文字ナドモ助字ノ時ハ記者ノ心識ヲ其方へ方

シテ其理ヲ指レ言フ辞ニテ明幽兩界ニ涉ル之ルテ之

字ハ神用ノ字ニテ其人心ヲ其物ニ注クテ想ヒヤリテ云

処ニ置ク當ノ主タルモノヲ立オキテ其中ヨリ引ワケテ云キ之字ヲ付ル又其主タルモノニ對シ外ノモノヲ容ニシ云時ニ之字ヲ用ユ

周南葛之覃兮被葛ト云モノカソレカ覃ヲタナハト云フ之眼前

陳平子之居楚何官已前楚ニ居タリシ既往ノコトヲ問フニ之字アリ今楚ニ居ル人ナレハ之字ハイラヌナリ

平畏讒之就固請得宿衛中今讒者アルヲ畏ルニ非ス將來ニ讒ノ就コトヲ畏ルナリ

傳耳應侯之用於秦也孰與文信侯專文信侯ノ方主ナルユヘニ之字ナシ應侯ノコトヲ

客ニシタルユヘ子ト他ノ者ト子之所戰處子ト他ノ者ト子所戰之處

戰ト辨別ナリ何心ナシニ戰ノ處ヲ云タルノミナリ

凡テ讀クモニ之ノ声ヲ用ユルニ之字ナキハ皆明界ノ  
現前ニ有ルハイツニテモ之字ヲ除ルハ當然ナリ

之ヲコレト訓スルトキモ同義ニテ之ハ上ノ文段ノ中ノ物カ

事カラ指テソレヲソレニナド云處ニ用ユ

之ト馬トノ別ハ之ハ体ニテ其一物一事ヲ指シ馬ハ用ニテト其ハシヲ指ス  
焉字ハ上ノ語ノ外ヘモドル之字ハ上ノ語ノ物カ事カラ下ヘ引來ル來往別アリ

莫之斯鑿 カンカミルヲ此 是之不鑿 コノ道理カアルニカレ

此之不鑿 コノノニカガコ 不此之鑿 コノノヲカガミ

久之 ソノノヲ其ナリ 久焉 其サフ有タ

桓 秦師侵芮敗焉 焉字ヒロク秦師侵三字ノ用ヲ 侵芮敗

之 之字芮一字ノ体ヲ指スユハ芮カ取ルナリ

傳 夫史舉下蔡之監門也大不為事君小不為家室以苟

賤不廉聞於世其茂事之順焉 之ハ史舉ノ人ヲ指ス焉

六 昭十 君子非無賄之難立而無令名之患 非難無賄患立而

ドモソノヲ彼ニシテ言タル  
ユヘカクノ如クカキタリ

語論 古者民有二疾今也或是之亡也古之狂也肆今之

狂也蕩古之矜也廉今之矜也忿戾古之愚也直今

之愚也詐而已矣 是字肆廉直ヲ指ス之字在矜愚ヲサス其

元隠愛其母施テ及ニ莊公詩曰孝子不賈ラ永錫爾類ラ其是之

謂乎是字詩ノ語ヲサス之字穎考叔フヲサス此之謂也斯之謂矣ナトモ此ニテ推スヘシ

之謂ソレカ來ヘユキテ何ク謂之ソレヲ名ソケテナラト云フ中庸天命之謂性

天命ト云モノガ人ニウケ持テ性ト云モノニナル自誠明謂之性自誠明ナルモノヲ名ケテ性ト云

荀君子之謂吉君子ニスルノガヤガテ吉ト云モノニナル傳商反聽之謂聰反聽ガコレ聰ビヤト云

謂之聰ト云トキハ善聽ヲ名ケテ聰ト云ト云未之見見字主テリテコレヲ見タカ見スカマダ見ヌト云意

見ルベシ未之有未之有之莫之知莫知之ナトモ此例ニテ知ヘレ

之字人名ノ語助ニ用ルコトアリコレハ声ノツリタル処ニ少シ

心ニ猶豫ヲ持テ之ノ声ヲ挾ミ之ル之字方葉集ニ和歌中ノ

子孟庾公之斯尹公之他八莊石之紛如其ノ

○厥其戎者以用式庸

厥ソノ者體彼以指片之之辭

厥ハソノ物ソノ事ヲ体ニシ言フナリ

典堯厥民折鳥獸孽尾離泥又貪夫厥家厥字詩書ニ多ケレ氏後世

韻文ノ外ハアマリ用ヒズ左傳六占筮ノ辞テハ厥字アリ

カ  
古  
之  
一



其キソソ

其義見于前語尾之其

其ハソレ方ト指テ用ニシ云フナリ

其ト夫トノ別ハ其ハ一物一車ヲ指ス夫ハヒロク彼ヲ包容シテイフナリ

有其德其字德 其有德其字ソ

以其道其字ソ

其以道其字ソ 其非義非其義

其非有其字物

非其有其字人 其無人其字ソ

無其人其字德

察其病其字病 其察病其字醫 有其其有其於其

傳十 秦不其然セサアルコトヲソレニハ 擅ハ其不然乎ソレハサアルコトニハセラレマシ

衛其雨其雨其字雨 用唐彼其之子碩大無朋法 不加喪不因凶所以愛

夫其民也 其諸 其與

戎ナソ 戎者斥彼之所内之辞

戎ハ彼ノ内ニ持ル所ヲサレ言フナリ

乃肇敏戎公用錫爾祉 戎ハ韻文ニ用

乃ナソ 盤設中于乃心

爾ナソ 義見于前 子其至爾力也 其中非爾力也

乃ナソ 下スナキ下ニ詳ナリ

乃ナソ 一レト訓スルト同意ニ彼今ニテノアサマヲサス

乃ナソ 義見于前 子其至爾力也 其中非爾力也

乃ナソ 彼多ク凡ト云処ヲサス



見語寄多

孟子徒法不能以自行以字徒秦誓以不能保我子孫以字下

雅以莫不增以字下子孟有司莫以告以字上

論羔裘玄冠不以弔羔裘玄冠ハ弔羔裘玄冠以不弔セトカ

不可以已ヤメラレヌ可以ト云フ

余以所見ソカ見ル以余所見ソカ見ル

以花喻美人此花ヲ以彼ノ美人ニ喻

以美人喻花此美人ヲ以カシノ花ト云モニ喻スナリ

トキハ較花及美人而

隔昭四紂作淫虐文王惠和殷是以隕周是以興是以殷

庸以用モナ複用ス

以為心ニサシヤ謂心ヲサシヤトシ惟イナ途ニ

想ソモフニ顧カハリミテ思フナリ

用イロフ顯然動而為之曰用ト

用八彼ニテソノ用ニナリタル所ヲ云以ハ我カラソク

祈父君子屢盟乱是用長是以七ハ盟カラトトガヲコリテ乱ガ長シ

敢用用字上敢獻功用字獻功

の吾家象

卷之上

四一六





合カフベシ 一カニ 以此推彼之宜然曰合

合ハ其恰好ガカフナリソフナ処ジヤト云フナリ 當ハ其理ツマラ云合ハ見分リニテ云

家桑穀野木而不合後漢杜林傳生朝不合翻移

須スベカラス 通作齊 セヨト云 須者命事之辞

須ハカフスルカヨレト命スルコトバナリ

策須以决事傳胥與公往見之須胥同音テ

應オウ オウサニ ナルベシ 平声 度彼之將爾曰應

應ハ外イヨクタルベシ推量ニテ云辞ナリ判断ノ辞ニ非ス 當ハ我應ハ彼

家語匹夫熒侮諸侯者罪應誅セシタル

容イヨウ ベシ 受彼以聽其所造曰容

容ハ我ヘウケ入レテ一段コレテ元シテオク氣味ナリ

不容自己自字我 自不容己自字彼

後漢馬援傳 受誅之家容因事生乱容字ベシト訓スレドモ當宜ナトハ大ナル違ヒアリ罪不當誅罪不宜誅

不可誅ナトハ皆誅セラレスト云フナリ 罪不容誅ハ誅フルサレスト云フナリ容ハ一段越シテ云字ナルユナリ

後漢李固傳 况受顧遇而容不盡乎容庸通シテ庸ライツクシツト訓スルト同ジト云フハ友語ト云ク

ベシト訓スル複用 可應 可宜 可須 應須 應可 當須

宜當 須可 當宜 當應 應合 應當 宜可

○攸所見被 遭遇受逢

攸 イウ トコロ

畫其地位曰攸 スウ

攸ハ我ヨリ其地位ヲ定メテ云 攸ハ來 所ハ往

小雅萬福攸同 ニル

攸字後世ハ韻文ノ外ハ用ヒス

所 シヨ トコロ

ハシト誤

奠其地位曰所 オウ

所ハ彼ニテ定マリテアル地位ヲ云 ラルト訓スルモ同義ニテ彼ノサフナリタル其物ニテリニイフ

所以 句腰複用ノ例ニテ以字ヲ上ノ語ヘカケテ見ルヘシ 信知人所以立 以ハ信

ナリ所ハ ナリ所ハ

聖德乎天地歲之所以無水旱也 上文歲ノテ歲 說來リテ歲

字主ト ナリ

聖德乎天地所以歲無水旱也 上文聖德ノテ主 說來テ聖德ヲ主

ナリ トヒル

其所不知 非其所知 所其不知トカケ ハ不成語ナリ

爾所 ソコ

處所 處ハシ

見 ケン 去声

值彼之接我曰見 スレ

見ハ向フカラサセラルナリ

億二 隨之見伐不量力也 所見 為見 見被 為所

被 ヒ 受其掩冒處之曰被 スル

被ハサフナリテソウウチニ在ル意ナリ

魯仲連傳以萬乘之國被圍

所見ノ二字ハ体ニテ彼ナリ被ヨリ以下ハ皆用ニ我ナリ

遭カウラル

遭ハメグリアナリ

東帝紀遭太后虧損至徳

行復相値曰遭匝ト同音ナリ

遇グラル

遇ハ出クセサナリタルナリ

溪巧出乎不意曰遇

子非見下節而遇卑賤

受シウラル

受ハソコヲ我ニウケトメタル云

從而有以獲曰受

後漢植帝紀

李膺等受誣為黨人

逢ホウラル

中路相遇曰逢

逢ハ中途ニテタカヒニ出アラフ云

後漢書將杜根逢誅

覲コウラル

遇ト義近シ

蒙ボウラル

被ト義近シ

獲クワラル

受ト近シ

得トクラル

同上

取シラル

同上

カス多キニ例ヲ思ハス

為風所吹

為風吹

為風之所吹

為風見吹

風見吹

被風吹

遭風吹

遇ヨリ以下取ニ至ルニナ

コレト同例ナリ

イッレニテモ比自コノ例ニテ所見ニ字ハ其物ノ下ニ置ク其餘ハミナ其物ノ上ニ置ク之彼我ノチカヒナリ



○振道緣因 由繇自從

振ヨリ

收整而有以發起曰振

振ハ其ウチヲトリオサメテ云意ナリ

振字ヨリト訓スレモ 振古外ハ甲ルナシ

周頌匪今斯今振古如兹

古ヲ振テトヨム時ハ助字 非ス姑旧説ニ從テ録ス

道タカヨリ

依此以達其所住曰道

道ハソレフミチニシテタヨリ來ル意ナリ

韓非有玄鶴二八道南方來

全樗里疾已道亢聞之矣

緣エンヨリ

遵其所隈曰緣モトヨリト訓スルヨリ轉用ス

緣ハソレヨリシテ行ク意

蕭此火異所緣而起也

因インヨッテ

ソレ付テ

係彼而坐此曰因

因ハ幽界ヨリ出テ明界ヲ言フ之壁ハ化シテ異物トナルガ如シ

傳田儀自立為齊假王漢因而立之傳卒於陶而因葬焉

由ユヨリ

通作猶

コレ付テ

循此而届彼曰由

由ハ明界ヲ言フテ幽界ニ入ルナリ壁ハヤハリ其物ニテ形

色變スルガ如シ

因ハ体ニ属シ來ヲ主トス由ハ用ニテ往ヲ主トス緣ハ因由ヲカ子テ其間ヲ云ク

孟子由平陸之齊

平陸ニ居タルヨッテソレヨリユキト云意

由是觀之

ココロヒツキテカクゾヒス

由爾言余ノ言ニシタカフ

因爾言余ノ言ニ付

繇ヨツテ

繇音由繇ハ由字ノ重クシテ  
体用ヲカ子スル処ニ用ユ

無繇教訓其民繇モト係役ノ字ニテ音揺ナレ  
トモヨルト訓スルトキハ音由ナリ

自ヨリ

カラト訣ス

對他舉其所出曰自

自ハ其中間ヲ除ケテ向フサキヘ對シ唯其出ル処ヲ舉ルナリ

東方自出東方ヲ見テ非レハ  
ソレカラ出テスル

出自東方出ルハ東方カラス  
入ニ對シテ云

自東方出外カラハ出又東  
カラ出テスル

來自東 自東來 始自漢來自漢始  
大トシテ此例ナリ

論語 矣自曰自孔氏

自南門入 出自東門定  
六  
ミナ上ノ例  
テ推シ

夏氏之乱成公播蕩又我之自入

周子頽之乱又

鄭之由定

昭叔出季處有自來矣

モトカラ叔出季處  
ニナリテアルナリ

有由來矣

由字ナレハヨリシテ  
彼ノニナリ來ナリ

還自南河濟

晉侯濟自泮

楚師分涉於彭

コトハ本路ニ非ル処ヲサニ  
通りタルニ於テ字ヲ用ナリ

從ヨリ

ツズカテ訣

趁其所路而就之曰從

從ハ其中間ノ付テ行ク路スヂヲ云ナリ

タトハ京カラ江戸ト向フニ對  
シテハ自字ナリソノ行クハ

東海道カラスルカ中山道ヨリ  
行カトイフハ從字ナリ

昭從古以然

自古ハ古ノ始ト今ト云從古  
ハ古ヨリ今ニテノ問ヲイフ

用ヨリ自ヨリ從ソス付テカラ從ス自ヨリ於テ自ヨリ於テ自ヨリ於テ

楚ヨリ自ヨリ從ソス先君以至不穀之身ニ秦ヨリ法ハ之レ不レ行レ自ヨリ於テ貴戚ニ

楚ヨリ自ヨリ從ソス先君以至不穀之身ニ秦ヨリ法ハ之レ不レ行レ自ヨリ於テ貴戚ニ

○故肆為雖 俞爾然而

故コト肆カ為カ雖ニ 俞爾然而 語テ舊ヲ以テ待テ今ヲ曰ク故ト

故ハ其モトノ實ヲ舉テ言キカスナリ

隱ニ為ル公故曰君氏ニ 為ルト故ト重ルニ似タレ為ハ彼ニ

昭十我之不共魯故之以ハ 故ト以ト重ルニ似タレ故ハ其

韓ニ此所以無辨之故也ニ 閏六月葬莊公乱故是以緩ニ

僖ニ子玉收其卒而止故不敗ニ 閏侯不去其旗是以甚ニ

敗ハ故ハ上ノ語が主トナルナリ是以ハ 是故 以故 故因

為是故 夫然故 複用多キニ例ヲ思ハス

隔承ニ隱ニ太子少葬故有闕ニ 太子少故葬有闕トカクベキニ似タレモト

置ケリ臣故我故ト 此ニ准知スヘシ 故ト 疊用

肆カ者尋往以逮來之辭ニ 肆ハ往ラ去ラス

肆ハ故ニ今カ多ク云意ナリ 宋景濂ガ文ニ肆字ヲ飛端ニ用タル字 義ヲ明カモサルヨリ誤レリ肆コトニ訓

スルトキモ古書ニ比皆上ラ  
受テ故今ノ意ナリ

無肆中宗之享國七十有五年

肆後世六韻文  
ニ用

為イ  
去ラ  
去声

就彼而從獎之曰為

為ハカレツイテ我サスルナリ

故ハ体我ヲ主トス  
為ハ用彼ヲ主トス

論非夫人之為慟而誰為

誰為ハ外ノ者ニハセヌト云  
為誰ハソノ人ノ定ラヌ

與タメニ  
上声

彼トクニ合テスル意ナリ

策或與中期說秦王

雖イ  
トモ

イトモ

ケレトモト訣ス

雖者設兩以翻之之辞

雖ハソレハサフナレモ又カフ言フガアルト云意ナリ

檀雖吾子儼然在憂服之中

コレハ外ニ全文ノ主トスル処アリテ吾  
子在憂服之中ト云テ引クルナリ

容ニシ言タル故ニ吾  
子ノ字雖下ニアリ

吾子雖云云

トアレハ五ノ子ト云モノヲ主ニ立テ云  
ナリ凡テ物名ノ字雖ノ上ニアルハ

其物主  
ヨルナリ

車徒雖衆

車徒ト云モノヲ主ニ立テ云ナリ  
車徒アリテシカモ多クケレトモ

雖車徒衆

其人ヲ主ニシ云フ其人  
多ク車徒モアルケレトモ

雖衆車徒

車徒カ少ナセデハ  
ナイ多クケレトモ

年雖幼

年ノイヲオモニ論  
ジテ幼ケレトモ云

雖年幼

其人ノイヲ論ジテツイデニ  
年モ幼ナレドモト云タルナリ

其言人人雖殊ハ其人ヲ主トス 其言雖入人殊ハ其言ヲ主  
トス 雖其言人人殊ハ上ノ全文ヲ主トスヨリ類皆コノ例ナリ

雖曰云云

カヤフクニ言  
ハルケレトモ

雖云云乎

カフジヤヤ

雖云云也

カフ云スダ  
ジヤケレトモ

雖云云矣

カフニ定ツテ  
アルケレトモ

雖云云哉

キツトカフ  
アルケレトモ





而還リカヘ以還リカヘ而往リカヘ以往リカヘ 可得而聞求メテアトテ聞 可得ニ

聞聞エス 喟然而歎而字アルハ先喟然ト息ヲツキテ 喟然歎サテソレカラ歎ノ言ヲ發スルナリ

而字ナキハ當面ノ形 凡ステ假名テト讀ミテ而字ナキハ皆其語下ツギキ

十 隱 王室而既卑矣コレハ王室ニ字ノ内ニ王室ハ隆ニ有レモノト云

寬而栗栗而立コノ類ハ違フ多クモノヲ對シイフテ寬ナレ栗栗ナレ氏

隔襄焚書於倉門之外衆而後定而後衆定ノ意ナレ氏衆ト云

晉侯聞之而後喜可知也 及楚殺子玉公喜而

後可知也而後喜可知ハソノ時事ヲ記シタルニ常法ノ喜而後可知ハ後

荀明於持社稷之大義嗚呼而莫之能應而嗚呼ノ意ナリ

如如 七星隕如雨而字隔承ナリ

○親自居坐 尋行追隨

親ミツカラ 厚之而不外之曰親外ニモ

親ハ一サシク我手ニカケテスルヲ云 疏ノ反ナリ 親ハ用 躬ハ体

成 齊侯親鼓士陵城 躬キウ 身ミツカラニツケテスル

自ミツカラ 自義見于前

ミツカラト訓スルトキハ人ノサシツマタスワガデニスルヲナリ

不自忘 ミツカラ 自不忘 オツカラ 自不耐 オツカラ 不自耐 ミツカラ 無自自無ノ類 皆此ヲ推ヘシ

自如 タリ 自若 スリ 身自 カラ 親自 カラ 丰自 ツカフ

居 キコ 井ナカラ タ 置之於茲有定曰居

居ハ其地位ニ在テイマダ動カサル處ヲ云

雅居以凶矜ス 居頃 ル 居頃之 之字上ノ 居有頃

居無幾 シモ 居無何 クモ 居無幾何

坐 サ 井ナカラ ヨル 來之於茲有安曰坐

坐ハツガモナクヤスノトスル意ナリ 後世ノ詩語ニ坐ヲソノト訓スルモオルニツガモナキ處ヲ云ナリ

蜀諸葛亮傳 使孫策坐大遂并江東 追其跡而熟之曰尋

尋 ツイデ 尋ハモトアリシ事ノ跡ヲツギテスルナリ

宋書五行志 尋王恭起兵誅王國寶旋為劉牢之所敗

尋即 尋復

行 カク ツイデ ユクニ 平声 累步不止曰行

行ハ止之反ニテヤガテ其処ニ至ル意味ナリ

紀后 太尉行至 病亦行差

魏志華 紀后 太尉行至 病亦行差



追 ツイテ

ホトタト誤ス

認踪期其及之曰追

追ハ其アトヘ間ヲスカサズ來ル意ナリ

周書宣 ツイテ 帝紀 追尉遲氏入宮

隨 ツイデ

ヲヒクト誤ス

委彼之所次曰隨

隨ハ向フノニツキ行ク意ナリ

列子 隨生隨死

從 ツイテ 見于前

旋 ツイテ 見于後

○敢肯猥濫 聊頗向垂

敢 アユテ

スカト誤ス

敢者冒突不憚之辞

敢ハ遠慮ナクストサレ出ル意ナリ

不敢自量

自量ルヲ

敢不自量

自ラ量ルヲ敢テセヤ 必自量ラフト云フニ返ルナリ

不敢不勉

コレハ不勉ト云モノヲクリ

風蝮蝮在東莫之敢指

指スヲ

莫敢之指 指スヲ

莫敢指之 指スヲ

敢莫指之

反語

敢不敢弗敢莫ノ類此ニ准シ皆反語ナリ其上ニ

メニ字ヲ加

側亡君師敢忘其死

亡君師ト云カケタル語

列弟子敢有所謁

ツトスル

有所敢謁

ツトコヒラスルバニヨアルナリ

肯 アエテ

又作肯膏 ガテス

肯者領而諾之之辞

肯ハトクシニシテウケガフナリ

不肯イヤ 肯不見シトシト 不肯見シトシト

秦伯不肯涉河ラ 邠惠然肯來トメテ

猥ニタリ 狎褻不顧冒瀆曰猥

猥ハアメリナクシクヨリツク意ナリ 猫猥トアルハ

律猥云德化不當用兵ラ

濫ニタリ 浪孟及過濫曰濫

濫ハメツタニワケモナキヲシカケルヲ云

汎ニタリ 汎同 汎ニタリ 妄ニタリ

聊イサカ 得姑息以自淑曰聊

聊ハヤススルト訓スル字ニテマアクヨシトスル意ナリ

一 隱ニ 亦聊以固吾圉也 薄イサカ 詳于 後

頗スヨル 敬偏有立曰頗

頗ハ陂ノ形ノ如クカタビクニ成ルニテ六七分其方成ル 九分ハ

表 六國 戰國之權變亦有可頗采者上

向キハツ 稍已處此日向

カ 語 天 人 卷 之 一 六 二

向ハ大カタ其バシヨニナリタルヲ云抱朴天下向乎中興子

垂ス 垂ナクトス 行將處此目垂ス

垂ハホトリト云字ニテ其バシヨニ近ヅキタルヲ云

後漢劉為傳自在漢川垂三十年 且ナクトス 見干後マセト訓スルト同意ナリ

○彌愈益増 加倍况滋

彌イヨク 且於彼盈之日彌弥ハ瀦ト同音ニテ義通ス

彌ハワタルト云字ニテ段クニ満チテハイニ成タル意ナリ

韓曠日彌久而周澤既渥

愈イヨク 愈イヨク 超邁以有尚日愈

愈ハ今マデトハ段ヲヨエタルトニ成リタルヲ言フナリ

愈ハ体ニテ今マデ其バシヨニテ段ヲヨエタルトニナリタルナリ一且ノ処ニテニトフ

昭 及壬子駟帶卒國人益懼齊燕平之月壬寅公孫段

卒國人愈懼コレニテ益ト愈ノ差別ヲ見ヘレ

益エキ 北往有羸曰益ト

益ハ今マデニ比スレハ多クナリ、レツケル意ナリ

イヨクト云コレバ、イヨヤカク、各ニテ物ノ立ニシテスル様子ヲ云詞ニテ、ト、ト、サ、ルトニ拘ハス言フナリ、トス、ハ多クナリタルヲ云相似テ同ジカラス

複商君用傳 孝公益愈然而未中旨

淮南王傳愈益治器械攻戰具

楚世家 王稍益疏外建也

項羽本紀諸侯並起滋益多

增一スノ

カサ子タルヲ累而重之曰增

增ハ一階カサ子タルキミナリ

上ニカサ子加フルハ増ナリ 旁邊ヘヒコカルハ滋ナリ

大宛傳 殼抵奇戲歲增變甚盛益興

加一スノ

ツケソルト附而裒之曰加

加ハ今マテノヲアルナリニシテ其上ヘ添タルヲ云

成平 在陳而囂合而加囂

岐黃又前尚日愈

加之シカニナラス

加旃シカニナラス

加以シカニナラス

至若シカニナラス

至如シカニナラス

若為シカニナラス

倍一スノ

併其二曰倍

倍ハ一倍マシナリ

一斗ノモミニ斗加フルハ倍ニ 少シヅクニスハ加ナリ

況一スノ

又作况

擬其所有尚者而掩之曰況

況ハ其ヤフスラ譬ヘテ一段カサラカケテ云ナリ

イハヤト訓ス 例後ニ出

大雅 亂況斯削

滋一スノ

至ルト訣ス

衍而旁覃曰滋

滋ハ段クニ五テシケリハヒヨルヲ云

益ハ体ニテ其マシタル迹ヲ外ヨリ見テ云ナリ 滋ハ用ニテ其モノ  
ニツキテマシユク处ノ神用ヲ云ナリ 増加ハ体用ヲカサタリ

醜更 法令滋章盜賊多有

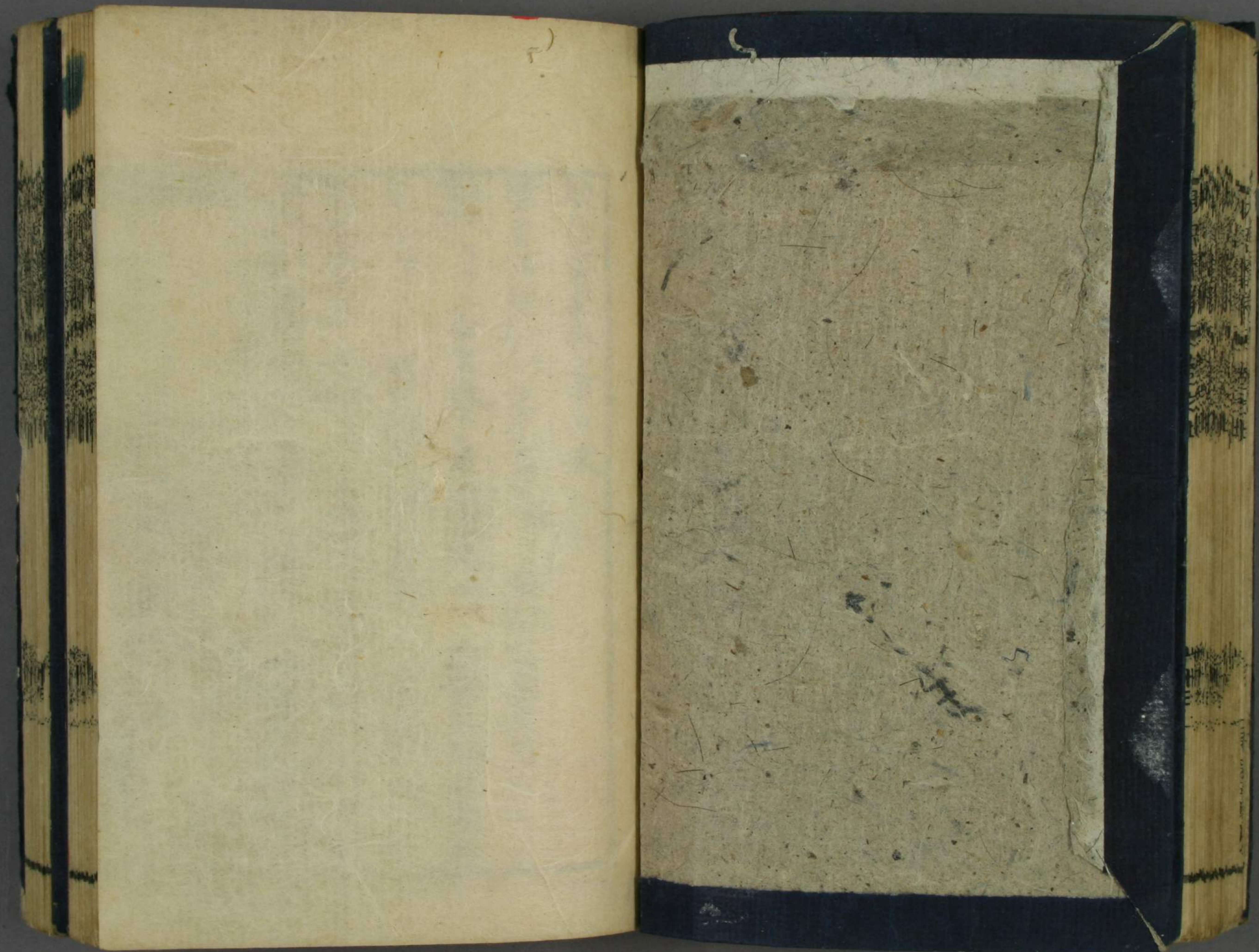
添ラス ムス ク アル 上 ニ ソ エ ル 意 ナ リ

助語審象卷之上



助語審象

中



助語審象卷之中目次

嘗會懣經了殊絕附既已業訖挈無既亡罔莫茂靡毋勿

淹同附四少未微否曼未不弗時非匪同回難幾殆

危汙子乃迺載便還旋輒即則上就登應曾斯附遲

動宛轉見仄恍佛去風附唯同徒但亶帝翹只附止假徑直

十七第同第地立乍忽倏附最尤獨特尤甚太泰附同奇絕

孔痛酷苦苛劇二十極至殊異別驟數亟屢三十原同元

本主舊雅素職固附故五十翻還却倒反般覆顧七十旋

助語審象卷之中目次



寔漸徐附微遲稍差較良八平遄趣速疾頓驟暴濫附附

豫附素逆欲且將三平適同的屬猥多端鼎正同政方三平偏

一同壹誕大奄丕駿荒五三平必會定計要期斷決附約三平

悉備盡單同殫詳具畢屑附既八平皆咸僉舉竭附該裁才

財同纒僅劣四平代狎間拾交互遞迭錯附二俱偕共

齊附翁併與及之附將兼暨泊同越四平相胥兩耦竝竊附私

等遲比附間六平通肆迄同訖了叵終竟卒遂同肆七平連頻

仍旋比附荐海同薦恣累切急四平附九

助語審象卷之中

橘園三宅先生口授

門人

三上惇

筆錄

官永寅

釋海定

○嘗曾懜經 既已業訖

嘗シヤウカツテ 通作常 ヘカト 訖 嘗者告既已有ラ歷練之ハ之ヲ辞

嘗ハナメルコロムルト訓シテ前カタサフイフコガアルト云フ

ニテ一回ニ拘ラズ沈ク云フ辞ナリ

嘗有所畜狗乃殺之畜ヒオキレ狗アリテソレヲ殺シタフガ以前有タ有所嘗畜狗

乃殺之以前ヨリ畜イケル狗ガアルソレヲコロシタ有嘗所畜狗乃殺之外ニキタバ我以前畜

ヒレ狗アリソレヲ今テコロシタ嘗未聞ハカタマダ未嘗聞今ニテキカヌ

張安世傳上少時所嘗游處後漢五行傳嘗所怨恨輒任客殺之

莊子技經肯綮之未嘗

累素蓋自其為吳相時嘗有從史嘗盜愛盎侍兒

曾カウテ スナワチ 曾ハフト一回アリレコニ用ユ曾ハ体ニ属ス嘗ハ用ニ属ス

未嘗有サアルコガヘンモダナイ 曾不サセヌコガヘン 未嘗不セザルコガヘン

未嘗有サアルコガヘン 曾不サセヌコガヘン 未嘗不セザルコガヘン

未嘗有サアルコガヘン 曾不サセヌコガヘン 未嘗不セザルコガヘン

曾衣食之不恤衣食サモウレハス

叔孫通傳孝惠帝曾春出游離宮 嘗曾並二句頭複用ノ例ナリ

嘗カウテ 又作替替イツカウテ 酷甚不移日儻

儻カウテ 又作替替イツカウテ 酷甚不移日儻

儻カウテ 又作替替イツカウテ 酷甚不移日儻

儻カウテ 又作替替イツカウテ 酷甚不移日儻

儻カウテ 又作替替イツカウテ 酷甚不移日儻

經八段くスギ行シコヲ云ナリ

書禪其語不經見平準大農陳藏錢經耗テ

了カツテ詳于後ツイニト訓スルト同意ナリ天カツテ了無質志

殊カツテ絶カツテ絶カツテ二字並後ニ出

既カツテ既者示其所迄之迹之辞

既ハ將之反ニテ其事終リ多迹ヲ見テ云辞ナリ既ハ体ニ屬ス

既不治カツテ不既治乎反語ナリ反語ニ未既治カツテ

十三傳奉匱沃盥既而揮之六既夫人將使公田孟諸而

殺之既而ハスリタルアトテナリ而字哀既戰簡子曰吾伏殺

嘔血鼓音不衰今日我上也既戰公多カイ

已スデニ已義見于前ノミト訓スルト

已ハ未反ニテ事今モラサナリシナリ月已望ドイハ八十五夜ナリ

已往未來ト既往將來ト既而ソノノアトト外ノ

已而メテノ内ヨリ出テ既乃 已乃ナド此ニ准ズ

刺客親既以天年下世妾已嫁夫

複刺客伏屍而哭極哀既已不可奈何已字哭極哀ニ係ルナリ

既已句頭ニアルトキモ句腰復用ノ例ヲ  
已字上句へ係リ既字下句へ係ルト知ヘシ

業 スズニ

其所事不容自己日業

業ハモヤ其事ラスルテ跡へ引カケ所ヲ云辞ナリ 既ハ往ニ属ト已ハ見今ニ属ニ業来ニ属ス

蒙 良業為取履因長跪履之

復至若狀有反相心獨

悔業已拜 已字心獨悔ニ係ル業字拜ニ係ル

業猶 複用ノ例上ニ准ス

訖 スズニ

通作迄 ツリト誤ス

窮其所底止日訖

訖ハ其処ニイタリツメタルヲ云

乘 訖無文號

冠 スズニ 履已ノ意ナリ

○無亡罔莫 蔑靡毋勿

無 ナカレ

古作无

對有示其不可形日無

無ハ有ノ反ニソソトコロニ物ノナキヲ語ル辞ナリ

漢許皇 后傳

日我頭岑岑也藥中得無有毒對日無有乎 得無云云

云云哉ナドハモ古ン反語ナリ今コソ文ハ乎字ナケレ在藥中ノ字上ニ在テ云カケタル勢ニテ反語トナケリ得無ト句頭ニアル多ク反語ナリ能ク前

後ノ語勢ヲ考テ推ヘシ

乃得無恙 恙又乃字ニ抑ヘタル故ニ反語ニナラズナリ

毫無紕漏 毫字主

凡テ上ヘテ少シク

無毫紕漏 コノ事ノ上ニテ紕漏

無一不見

ヒトツク見

一無不見 オシクテ見ヌハケイ

無一見 一タヒ見テ并ル

事無不覈又ハテクヲラ 無事不覈ヒコラ一々覈 不無覈ハズラ

覈スル 無數カズノ限リ 無萬數幾万にカズヘ

子孟勿助長無若末人然ハノ類禁止之辞ナレ無ハ唯有カ無カニ吟味

累曹子宗子雖七十無無主婦胡笳無日無夜兮不思我郷土

亡ズナレ 又作亡 對存示其絕跡曰亡

亡存ノ反テ有多物カナクナリ多有テモナキ同然ナヤト云也用ニ

傳龍亡カ其言臣者賤而不可用乎貢禹輒行其誅亡但免官

罔ナレ 絶ラ不容復見目罔

罔分リハ見ヘ又上云意ナリ 亡罔相似タレ罔ハ上声ニ彼アハラ我コラ無ト云テ外ヨリ其象ニテカ亡ハ平声其物ニテマ

幽界象之旨ラ字充故叙事文罔字之用子持論云々用ガ

諤喬罔晝夜頌頌罔水行舟ラ

莫ナカレヤ 莫者對適探其無之固然之辞

莫ハ適之反テ有カト尋テ見ヨ無イト云意ナリ一段ヨ入

テ深ク幽界ノ象ラ言フ字ナリ 漠膜ナド同音ナリ義ヲ推知ヘシ見ント欲メモ見ヘ又意ナリ

字義深重ナル故二句頭テリテハナカラギト讀ニ反語ナリ

後世ノ詩語俗語ニ莫ヲカレトヨハナカラギノ轉シタルナリナラフヤアルマエモムテモナイト云フニナカレト讀ムフニナリタレモ禁止ノ辞ニ非ス

尚下卷俗語ノ部ニ詳ナリ  
古書ニ莫ヲ禁止用ルナリ

子孟不祥莫大焉世不祥ト云カアルヲ 莫不祥大焉今

不祥ノカカコシ 昭二無不祥大焉無事ノ上ニテ言フ

子韓非莫樂為人君反語 子荀莫經由礼莫要得師礼更ニテ經由

策兵莫弱是矣 莫甚焉甚トスルナカラヤ 莫大ヲウモナキ

無大小ナリ 可莫尚焉反語ナリ尚ス 可無尚矣尚スルナキ

ルナリ可莫尚矣トカク  
不成語ナリ

靡ヒナケシ 八良ハス 靡著狀其幾將無之辭

靡ハナクト訓シテチラクト無ナリカナル用ヲ云フナリ  
音ノ細カニカ  
ナクト靡ノ

声ト云ニラトカクナキト思フサルキニナリ  
推知ヘシ  
茂ハ我ヨリキコスルナリ  
後ニテキコシテケテシナリ

大靡不有初鮮克有終 靡有所隱ス

茂ヒナケシ 茂ハオオガシロニスト訓シテ見コナシテ無理ニ推テ無キモノニスル

意ナリ 臣見ニ茂而靡之トアリ茂ハ推

昭將不得為寡君老其茂以復矣信君納重耳茂不濟矣

母ヒナケシ 茂母者測其必當無之辭



公何以不言師敗績末言爾擊未有原再マルアルハ後ニ付ヨト云意ナリ

微アツカシ者假設以處無之辭タラバト云意ナリ

微ハ實ハ元ヲ正レ假ニキニテ見ルナリモレナキニテ見

十倍ニ微子則不及此ニ雖微先大夫有之大夫命側側

敢不義趙微獨趙諸侯有在者乎

否イナ音ナ上シ通作不未而處之其不容行曰否音ナ

否ハ可之反ニサフテラヌト云意ナリ

義則進否則奉身而退日有食之則有變乎且不乎

曼ナシ音ナシ萬去聲未及其為之曰曼

曼ハ一ダ無キト云意ナリ

言日曼是為也全聖人曼云法言注ニ音無トスルハ非ナリ

未イナイナダイ將及而有所不克曰未

未ハ已反ニテ其一一ダサフナラヌナリ

五億我怠秦奮倍猶未也

不エウ上ズ聲方久切不者狀此是而措之之辭廣韻分物切トスルハ誤ナリ

不ハ其ワガラセヌコナリ其人ニナリテイフ辭ナリ不ハイツニテモ下



字ヲワザニシテ活シテ見ルベシ 不字語尾アリテイナヤト訓  
スル時ハ平声芳無切ナリ

否不ノ別ハ否ハ上声ニテ否ニ定テ休ニシ天ナリ  
不ハ平声ニテマダワカラヌニシテ用ニシ云ナリ

不仁 仁ヲ行フコトヲサセヌナリ四休  
不仁ハ仁ニルコトヲ得セヌナリ 不義 義ヲ知テ居テ  
モサフセヌ 非義 義ヲ  
トシテ

居テモ義 義ニシテ 弗義 義トセヌ 未義 義ニシテ  
キトカマ 無義 義ヲシラス  
シテナイ

毋義 義ヲナキモノ  
ニシテオク 亡義 義ヲナキ  
同然ガ 蔑義 義ヲナキモノ  
ニシテヒラタ 靡義 大  
ニシテ

義ヲシハ 義ヲシハ 爲之 爲シテ 不喜 喜ハ  
コトヲ喜マ 不爲之喜 喜ハ  
コトヲ喜マ 我不知 我ハ  
知ラズ

我カ彼 我カ彼 不知我 我カ  
知ラズ 不我知 我カ  
知ラズ 不知己 己ハ  
知ラズ 不知 知ラズ

論語 知及之仁不能守之 又仁能守之不莊以蒞之 仁ハ知  
ト並ハ

立テタル故ニ不字ノ上ニアリ 莊ハノ仁知ヲ行フニ  
不莊ニテ蒞ニテハト云意ニテ不字下ニアルナリ

子孟不目逃 逃ハ外ヨリ見テ  
云コトナリ 目不瞬 瞬ハ  
瞬ク 閑之不以法度 閑ハ  
閑ス

我コレヲフセクニ彼 我コレヲフセクニ彼 不閑之以法度 法度ヲ立テフセクコトヲ  
セヌナリ 不食 食  
コトヲ

不得食 食レト欲  
スレ得ヌ 不可食 食レハ  
ナク 不欲食 食  
コトヲ

世微子 世微子 我生不有命在天乎 不有命ト訓スルハ非  
ナリ在トセサナリ 君曾見韶舞 君曾見韶舞  
後記

不此是韶舞 此是不韶舞乎トカクヘキニ似タレ不字  
上ニアル故ニ乎字ナクテモ反語トナリ

弗 弗 弗者狀彼僭而毋作之辞 弗者狀彼僭而毋作之辞

弗ハテキ又所ヲ外ヨリ見テイフ辞ナリ不ト無トヲ兼タル

程ノ意持ナリ 古ヨリ弗者不之深也ト注スレバ大ニ其別アリ彼ニシテ体ニシ言ハハ弗ナリ我ニシテク用ヲイハハ不ナリ

弗聽 キ、入ルコトガモフナカツタナリ 不聽 キ、入ルコトヲセ又ナリ

一 隱 穎考叔挾輈以走子都拔棘以逐之及大達弗及

三 使頼人追之不及 弗及ハ外ヨリ見テイフ 孔子弗乎弗乎 世家

○ 非匪回難 幾殆危汙

非 アラズ 對是以舉其失真曰非

非 アラズ 非ハ是ノ反テ其路ニカヒタルナリ 不ハ下字ヲ用ニシテ活ニテ見ルヘシ非ハ下字ヲ体ニシテ死定ニテ見ルヘシ

子以道蒞天下其鬼不神非其鬼不神 上ノ文ヲ主ニシテ 其鬼

非不神 其鬼ヲ主ニ立テイフ 莊駢於明者乱五色淫文章青黃黼

黻之煌煌非乎 非字下ハサケタル上ノ事ヲ然リトシテオキテ其ウラヲ云カケタルナリ 非邪非與ミナ此ニ准ス

騞非天缺弧逆刑星榮惑奎台非數年在東也

匪 アラズ 狀其非有曰匪

匪ハサライフコト有ルデハナレト云意ナリ 非ハ平声ニテ神用ナリ匪ハ上声ニテ休ノ象ナリ

風那狐裘蒙戎匪車不東

回 カタシ 回者不可之合也

回ハ可ノウラナリ 後漢書 布傳 大耳兒最回信

難カタン平声 シニキト訣ス 泉元不可行日難ト

難ハ易ノ反ニテ事ノデキカヌル処ヲ云

餘難ツケカタン悉名ツケカタン 餘悉難ツケニクイ名ツケニクイ

幾ホトド去声 ハツミト訣ス 我自狀其沮洳之勢日幾

幾ホトドト訓スル時ハ去声ニテ其力カツテ急ナル勢ヲ云ナリ

肆年將有大谷幾亡國ト 襄ト不從晉國幾亡ト

殆ホトド ホドクト訣ス 量彼像其將追之情日殆殆速向音ニテ

殆ハ八九分ニテニテナレズキバトヨリ 幾ハ其モニナリテイナリ殆ハ外ヨリ

繫其殆庶幾乎 昭十 君不顧親能無卑乎殆其失國ト

危ホトド 圖其近之之機日危

危ハサヅアルラント將來ヲ云ナリ 幾危ハ用ニ属ス

趙飛ト燕傳ト危殺之矣

沆キツ ホトド 畫其所底至之將窮日沆

沆ハ其処ニイタリツメタル既往ノ迹ヲ云ナリ

易小狐沆濟濡其尾ト 殆庶ホトド 危曾ホトド ニテ句腰複用

○乃迺載便 還輒即則

乃スナハキ  
ナシ

ソトト訣 乃者從容以接往繫今之辭

乃ハイミント訓ス今ニテテノ 幽界ヨリ明界ニ出ル猶豫ノ間

ノ助辭ナリ上ノ文段ヲ下ノ語ニツナギ附ル安排ナリ

ソナレドト訓スルモ同義ニテ我ヲ接キ  
彼ニ繫テナシト訓スル上リ例前ニ出

繫見乃謂之象形乃謂之器見テアルンレガ象ト名付ルモノナヤト  
云義ナリ見ザルモノアリモモ見ルニ

則字ヲ用ナリ 昭至河乃復傳ニ乃者難辞ト注セバコトニテハ  
タルニシキ所ヲカヘタルヲ以テ注セシ

乃昔全繫テ乃字  
ヲ加ヘタルナリ 乃祖其ヨリ祖ニ繫テ  
乃字ヲ加ヘタルナリ 乃翁乃公トモ同シ

乃今乃字下ノ  
語ニ係ル 今乃乃字上ノ語  
ヲ主トス 乃是是乃雖乃乃况  
況乃時乃乃時ニ皆テ例ニ准知シ

魯神連傳 若乃梁者則吾乃梁人也 猛乃若所憂則有之乃若

ハ乃字上ノ文段ニ属スルナリ 仲長乃無憂患憂患ナ  
キナリ 無乃憂

患無乃ハイツツテ  
モ反語ナリ 魏崇使巫史至乃宮殿之内戸牖之

間無不沃醑至乃ハ上下ノ語意ニ連ニナルナリ  
乃至ハ上ノ語終リテ下ノ語ヘウツルナリ

隔其弊乃至於此コノ乃至ハ又句腹ニ轉接ニ用タルニ安頭ノ  
乃至ト同カラス隔承法ニ其弊ノ意ナリ

胡荈有黃華豺乃祭獸乃字上文季秋ノ  
時令ノヲ承タルナリ

迺スナハキ 迺音乃

力吾...

乃ト同義ニテ用ニ乃ヲ用体ニ迺ヲ用

大雅 迺疆迺理迺宜迺畝 外戚 迺昔之月胤巢于樹

載 載者狀其方且嚮之之辞

載八段く向ス進ム勢ノ処ニ用ル辞ナリ ハレト訓シコトハレメト訓スル字ナリ

小雅 汎汎揚舟載汎載浮 載字韵文ニテ用ユ

便 示其乍已暨之曰便

便平声神用ノ字ニテトリアス先ハ飛フ意アリ 便利ノ便ハ去声ナリ

班超 若不即降便可執之 或謂超可便殺之 便可ハ便字執フル係ル可便

八便字起ニ 已到應便拔針 亟便 遂便

還 宛轉復其處曰旋

旋ハ追ヒツケル意ナリ 擅斂首足形還葬

輒 輒者見其每必有然之辞

輒ハタヤムクト訓ニテイツニテモサフ九時ハ必ツレ付テソル意

ナリ 毎ニ心ノ意持ナリ 輒ト乃トハ辞緩ナリ

陳平 張負女孫五嫁而夫輒死人莫敢娶 每輒亦輒

郎 郎者具所就一途不容間之辞

即ツト訓スル時キニ其物ニルテ明界ヲ言フ字ナリ

助字ノ時ハ記者心ノ幽界ニテ其ヲトリモナラサズキ

ニシテラセテ言フ故ニ助字ニルト心得ヘシ因テ即字ハ叙

事ノ文ニ多クアルナリ 句頭テリテモト訓スル時モダキニソレヒテ見意ナリ下ニ詳ナリ 即ハスコ

レモトリナキ勢ヲ見セル助辞ナリ

郎ハダキニ其物ニテ外ノ物ニテス 乃ハ其ノ中ヨリ出テ他ヘウツルナリ便ハ此ノヨリ彼ヘウツルナリ 則ハ上ノ語ヲ下ノ語ニテ叙クナリ

項羽 徐行郎免死疾行則及禍 疾行ノ方ヲ客ニシテ則字ヲ用タリ 八非其父

兄郎其子弟 父兄モアリ子弟モアル意ニテ郎字ナリ則字ナレハ父兄ニ非ルニテ見意ニルナリ

則 スナハキトキニバ 子徳切 ニテトバト談 則者摸往以畫其來之辞 カタクニセヨト立テアルハ法字ナリ彼

則ノリト訓スル意ハコチニテ摸ニシテ見ルナリ カタクニセヨト立テアルハ法字ナリ彼

ヨリカタクニセヨトイハ子氏我ヨリカタニトリテムルハ則字ナリ 助字ニ轉用スル時モ幽界ノ心ニソレ

ニシテ見ル時ハト云意ナリ故ニ主客ヲ立テ論スル時ハ客方

ニカク則字ヲ用ユ主ノ方ニ決シテ用ヒズ兩用ヲ立テ論

スル時ハ兩方ニ則字アリ

論 用之則行舎之則藏 ニシ共主客立テ故 隱欲與大叔臣請 ニシ共主客立テ故

事之若弗與則請除之 事之ヲ主トシテ免ニ則字ナシ除之ハ止ムコトヲ得ズニテ兵ヲ用ルコトナル故客ニシタルナリ

子孟不奪不饜コト不奪則不饜トスルベキ処上ノ文段ノ奪ヲテルヲ云テ奪

二関乃先之至則告守日不可待也カル當面ノ所ニ則字ヲ用ルハ先之

ルトキテリルハ却テ思ヒノ外ニカクアリト云意テ則字ヲ入ルナリ鄭雖則如雲匪我思存則字上ノ

テ見ル 則雖則字下ノ文ニキテ上ノ我則上ノ語中ヨリ出テ則上ナリ則我

隔隱一山有木工則度之山有木則トカキテハ下ノ語別ニハナルモノニ

學人之學也或失則多或失則寡學也則鄒陽素無根

柢之容雖竭精思欲開忠信輔人主之治則人主必

有按劍相眄之跡己公句ヲ隔テ承ル法ナリ夷與孤之二

三臣相及於絳雖我小國則茂以過之矣相及於絳

韓詩外傳王之所謂忠賢者諸侯之客歟中國之士歟莊王曰

則沉令尹也忠賢者則ト驟莊實熟則剥則辱元

○就登遲動 宛轉現仄

就スナハチ 進而致之於彼日就

就スナハチ 就我ヨリ進テ彼ニツクナリ晉惠帝紀就加詔許之

登スナハチ 陟得其至處日登

登スナハチ 登スナハチ 地位ニテソノト云意漢焦仲卿妻詩登即相從和便可作婚姻

應 スナチ 詳見于前 魏志華 病亦應除 スナチ

曾 スナチ 見于前 論 曾由與求之問

斯 スナチ 詳于前 而 スナチ 檀弓スナチト訓スレハ

遲 スナチ 似其及之之漸曰遲

遲ハヤウヤク其地位ニ及フ意ナリ

春申君傳樹怨於楚遲令韓魏歸帝重於齊 注乃也トアレハ

動 スナチ 對靜舉其有為之時曰動

動ハ靜ノ反テウゴキテ何トカスル其コニナル意味ナリ

動輒 スナチ 動便 スナチ 動即 スナチ 動必 スナチ 動而 スナチ

スナチト訓スル複用 乃即 輒乃 即便 即輒 便乃

則便 便輒 便則 應便 登即 用ノ例ナリ

宛 アタカモ 貌其若乍存曰宛

宛ハヒラリト其ヤウスノ見元ナリ

秦 宛在水中央 コニテハ形宛ノコトハナレハ

轉 ウタ 旅行以移曰轉

轉ハウリテウツリ行クナリ



進傳所察應條轉舉

轉更

見アスハニ 現同

所存歷然可觀曰現

現ハ没之反テ現在アルトコロヲ云ナリ

中屠餘見無可者

相如封禪書 載籍之傳維見可觀也

見今俗語 如今今如字 祗今今ナリ 在今今ナリ 於今今

于今 只今今 方今今 乃今今 而今今 即今今

仄ホノカニ 側同

尚况未確曰仄

仄ハ其事イマダタシカナラヌヲ云

賈誼 仄聞屈原兮自湛汨羅

疑傳側聽不疑莫不驚駭

恍ホノカニ ウツラク下詠ス

佛ホノカニ 多ク下詠ス

風ホノカニ カセタヨリ下詠ス

○唯徒但直 啻只徑直

唯ホノカニ 惟同 ハツカリ下詠ス 守一而不及他曰唯

唯ハ一途ニ其下バカリニカシマル意ナリモト唯諾ノ唯ヨリ轉用

シタルナリ 惟ハオモラト訓シテ一途ニシレバカリ

唯不然不然 不唯然然ルニシテハナイ

元他邑唯命昭 元唯大夫圖之大夫ノ心バカリニテモ

徒

タビ  
イタツニ

ムタニ下  
誤ス

有用無器曰徒

徒ハ外ノナニスルナリ不滿尤意ナリ徒ハ本カチト訓シテ

車馬ニ乗ズカチニテ行ナリ

司馬相  
如傳

家居徒四壁立

子

因載而往徒獻之

カワリ品ヲトス  
ニテ獻レタルナリ

韓說者不徒知所出而已矣又知其所以為

但

タビ

外ヲケテ誤

執此而除彼曰但

但ハ幾箇モアル中テ外ノモノヲケオキテ言フナリ

徒ハタビニト訓シテ外ナレニテ云ナリ外ノナレニテ云キテ云キナリ  
但ハタビニト訓シテ外ノアルモノヲケテタビト云ナリ今外ノヲケル用アリ

扁鵲  
傳

起坐更適陰陽但服湯二旬而復故

亶

タン  
上声音但

亶與但同

趙充  
國傳

亶奪其畜產

帝

タビニ

翅同

ソレカト誤ス

狀其品程止此者曰帝

翅同音テ  
通レ用ユ

帝ハソレニツキテアルモノテマダサキケル意ナリ帝字單用スル

ナレイツニテモ不帝何帝奚帝豈帝ナド用ユナリ

譚奚帝其聞之也

抱朴子但不知其年壽信能近千年不帝耳

不帝ニダク  
ト誤ス

神仙不翅 スデニ神仙ナル者ニテオキテハタクソノ 不翅神仙 段ハナイト云意ナリソノ内ニテ云

彼神仙ト云モノニ盛言ヘテミテハ其段ハナイト云意ナリ不翅字上ニアルト下ニアルト意義カクノ如ク差別アリ千年不帝ト書キ処ニ不帝千年

トハカレヌナリ文ヲ奇崛ニシタメニ不帝 多ク不帝ト訓スル類 非翅 下ニ置タルヤウニ心得ルハ愚見ノ至ナリ

非惟 非徒 不但 不徒 不止 非止 不直

非直 何但 何止 豈徒 豈但 豈直 微獨

奚但 其非獨 非特 奚假 奚徒 數多キユヘ例ヲ畧ス

只 タビ音出 只 バカリト訳ス 義見于前 語尾ノ只ノ下ニ出

唯ハ外ニ相手ヲモタヌ其一バカリヲ途ニ云ナリ 只ハ外ニ對スルヲナリ テコノバカリト云コナリ樂只君子ハ憂ニ對シテ只ト云ナリ 俱ツキ

テアルモノヲ今クケテ云ナリ 特ハカクベツニスルナリ 祇ハ其ノカサナルキニナリ 止ハソレギリト訳ス

只且 外ヨリ形 只計 カクハカリ 只寧 カクハカリ 寧只 カクハカリ 爾所 カクハカリ

止 見于前 止 語尾ノ止ト同意ナリ 止 莊仁義先王之遺廬也止可以一宿

假 見于後 假 莊奚假魯國丘將引天下而與從之

徑 又作逕 就其所捷曰徑 傳敬

徑 徑ハチカミチナリ 徑 劉敬 徑往而卷蜀漢定三秦

直 突出無所委曲曰直 直 直ハ曲ノ反ス入リタミナニズツ 其所段ラスエル意 直アタヒト訓シテ其程ライフ立ル意ナリ

子直不百步耳是亦走也留侯世家直墮其履圯下田角田間

於楚趙非直手足戚也手足戚程クヲホテケイ唯直直置直爾

○第地立乍 鼠尤獨特

第テイ 又作第ナカニト 姑就之不論他日第ト

第ハナニカナシ先ツ其段ニシテ見ヨト云意ナリ

傳孫武君弟重射臣能令君勝

地テイ 音第タビ 地與第同

西曹地忍之ラ 祗シ 見于後

立サツ 夫及有步曰立ト

立ハスクニ其場ニテ立ナカラノ意ナリ

留侯留侯於長呂澤立夜見呂后

乍サ 一見一没之間曰乍ト

乍ハヒラクトカワル間ヲイフナリ

灑燈將滅而仁明ク 忍コツ 倏タチ

鼠サイ 魁於其類曰鼠ト

鼠ハスベテノ物ノ内ニイチサキニ立タルヲ云スベテト訓ル例下ニ出

貨殖傳 七十子之徒賜最爲饒益此爲八最字 爲最饒トアハ最字饒益ニ

カニル 尤饒益饒益ナリガ 最爲大最字上ノ語ノ主 爲最大トアハ最字

大ナルモ、イクツモアル中、デコレガ最チヤイ云意ナリ 最先スベテノ中 最後スベテノ中ニ後ナル

尤イウ ヲツトモケヤケシ 尤イウ ヲツトモケヤケシ 瑰璋可驚怪曰尤ト

尤ハ其狀ノ常ト板羣カワリテアルヲ云尤トガアヤ、チト訓ルモ 美

人ヲ尤物ト云モ同意ナリ 最最多引スタル中ニテ体ニシテ尤ハ其一事

傳 天下尤趨謀詐哉 變民爲姦京師尤甚レ

獨ヒトリ ヒトカタト云ス 孤奇無屬從曰獨ト

獨ハモト孤獨ノ獨字ニテヒトリトリ殘サレ意ニ付リ者ナキ意モナリ

獨斯書行於世此書バ 斯書獨行於世世間ノ方ニテ

喪十八 富人ノ 所欲也何獨弗欲獨字吾 弗獨欲獨字欲スル

獨不不 獨唯獨獨字

子孟功不至百姓者獨何與 宜弃君之命獨誰受之ラ

特ヒトリ トリワケト云ス 參而用其一曰特ト

特ハトリワケテ其ツヲ云意ナリ特ハ本三牲ノ内ヲ下イロ

ニテ祭ルヲ云 特ハ我ヨリ取ハナレテ云 獨ハ彼ニテ取ハナレテ云

桓特相會往來稱地ヲ其樂非特朝夕之樂也

○甚太奇絶 孔痛酷苦

甚ハハタ 深重可厭曰甚ト

甚ハ其事ノヒドクユキコミタルヲ云

甚可惜外イニ對シテコ 可甚惜ヲ惜ムコトヲ

莫甚乎是是事 莫此爲甚コレヲ甚シトスルヲ 莫甚於此コレ

南史南史 茲焉莫甚キハコノバシヨニ甚シト 閔衛侯不去其旗是以甚敗

昭昭 甚口平子曰必于疆也 太甚 已甚 愈甚

太ハハタ 泰同 富而將溢曰太ト

太ハ泰ト同字ニテユタカニアリアル意ナリ 甚ハ用ニレイフ 太ハ体ニレイフ

賦賦 著粉則大白施朱則太赤粉ヲ付キ白スキル紅ヲ付レハ

韓非韓非 人主不泰危乎而人臣不泰安乎

已ハハタ 孟仲尼不爲已甚者孟仲尼不爲レ己甚者

奇ハハダ 詭異不常曰奇ト

奇ハ偶ノ反ニテ常ナラヌヅラキヲ云 世綿定奇温ナラ

絶ゼツ 離類特有曰絶ト

絶ハ外ニ類ノナキモノヲ云ナリ絶世絶域トドノ絶字ヲ知ヘレ

トレトハナレテ言ヒ様チキ程ト云フナリ

甚ハヒドフ成リユク道スヂヲ云ニ云 太ハ成リスギ  
タル処ヲ云 絶ハトシト切レタル地位ガカリヲイフ

傳子 驍 秦女絶美王可自取

絶美ケレカ 殊美ニ

特美ワトリ 尤美トイフ 最美キツ 至美クシゴ 極美メタイ

孔ハナハダ 中約終博曰孔ト

孔ハ末廣カリニナリ 孔アチト訓レテ中ヨクダリテ  
向フテ又ヒロガリタルアナヲ云

禹九江孔殷 孔字後世ハ韻文ナラテハ用ヒズ

痛ハナハダ 過淫匹堪曰痛

痛ハトウモタマラヌ場所ヲ云 痛飲ヒレフノム

酷ハナハダ 忍居刻深曰酷

酷ハ至テ手ヒトクイフナリ 書何無忌酷似其翼

苦ハナハダ 非人所能其處曰苦

苦ハナガシト云字ニテ心ニ效キ処ヲ云ナリ

世帝遂召武子苦責之 苛ハナハダ 劇ハナハダ 慮ハナハダ 急ハナハダ キラ云

○極至殊異 驟數亟屢

極 キヨク キワムテ コトニイテ 居其所標的之最曰極

極高ノ頂上ノ地位ヲ立テコトモナキ処ト其位ヲ評シテ云

高祖 本紀 豐吾所生長極不怠耳

至 イタツテ 至キツタル訣既得其地位曰至

至ハ其地位ニ至リキツテアル意ナリ 至ハ用ナリ性ニ屬ス極ハ体今較量シテ云

司馬相 如傳 卓王孫怒曰女至不材 至若 若至 及至

至於 至如 至類安頭ニ用ル至字モヤリ轉接ニ用ル至字ト同義ナレバコノ類ハ皆句頭複用ノ例ニ見ヤシ

殊 コトニ スベテ ベツダンテ訣ス 有別於類曰殊

殊ハワキヘノキテアルコトナリ トハナレキア格別ナルコト 殊ノ多ク

ウミテ分レハナレヲ以名クルト同シ殊ハ意ト文ニ屬シ特字ト下女ニ屬ス

蟹 世家 父以足受笑而去良殊大驚焉

異 コトニ 各各有所主曰異 カワツト訣ス

異ハ同ノ反ニテカワリテアルコトナリ

韓 非 組已就而效之其組異善 別 別 ワカチ 女子テアルコトナリ

驟 シバク ニハカニ 頻進有節曰驟 チヨロクト訣ス

驟ハ少シツ、フリクスルナリ ハスルト訓スルトキモ小足ニテハヤメル



寧楚師驟勝而驕ル

數カク入シバク聲ハ

タキトク

時時煩迫之日數ト

數ハタヒクセリタテルコナリ

驟ハ用  
數ハ体

吳霖雨數至可灌而沉ハ

數數カク

疊用ス

亟キヨクスミヤカニ

ホトトク

多方促之日亟ト

亟キヨクハイロクニカワリテセハニチキナリ

棘字一同音  
ニテ義通ス

隱元愛共叔段欲立之亟請於武公ニ

屢ル々バク々バク婁同

マタシラモトク

縷縷累至日屢ル屢ルハ用

屢ハマタシテモソレニナルコナリ

驟亟ハ我スルナリ  
數屢ハ彼ニナル

論語 回也其庶几乎屢空レ

○原本主舊 雅素職固

原ゲンモト

元同

根ニトク

對流討其出自日原

原ハ源ニテ其濫觴ヲ尋子テイフナリ

食貨志 姦邪不可禁原起於錢コリ

原夫スレニ

發端ニ用ユ

本ホンモト

コトハトク

對末舉其根幹日本ト

本一イハ必末アリ 同事物ノ上ニテアトサキヲ分チテ上言

ナリ 本ハ体ナリ  
原ハ用ナリ

傳 衛律者本長水胡人

陳平 王陵者故沛人 本胡人ト云ハ今漢アル有サニ

對シテ云ナリ故沛人ハ居處ノ新故ヲ記スノ事ナリ

復傳 降民本故匈奴之人

荆燕世家 今呂氏雅故本推轂高帝就天下

主 モトシテ 本意所在曰主

主ハ客ノ對シテ外ニ對シテイフナリ

谷永傳 主爲趙李報德復怨

舊 モト 顧徃紀其跡曰舊

舊ハ新ノ反ニテ過シ跡ヲ語ルナリ 舊ハ其物今ハナクヤナリ故ハ其モノ今テアルナリ

命 台小子舊學于其盤

舊曾 ハ 故嘗 ハ 本嘗 舊友ハ人ナキ人ヲ云故人ハ今テ在ル友ヲ云雅素ハ有無ニ拘ラスイフ

雅 モトヨリ 尊常未爲流弊汚曰雅

雅ハ俗ノ反ニテ正シクツ子ヲ守リテカワラヌヲ言フ

漢元后傳 素謹敕太后雅愛之

素 モトヨリ 未易本性曰素

絲ノ染サル先ヲ素ト云方今テラ染色ニシテ既往ノ染サル先

ライフ 本未ノ本ハ既往ノホラ主トス  
素彩ノ素ハ方今ノ彩ヲ主トス

素所蓄積 シタチカラシマデ  
ツミタタハルトヨ

藹藹然而未云獲者士素不厲也 シタチチ不厲  
ニチツテアル 全 夫不素養 シテヨリ

士而欲求賢譬猶不琢玉而求文采也 養士ラシマデ  
カラセヌナリ

職 モトメ 任之不離其局曰職

職ハ其ノが主宰トナル意ナリ

蓋言語漏洩則職女之由 シテ

固 モトヨリ  
コトニ 守舊不移曰固

固ハフルギ様ヲカヘ又ヲ云

孟子所願也 固字共  
身係ル 所固願 固字上  
事係ル 固雖 固字下  
語ヲ主トス 雖固 固字上  
語ヲ主トス

故 モト  
モトノ實ヲ奉ルナリ 魏文其人不在其物如故 帝詩

故ハ今テ對ニシテ以前ヲイフ  
本ハ今テ客ニシテ今ノ本ヲイフ 固ハ以前ヨリソレナリニ居ルヲ云對ナシ  
舊ハ今テハカワリテアル跡ヲイフ

○翻還却倒 反般覆顧

翻 カヘツテ  
マタ 又作翻 揮揚頻閃曰翻

翻ハヒラクカワルヲ云ナリ 魏  
志盡忠為國翻成重愆

還 カヘンテ 回步向故曰還 ヒキタヒテト訣



顧ハト見カスナリ跡ヘカレテ一思案スルト云所ニ用ニ

家世噲老不聽政顧為臣復顧反居臣等上何也世蒙

○旋寢漸徐 稍差較良

旋セハカハツテスナハチテ宛轉復其處曰旋ト

旋ハグルク上ワツテモトノ所ヘモドツテクルナリ

鞞鞞ト同音ニテ義通ス鞞

戲ハ逆トナリラシテモトノ如クニモトルナリ旋字ヤハツイデシキリニナド訓スル時モミナ此義ニテ推知ル

始皇本紀旋遂之瑯邪傳即窺以藥旋下病已

寢ヤハスノ上音イツマキラト誤ス燃然暗襲曰寢ト

寢ハイツマヤラ其所ヘ入りヨシデアルキナリ水ノヒタフヨリ轉用ス

傳筆久之寢與中人亂覆望之寢益任用セ

漸ヤハスクニト誤ス冉冉相濕曰漸ト

漸ハ頓ノ反ニテダシクニ進ムナリ浸漸ハミオヒタスト云字ニテ浸ハ水久コムナリ漸ハ米フテミケノ及フヲ云ナリ

貨殖傳積累贏利漸有所起漸次

徐ヤハスクト誤ス優然喜遲曰徐ト

徐ハ疾ノ反ニテイソク心ナキヲ云定由于徐蘇而從フ

微ヤハスクト誤ス遲ヤハスクト誤ス並見于前

稍ヤハ、ヤウニク

多クト意

量分僅至曰稍

稍ハ体、復ハ用

稍ハ稍食ノ稍字ナリ助字ニ轉用スル時モ多ク其コヲナ行ク意ニ

復傳府帑雖未充略頗稍給ヲ

疊傳稍稍収其士卒至榮陽

差ヤ、

シタイ下誤

以次纔進曰差

差ハ次第ニ少シチガヒノ見元ヲ云

舊差居丞相後

較ヤハ、入声

比方之有所衍曰較

較ハタラベテ見ルニト云意ナリ

良ヤハ、トニ

ダットト誤

繼之要終曰良

良ハ德物ノ字ナリ善ヲ行フテ末遂ルヲ良ト云婦人夫ヲ称シテ良人ト云示ラ遂

ル義助字ニスイカニ其事ヲチツト持テ居ル意持ナリ

孝武於病愈遂幸其泉病良已訓ニテ良字ノ義ヲミルヘシヤト

皇王上嘿然良久曰顧誠何如

頗ヤハ、見于前

○端趣頓溘 豫欲且將

端ヒシ、スミヤカ意ヒトイキ下誤 流邁不從頌曰邁

邁ハテマイラスニ飛ヒユク意ナリ

邛端臻于衛

趣スミヤカニ 促同 ヒリタテト 催之如織曰促ト

趣スミヤカニ 追ヒタテル意ナリ 傳ツク若趣降漢王ト

速スミヤカニ 遲之反 疾徐之反 亟キヨク スミヤカニ 見于前ト

頓ニワカニ 立委於其地位曰頓ト

頓ニワカニ 公漸ノ反ニテチキニキツキタル意ナリ

子列一氣不頓進 遽ニワカニ アタタキ 暴ヒビク 急ナル 猝ニワカニ ツツカナル

卒ツツ 同上 驟ニワカニ 見于前 俄ニワカニ マモナクト 訣ス 俄而 蛾而同

溘ニワカニ スミヤカニ 依然乍至曰溘ト

溘ハ思フマニズツトユクナリ 離溘吾遊此春官ト

暫ニワカニ シバシバ 間云 十三婦人暫而免諸國ト

豫アラカシメ 函養以待發曰豫ト

豫ハ其トラマヘカタニシラヌ云 傳ツク將相和則士豫附ト

素アラカシメ 見于前 逆ニガキ アラカシメ 將來ヲカハル意ナリ

欲ホツス 意之望於有作曰欲ト

欲ハ心ニ思ヒタツナリ

欲遽得ト ヤク得 遽欲得ト シクナル 強欲 欲強 必欲 欲必 ト 皆句腰腹





將ハ既反ナリヒキ元ト訓シテ別ツテ持テ行ク意ハハタト訓スルモ同意ナリ

將且別ハ將ハヤガテシカ、ル所ニテ緩ナリ且ハ既ニカ、リタル所ニサシメテ急ナリ

將行名ク行ク且行既ニ足フ欲行行ト思フ將欲行行ト思フ

張儀傳 雖有百秦將無奈齊何 世將無同ワカリ兼タルニ

襄十五將可乎哉殆必不可 我天無以清將恐裂裂ル恐ガ

恐將裂裂カルコアラシ 覆昭王沿夏將欲入鄢且

且將 必將 將必 殆將 尚將 將或 若將

將亦 行將 將向 亦將 皆句腰複用ノ例ナリ

○適屬祗多 端鼎正方

適テキ 適タニ 適タニ 通作的 韻中響合曰適的同音ニテ

適ハ莫之反ナリ心ノツボニテウト打合タルヲ云マセタマクナド

訓スモテウト矢ノ的ニ中リタル様ニ其ノニ乘リ合セタルナリ

游俠傳 適有天幸窘急常得脫

屬シヨク 屬コノゴロ 時值其會曰屬ト

屬ハオリカラ其時節ニ中リタルヲ云

成 下臣不幸屬當戎行

祗ト 又作祗 竟ト 匡ト 違ト 其域ト 曰ト 祗ト

祗ト ハヤハリ其所ヲハナレズシテ始終ツレニナリヲ意ナリ祗ハ神祗ノ祗ハ音岐

ナリ訓適訓但ハ音支ナリ然ルニ孫季昭ハ分ツテ易ノ祗悔ヲ音岐トシ詩ノ亦祗ヲ音支トス此イマ夕深執音ハサルナリ祗ハ禾始熟也沈約ハ

音竹尸切トシ梅齋祚ハ音章移切トス

易 無祗悔法祗或作多 雅誠不以富亦祗以異法 茲苦也祗其

所以為樂也歟司馬光鄒陽傳 祗結怨而不見德从禾此ヲ始トシ韓文以下多祗字ヲ用

多ト 音支 多與祗同

論語 多見其不知量也或作祗

端ト 舉其及之之緒曰端

端ハ端緒ノ義ニテ其ハシノ出テクル処ヲ云ナリ

韓非 豎陽穀之進酒也非以端惡子反也

許皇 奈何妾薄命端遇竟寧前

鼎ト 有立於其地位曰鼎

鼎ハキツトツレニナリ立テアル意ナリ

匡衡 無說詩匡鼎來賈誼傳 天子春秋鼎盛

正ト 示其向之非他曰正ト

通作政ト 示其向之非他曰正ト

力語部

正ハ邪ノ反ナリ正面三テ其事カシレナキバレヨナリ

論語 正唯弟子不能學也 蘇秦傳 秦之行暴正告天下

韓輔依車車亦依輔虞虢之勢正是也

方ハウ ミサニ ミサカリニ 向其將然曰方

方ハモト方位ノ方ニテ向フテアルト云フナリミサカリニ訓スル

モ水ノ出バナノ盛リナル処ニ向フ意持ナリ

正其物ニツキテ言フ体ニ属ス 方ハ動ニテヨチラヨリ量リテ言フ用ニ属ス

商書 方興沉酗于酒 彊公輸若方小

膠定水潦方降疾瘡方起 班方生方死方死方生

方復 方乃 乃方 行 カウ ミサニ 見于前

二サニ訓スル複用 且將 方將 祇當 祇應 正當

方且 方當 行將 端合 コレハ上ニアルトキハ句頭複用句中ニルキハ句腰複用ノ例ニ見ルヘシ

○偏一誕大 奄丕駿荒

偏 ヒトニ 固守其僻曰偏

偏ハ両ノ反ニテカタイチツニテリテアルヲ云

六韜 偏持律管當耳 張儀傳 偏守新城

一イツ ヒタスラニ 壹同

純然無所耦曰壹

一八雜ハヤリナク其コニナリテアル意ナリ

傳范范叔一寒如此哉

傳商君為法之敝一至此哉

成十敗者壹大

學壹是以脩身為本

誕タニ オホイニ

倍其實張揚之曰誕

誕ハ實事ヨリハ一段カサヲカケテ言フコナリ

大タイ オホイニ 誕彌厥月

對小語其所包有之殷富曰大

小トイフ對ヲ心ニ持テ小ニアラヌ大ナリト云所ニ用ユ

傳易象大有慶也

傳周書周有大賚

傳其茂曰息壤在此王曰有之因大悉起兵

奄エン オホイニ

一ニル蓋之曰奄

奄ハ二面ニ包容レタルヲ云

頌方命厥后奄有九有

丕ヒ オホイニ

有倍常之所思量曰丕

丕ハ常ニツレテ大ナルヲ云

多士惟天丕建保乂有殷

駿シニ オホイニ

超邁出凡曰駿

駿ハスグレテサカシテルヲ云

周駿奔走シテ在廟

荒クワ オホニ

アホ下下誤ス

遠大出ル於常制之外曰荒

荒ハ限リクツカヌヲ云

七昭有亡荒ス閱

誕奄丕駿荒五字共 韻文ニ用ユ

○必會定計 要期斷決

必ヒツ カナラマ

キツトト誤ス

約スル其當然曰必

必ハ吾心ニテ將來ヲ占メテイフナリ

必ハ未然ニ稱スル辞ナリ 駭ハ 已然ニ稱スル辞ナリ サレハ必字

既往ノ我ヨリ推ハカリテ心ニ占メテ言フアリ 果字モ將來ノ心ニ然リトシテ用ルアリ コレ心ノ幽界ニ入リテカクナルナリ

不モ必然モ サテカクシテハ必不然キツトサ 可必可非必非

不モ必能モ 彼レカト能不能必キツト 能モ又

有所必得必字得 必有所得必字全体

則必 必則 將必 必將 コレハ句腰 復用ノ例ナリ

昭十 羊姓有乱必季實立子管 必則朋乎 論 必也使無訟乎

會シ カチラス 有期彼此相遇曰會

會ハ此事トアノフト出合シタル意ナリ

北齊杜 鮮昇車馬客會須用中國人

定 カタラス サダメテ シカトト訣ス 處之其不復動曰定

定ハ我ヨリ推シテサダムルナリ 定計ハ往ニ属ス入會要期決ハ來ニ属ス必ハ往ニ來ニ用ユ

審聞文公定死乃去

計 カタラス ハカルニ ツカトト訣ス所商量可徵合曰計

計ハ勘定シテミルナリ

留家 留 余以為其人計魁梧奇偉 料ハカルニ

要 カタラス セヒト訣ス 欄而致之其所理會曰要

要ハセヒニサラヌ様ニスルナリ

後漢馬援傳 男兒要當死於邊野

期 カタラス マドト訣ス 的指來之所周至曰期

期ハ其トアラドヌル意ナリ

豐周昌 臣期期不奉詔 周昌口吃シテ言タルニニ

斷 カタラス マカトト訣ス 果以判之曰斷

斷ハ其ワカチラツケルヲ云

斷可知矣 ステニ断シテアリ 可斷而知 將來ニ断シテ知ラレフ

決 カタラス マキツテ訣ス 勃然趨之不可止曰決

決ハ其方ヘナレテシラフ云

國使會知虎之郎已決不相闘矣

約カテラス見テ後

○悉備盡單 詳具畢屑

悉 コトクク

アリタケト訣ス

閱之無遺失曰悉

悉ハヒトツツ、數テ殘サヌラ云

盡ハ彼ニシテ云 悉ハ我チリテ云

傳 扁鵲 乃悉取其禁方盡與扁鵲

備 ツクセニ

凡百皆有曰備

備ハソロヘテオクナリ

備ハ險阻艱難備嘗之矣

盡 コトクク

不遺其有曰盡

盡其物ヲキサラテオキテ言フ

盡ハ段々ニツクスキミナリ 悉ハ初ヨリニテ出シテ云

不能盡對 一カコトク

盡不能對 全体コトク

孟非盡人之子與 後愈 吏民嘗有事學意方及畢盡得意方不

單 コトクク

殫同

一ニテテ訣ス

竭之至其極曰殫

殫ハツル処ニ至リツメタル云

盡單斃其死矣

詳 コトクク

能理其細密曰詳

詳ハ略之反テ其コトヲ細カニラケルナリ

且言... 卷之...

蕭詳延特起之士

具コトク

所陳設無闕曰具

具コトク八十ナカラナラヘテ言フナリ

畢コトク

周遍無漏曰畢畢ハ既往ラ云字ナリ

畢コトクハアミト云字ニテ卷ノ意持ナリソコヲナシテト云フナリ

大史公自序天下遺文古事靡不畢集

屑コトク

細及其瑣曲曰屑

屑コトク瑣碎ニテ多くシク言フナリ

書圖天之命屑有辭

訖コトク詳于前

秦民訖自若

既コトク詳于前

及未既濟也請擊之

卒コトク詳于後

○皆咸僉舉 裁才僅劣

皆コトク

各種一曰皆

皆コトクハミナソロヘテ云フナリ

皆コトクハミナソロヘテ云フナリ

皆不可識皆字全

不可皆識皆字ノ物

皆不識皆字

全體カナルナリ

莫不皆然 皆莫不然 可皆得

力吾...



雖皆 皆雖 使皆 皆使 並皆 舉皆 悉皆

己ニハ句腰復用ノ例ニテ雖皆ハ皆字上ノ語ナリ  
皆雖ハ皆字下ノ語ナル餘コレニ倣ヘ

傳新 諸男皆尚秦公主女悉嫁秦諸公子

元隱 小人有母皆嘗小人之食矣

咸 コトク 咸思合フテトモクト云フナリ

咸 コトク 咸思合フテトモクト云フナリ

皆ハ体テ外ヲ指シテ言フナリ  
咸ハ用テ其モノヲイフナリ

傳 天下莫不咸便 ニナト云詞ハ物ニツキテ云詞ナリ  
コトクト云詞ハ用ニツキテ云詞ナリ

僉 ミナ 僉其所集列之衆曰僉

僉 ミナ 僉其所集列之衆曰僉

舉 ミナ 舉其所統示之曰舉

舉 ミナ 舉其所統示之曰舉

宣 舉言群臣不信諸侯皆有貳志

聲 コトク 聲底ヲタヒテト訣ス

裁 ツカニ 裁其所至而垠之曰裁

裁 ツカニ 裁其所至而垠之曰裁

張儀傳 雖大男子裁如嬰兒

才ツカ 財ツカ 纒ツカ 並與裁同

僅ツカ 又作勵 又ツカ 微少未足道曰僅

僅ツカ ハイサクカナル程ノ処ヲ云

射蓋勵有存者 僅ツカ 少ツカ 複用 僅ツカ 僅ツカ 叠用

僅ツカ ナカレト訓スハ近ト通ス 晉書趙王倫傳 戰所殺害僅十萬人

劣ツカ 品等不及儕輩曰劣

劣ツカ 優ノ反ナリマダ常ナミノ所ニ及ハヌヲ云

經北面有如頽落劣得通步 約略 見于後

○代押間拾 交互遞迭

代ツカ 接武繼之曰代

代ツカ ハアトツギテカワリニナルコナリ

書 五伯代興更ツカ 爲主命 代ツカ 更ツカ 用ニテ事ニ捺ス

狎ツカ 進退互相依比曰狎

狎ツカ ハアチラヘナリコチラエナリシテヨリウフテユクナリ

元昭諸侯逐進狎主齊盟

間カハル 又作間

雜テ之有隔於其中曰間

間ハ其アヒタニ外トヲ挿ムヲ云ニ 同義ナリ

儀乃間歌魚麗笙由庚歌南有嘉魚笙崇丘

拾カハル 一左一右而成曰拾

拾ハ左右相タガヒニソロルトナリ

儀拾發以將乘矢

更カハル 詳ニ于後ト 同意ナリ

交カウ 交カウ 交カウ 交カウ

敵耦相結曰交

交ハタガヒニ結ビ合フヲ云

隱周鄭交質

互タガヒ

相錯如犬牙曰互

互ハタガヒニイリコ食ヒチカヒニナリテアルヲ云 牴牾ノ語 上同音ナリ

遞テイ タガヒニ

以次承授相繹曰遞

遞ハソソギクへ承テツクヲ云 モト驛遞ノ字ヨリ 轉用シタルナリ

律書 遞興遞廢

迭テイ タガヒニ 通作軼 履軼相踵曰迭

迭ハソソ跡ハ出又ソソ跡ハ出スルトナリ

封禪書 軼興軼衰 錯サ タガヒニ 錯サ イレチカヒト誤ス

○俱借共併 與及之暨

俱 トモニ イツレト訣ス 誘而同之曰俱

俱ハ一レヨニナルヲ云 借ハ打ソロフテアルヲ云

八定擊之與一人俱斃

借 トモニ 比肩同行曰借

俱借ノ別ハタトハ花ヲ觀ニ行ニ同シクソロフテユクハ借ナリ或ハサキヘナリ或ハアトヘナリ從者トナリ色々品カワリテモ一レヨニ行ハ俱ナリ

衛及爾借老 借與衛借命而不與借復非信也

共 トモニ 相援以作之曰共

共ハヒトツヲヨリ合テトモクニスルニ用ユ 俱借ハ体ナリ 共與ハ用ナリ

傳 告湯與謁居謀共變告李文

齊 トモニ 相ソロフ意ナリ 翕 トモニ 兩方カラヨリ合

併 トモニ 又作拜併 翕異歸同曰併 跡其室

併ハヒトツニヨセテオクナリ アワセテ並ヘオクハ併ナリ ヒトツニヨチニセルハ合ナリ

賈誼治 安策 高帝與諸將併起 書 皆拜在東方

與 トモニ 以彼比附我曰與 トモニ 訓ス

與ハソレニタミ合レテ見ルナリ



一 齊 皇父之二子死焉

考工作其鱗之而鬚

將 ト 見于前

北二人權將楊悖相埒

兼 ト 見于後

命稱奉圭兼幣

暨 ト 泊同

各各竝立曰暨

暨ハ並ヒタル物ニテ品等ノタヌ又処ニ用ユ

定 毋弟辰暨仲佗石彊出奔陳

昭春王正月暨齊平

前年冬齊侯伐北燕ノ文ヲ承テ齊ト燕ト平クシ魯ニテ云クニ齊燕ニ主客タヌナリ

復列暨及化人之官

越 ト 見于前

詔王之雙言民百君子越友民

逮 ト 追同

迄 見于後

○ 相齊兩耦 竝竊遲比

相 アヒ 平声

扶而與俱之曰相

相ハアイテトリテヒキ合ワテスル意ナリ

昭 爲五陣以相離

胥 アヒ 平声

固自爲四曰胥

胥ハモト足ト云字ニ雙方ヲ持合セテ云ナリ

三 桓齊侯衛侯足命于蒲



論語比及二年可使足民也檀比及五世皆反葬於周

全比御而不入乃屬並見于前

間コノコロ義見于前其アヒタミル意ナリ

○適迄了已終竟卒遂

適ソノ井ニ事同ニイハト訣ス度其所之以位之日適

適ハ見今ヨリ將來ヘカケ云ナリ

唐蟋蟀在堂歲聿其莫通字韻文ノ外ハ用ヒス

迄キツツ井ニ其処訖同窮其所底至日迄

傳驩康居驕黠訖不肯拜使者

了レウツ井ニ事訖濟而瞭然曰了

了レウツ井ニ事訖濟而瞭然曰了

抱朴子不知大藥

已ハツ井ニ義見于前

班超班超超欲因此已平諸國注已猶遂也不可ノ義ヨリ轉シテ

終シウツ井ニ對始訖其所極盡曰終

終ハ始ノ反ニテシウノ所ガカヨウアリト云所ニ用ユナリイツ



ニテモ始トイフモノヲ相手ニ持テ云ナリ

終今 終古 終有得 終字全体カレ得ル  
一事ヲサズ汎ク言ナリ 有終得

終不迷 全体ガ迷ハズ 不終迷 今ヲ路ガツイニ只ヌ

相六周人以諱事神名終將諱之 喪其使終饗之亦不可知也

竟 域之盡其所畫曰竟

竟ハトウク外ニ云ナラチダトイフキミナリ 始中終ヲコメテ云

世蒙遂北至藍田再戰秦兵竟敗 畢竟ト云ナリ 究竟

復傳幸 遂竟案盡没入鄧通家 畢竟ト云ナリ 究竟

卒 卽律切 ツハテト云ス 紀其着落之末曰卒

卒ハ始中ヲケテヒイ少果ハカリヲ云フ辞ナリ

棹 遂敗鄭師於蒲騷卒盟而還

遂 閱甲涉乙有成曰遂

遂ハ此事ヨリテ彼事ヲ成シ遂ゲタル意ナリ 兩事ヲ合

セテ云所ニ用ユ 終ト竟トハ彼ニ属シ向フニサフナリタルナリ 卒ト遂トハ我ニ属スコチラニテサフシタルナリ

隱 莊公寤生驚姜氏故名曰寤生遂惡之 名ケテ寤生トイフヨリ ツ井ニ惡ムニナリタルニ

成 今叔父克遂有功于齊 喪 百衛將遂伐晉

離乃遂焉而逢殃

肆ツ井ニ見于前故今ノ意ナリ

肆典肆覲東后ヲ

○連頻仍旋 荐薦恣累

連ニキリ連ハ我ヨリヲヒツケテスルナリタニカサテ不敷疊依若漪曰連傳

頻ニキリニ頻ハ彼ヨリヲヒツケテスルナリヒタモノ下誤濱之少間斷曰頻傳因連與漢戰

仍ニキリニ仍ハ以前ノ違ヒサチ処ニヤハリ以前ノ通りニ成テ出テクルヲナリ抱扑頻為節將見邀用アヒモロノ不敷複起不渝其性曰仍

調ニキリニ調周晉仍無道而鮮卑大仍執醜虜ヲ

旋ニキリニ追ヒツケル意ナリ旋義見于前

比ニキリニ見于前去声其コトニツケテスルナリ紀又比殺ニ趙王ヲ

荐ニキリニ荐ハヲシカケクルヲナリ草稠曰荐ヨリ轉用ニタルナリ稠重不可天闕曰荐

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

易象傳水洊至習坎全洊雷震幾不虞荐至十

薦 セニ  
シキリニ  
カサ子テ

薦與荐同

雅 饑饉薦臻

薦字韻文  
外ニ見ヘス

恣 シ  
ニキリニ

恣ニ下取 放縱無所制轄曰恣

恣ハナルニ隨意ニスルナリ

累 レイ  
シキリニ

屬屬相増曰累

累ハソ上ヘナリクシテユクナリ

切 セツ  
シキリニ  
身ニムホトナリテク

急 キウ  
シキリニ  
ユトリナキ

急 キウ  
シキリ  
キカセナルト取ス

助語審象卷之中



助語審象

卜

助語審象卷之下目次

如若似均仍故猶由尚初幸賴熟倩信允情諒附良厚

實寔展亶真洵誠亮手能耐善克巧好喜矧況亦

更改起重再兼還旋復亦又且加始初肇甫造

昉哉載在有存著上任耐能勝堪忍禁慤強咋近暫

去長鎮永每恒常值會脫偶遇因十五抑或果苟卽

儻倘設試嘗十七審就如若猶誠縱借藉假譬言九嚮

鄉同擲正饒使令遣教俾致二十葬伴作爲庶幾上尚

向同匹任附使令遣教俾致二十葬伴作爲庶幾上尚



冀附四許頃所可附如空虛素徒附姑薄附少間凡晁

連應百附率槩抵歸類約附致較慮諸統合都渾附總切粗

麤附略九幾豈巨渠寧無乃附孰疇誰各詎渠巨

侯那奈耐奚曷同何如何附胡盍闔遐庸焉安惡烏

八嗟噫意同嘻譁同戲噉同噉嗚同呼啤啞蹇蹇

慶同噉咨同都吁於荷繫愁惡獸噬同哂啞啞

俗語助字部

馨麼地阿頭邊許渠價恁儘同盡做慣件色上下六

等底怎附爭甚那他這箇個可該是也解附省險然

些八任總附放容許附浪謾同漫不休沒莫來去

除只說道得着負取宰斗陡同猛附打赤了却劃

恰纔剛的殺慾生樣脚向和枉賸剩番般回子兒

靠交消厠哩呢咄嘖



若シヤクコトシ 若者循此指其所擬模之辞シヤクコトシ

若ハシタガフト訓シテ向フ様子ニツキテマコナリゴトシト訓スル時

モ向フモノヨラスニ付テ見テソノ用ヲ云辞ナリ如ハ物ニツキテイフ

如ハ体ニテ外ニ相手ヲトリタトヘテ我ヨリ比シタラベテソノトオリ若ハ心ニツキテイフ

武帝獨見其星出如瓠武紀 封禪祠其夜若有光如瓠外ノ

ヲトリ來テタトヘルナリ若有光ハ即光リテ真カ假カ分ラヌ故ニ若ト云

タルナリルテ如ノ下ハ今テキ幽界ノ事物コヒキ出ニテタトスルナリ若ノ下ハ明

界形兒ヲ云テ擬スル如此若此ナドハ記者ノ心ニ幽界明界ハ分ケテ

如ト若トヲ書分ルナリ如此ハ外ノコトヲラベルニ若此ハ外ノコトヲラベルニ吾心ニ云ク

不如カ 不如鳥鳥ニクテ 不鳥如カ 曾鳥之不如カ

トシト鳥ニナヘモ及カ 不若鳥カ 不鳥若カ 殆鳥カ

之不如カ 莫若周公外人ヲ主トシテイフ 莫周

公若周公ヲ主ト 儂天欲殺之則如無生定 子西曰

不能如辭コレハ如字不如ノ意ニ似タシ我ニシテイハハ不如トカクヘキナレ

論君子哉若人カクマキ 夫婦所生若而人カクマキ 若傍無人外ヨリ見 若傍無人

若干若ハソコラフヨラスノ処ラ 傍若無人外ヨリ見 若小疾疾カスコキ

其人ニナリテイノ 小若疾ヤムヤウニ 若小疾疾カスコキ



翁如タリ 皦如タリ 云云如トイハ外ノヲトリ來テラヒ比シテソトオリ云フス翁皦ハモト樂ノアル文字ニ非ス外ノ語ヲトリ來ル

惕若タリ 嗟若タリ 云云若トイハ外ノヲナシ即其字面ノ上ニテソク狀ヲリテアルト云フ之惕若ハ即オソルヨラス之嗟若ハ即オケクヨラスナリ

佛經 形狀蛇如有四足 コト如字ハヤハリ蛇如ハ意ナリ東坡詩ニ肝膽猶能楚越如トアルモ同意ナリ

似ニタリ ゴトシ 狀貌有疑於同日似

似ハドコヤラニ同シ狀ガアルコナリ

亦似有得其人ガ 似亦有得其事ガ

襄二抑君似鼠夫鼠晝伏夜動 不似類コトシ 如類ゴトシ

均ナラ ヒトレク 均同 稱量之可相衡持日均

均ハツリ合フテアルコナリ

昭二鉤將皆死 均之猶之ト同シ

仍ニヨラ ニタ 仍義見于前

劉高傳 堪出之後大變仍臻

故ナラ モトノクケタモツテイルナリ 故義見于前

周本紀 萬方故不笑 領ナラ ワリテクル意ナリ

猶イウ モシ 通作由 猶者示趣起有顧於後之辭

猶ハモト獸名ニテ一足ヅ、行キテ六跡ヲ見カエリクスル者ナリ立

モトツテ見レバヤハリ其スガジヤト云意ナリ

猶ハ其トオリ其ヤウナトシカト云ニアラナド事ハ

違フテアレテ言フテ見ルト畢竟ソノスナニヒトシイニ云コナリヒトシキニ云訓的當アリ如ヨリ若ハ辞元シ若ヨリ猶ハ、タク、緩ナリ

春不郊猶三望昭六人同之不猶愈乎

秦策其實猶之不失秦也傳今日見老子猶龍邪

用四一薰一蕕十年尚猶有臭尚字ノ語ニ係ル猶如 猶若 猶似

偏猶尚害之猶字下ノ語ニ係ル猶如 猶若 猶似

尚シクナラ通作上マダト誤ス 尚者示所進更有シラ籌餘之辞

尚ハクワルト云字ニテ其上ニマダアルト云意ナリ

尚ハサキハ段ク加ヘテヌクナリ体ニ属ス猶ハアトヘモドリテイフナリ用ニ属ス

家吳尚誰予乎秦策不歸四國尚焉之燕策其民力竭矣安猶

取哉 尚奚 尚何 尚安 寧尚 尚復用ノ例ナリ

○幸頼熟情 信允情諒

幸カウサイライニ シ名ト誤ス 所邀值可欣喜曰幸

幸ハシラワセノヨキコナリ元后傳 太子宮幸近可壹往遊觀ス

頼ライサイワイニ ヤウクニ誤ス 憑恃之以自慰曰頼

頼ハヤウクニシラヨシトシテ居ル意ニ 燕頼得先生雁鴛之餘

熟 シラク

既慣之能經鍛鍊曰熟

熟ハヨク其コヲ子リツメクル意ナリ

倩 ツラク

婉曲久之曰倩

倩ハ心ヲ用テ念ヲ入ルナリ

信 マコトニ

一チガヒトク言行相徴可驗曰信

信ハ引合セ見テチガヒノナキヲ云僭ノ反ナリ

昭子誓信美矣抑子南夫也

允 イコトニ

一カモト訣ス 從外容其可曰允

允ハユルスト云字ニテ衆人が見テイカモチガワストスル所ナリ

儻 ニ 軍志曰允當則歸

情 セイ

モチエト訣ス 盡意之所欲未容爲飾曰情

情ハ意ニ思フテ井ルマナリ偽ノ反ナリ

諒 リョウ

王符貴忠論 情知積粟腐舎而不忍貸人一斗

諒 リョウ

彼我有相徴曰諒

諒ハ我心ヲ人心ニ通知ラズル

諒良相近ケレト諒ハ去声ニテ体ニ属ス良ハ平声用ニ属ス

雅及爾如貫諒不我知

カ吾

卷之五

五

良 見于前

昭吾身泯焉弗良及也

○實寔展賣 真洵誠亮

實 古作寔

充在無耗闕曰實

實ハ内ニ持テアル処ヲ云虚ノ反ナリ

莊陳媯歸于京師實惠后

寔 寔義見于前

桓春正月寔來 實字ノカワリニ帝諱ヲ避テ寔字ヲ用タル

展 敷意陳之曰展

展ハ我心ヲぐンキテイフ意ナリ 鄒展如之人兮邦之媛也

賣 執此篤之曰賣

賣ハ厚ク丁寧ニイフナリ タト訓スルトキハ徒簡切ニテ但ト通スルナリ

是究是圖賣其然乎 展賣トモニ韻文外ハ用ヒズ

真 天成不容偽曰真

真ハウブクナルヲリ假ノ反 六經ニ真字ナシ

呂后真而主矣 真誠 真成モ同シ

洵 洵同 續緒綢繆曰洵

洵ハクリカシテモソトヲリト云意有

王洵美且仁

誠コトニ

所運用恒久不變曰誠

誠ハドコニモトヲリテカワラズツク云

論誠不以富亦祗以異誠詩ニ

亮コトニ

亮與諒同魏都賦

○能善克巧 好喜矧况

能ヨク

致得之盡其方曰能

能ハ其手ニテ自由ニテキル所ヲ云

人人不能得タレモカモ得ル

不能人人得タレモハアレ人

不人人能コトニ

不可人人能コトニ

能有所發能字ノ

有所能發能字ノ

莫之能行

ヨク行フヲコノ

莫能行之行フヲ能スルカセヌカノ

能得

有能 能無 不能 能無 不能 能無 不能

孟子 吾未能有行焉 全未有能濟者也

檀弓 及則安能

耐ヨク

與能同

禮聖人耐以天下為一家

善ヨク

成得之有以繼曰善

善ハ人ヨリ見テ誰が見テモヨキトイハル程処ヲ云 能ハ体ナリ 善ハ用ナリ

善ハソノ事ニキテイフソノ意 善書イフ 能書 ソノ人ニ

傳田儻無不善畫者莫能圖何哉 溝淵志岸善崩

克 ヨク シオホセルト誤 用力盡其所難曰克

克ハ成シガタキ処ヲシオホセタルナリ 堯克明俊德

復昭二用十六克能修其職 方術傳故能克崇其業允協大中

巧 ムク ヨク 對拙指其隈曲及妙曰巧

巧ハ拙ノ反ニテ物事ヲ上手ニスルコトナリ

好 ヨク 上声 尋思之以為美曰好

好ハ思テミテヨシトスルナリ タイ反ナリ

成十好以衆整 全好以暇 魏志盛德烈壯好建功勳

喜 ヨク コシテ 又作喜 得所嗜不自已曰喜

喜ハ怒ノ反ニテソレラウレシガルナリ

東方朝傳喜為庸人誦說 喜忘 ソノ人ニ 善忘 外ヨリ

矧 シ イキ 又作致 カ ル ウ ニ 矧者架一層乘之之辭

矧ハカクアルウニ猶サラト云意ナリ 矧ハハモトニスルト訓スル字 ニテソノ奥ノ手ヲイフキミ

盤庚シ罔知レ天之斷命コトヲ矧キ曰其克從先王之烈ト

矧且 矧又 矧乃 矧夫 イツレモ語頭ニ用テ句頭複用ノ例ナリ

況キイハキ 又作況 シニヤト誤ス況者擬シテ其所有尚者而掩フ之辭

況ハタフト訓シテ其ヨラスヲ思ヒヤル処ヲ云字ナリ 旅況情況カノ況字ノ意ニ

カフサヘアルニサゾヤト云意ナリタトヘヲ取テ一段カサラカケテ云ナリ

矧ハヒトツバレヨニテ言フナリ況ハ界ヲ越シテタトヘヲ取テ言フナリ

孟子 況乎以不賢人之招招賢人乎

而況 何況 豈況 何豈ナドノ字ヲ加クイヨク深クカサラカケテ云ナリ

○更改起魚 還復亦又

更カウサラニ タカヒニ去声 置ツ舊コト舉テ新コト曰更ト

更ハアラタメ其事ヲ出シテ重子イフ詞ナリ切カエテ一段シキリヲ

立テイフナリ 更無キリカエテ曾無トシト

更不可改 更字其不可更造 更字其

僖ニ在此行也晋不更舉矣 趙臣更不理

改サニ 棄故易物曰改

改ハサツハリ新ラシクスルナリ フルキラステ、ヒフハ改ナリフルキハソノマニシテオキテアタラシク作ルハ更ニ

雜記 反改成踊

起 キ サラニ

奮以趨於用曰起

起八卧ノ反ニテ進ニテ用ヲス意アリ

則起敬起孝 鄭注起猶更也

重 チカラ カサテ 平声 凡上カサテナリ

再 サヘ フタヒ 二度アルノ

再ハ其事實ヲ記ス詞ニ助字ニ非ス

無 ク ト

攝彼以副於此曰無

無ハ主トスルモノアルニ客ナレヲ無ル意ニ 策又無無燕秦

還 セシ マタ 音旋

旋同 タリテキテ意ナリ

還義見下前 スナハチト訓スル処ニ出

管子 還四年伐孤竹

復 フタヒ 去声 扶富切

復者襲跡再追之之辞

復ハ重子テアルコトヲ体ニシ言フナリ

復人声ニカエルト訓スルトキモ モト出タル所ヘカエルトナリ

子須臾之忘可復得乎 水火豈復可近哉 可復ハフタヒスルカセラルヤ

復可 ハ セラル コトガ 多ヒ アラヤス

不可復讀 ヨムコトヲフタヒ

不復可讀 ヨムコトヲフタヒナラヤ

復不可讀 ヨムコトヲフタヒナラヤ

無復所用 復字ノ物ニカハル 復無所用 復字ノ人ニカハル

無所復用 復字用ル

無復用處 用ル所ノ地ガナリ

無復有所用 用ル

有ルカト尋 テモナリ

難復遇 フタヒ 亦難遇 コトモ

復欲得 復字其





又<sup>イ</sup>上<sup>マ</sup>声<sup>タ</sup>

又者措其武而更企一步之辞

又八外ニマヒトツカフ云コトガアルトニツ並ヘテ共ニ主ニシテ言フ時ニ用ユ

又八上ノ語ニツキテタレニマカタイフガアルトイフナリサフ有テマカフアルナリ  
亦八下ノ語ニツキテ見ヘシ亦悦ハ悦フガモマタ之亦過矣ハ過テカモマタナリ

三 隱 祭足帥師取温之麥秋又取成周之禾 祭足ガ又スルナリ  
取フノマタニ非ス

五 桓 祝聃射王中肩王亦能軍 能軍ガモマタナリ  
王ノマタスルニ非ス

昭 十六 將 允子又叱之亦叱之 又ハ其人ガマタセシナリ亦ハ叱スルヲ云ナリ  
カシモセシナリ又亦ノ別ニチコノ例ナリ故ニ

不亦說乎トハカケ居不又說乎ト 文王  
書ノハナシ能深ク味フテ辨別スベシ 及日中又至亦如之

五 定 焚之而又戰 マヒトイフ弁  
三 丙戌復戰 モトノトコロ  
ニ戰フナリ

隔 傳 固已疑其言國陰事漢使又來 又漢使來ノ意之亦字  
ナレハ漢使モマタナリ

又ト且トノ別ハ又ハマタカフ云フガアルト立ナスエテ共ニ主トシテ言フ時ニ用ユ且ハソノ  
又云フ云フモアルトチヨト加テ云辞之且字下ノ語又客テリテ輕ク且字下ニ詳

眠 マタ  
カツ 加 マタ 翻 マタ 三字並見于前

マタト訓スル複用 亦復 還復 復還 且復 復亦

又復 亦又 又兼 ユレラハ上ニアルトキハ句頭複用ナリ  
句中間ニアルハ句腰複用ノ例ナリ

○ 始初肇甫 造昉在昔

始 シ  
ハシメテ 對終啓其所基址曰始

始ハ終ノ反ニテ事ヲ仕ハジムル用ヲ云

五隱初初獻六羽始用六佾也初八廟イヲサシテ云始ハ用ル人ニナリテイフ

初初 ハツメテ 指彼之所興端緒曰初ト

初初後二對ニテ其最初ノコクチラ云始ハ用ニテ我ナリ初ハ体ニテ彼ナリ

宣季文子初聘于齊被齊侯ニ於襄七郊子來朝始朝公也今年ノイラ中ニ立テトシテ主ニ以前ノイラ客ニ引クナリ

我魯侯ニ於隱初鄭武公娶于申シ

汲鄭始翟公為廷尉後復上云字アルニ應ジテ始字ナリ

肇肇 ハツメテ 又作肇 ハツメテ 紀其舛昧之趨於動曰肇ト

肇肇 ハツメテ 然トシテ之ガ開ケカル始之 天后稷肇祀

甫甫 ハツメテ 在其元以待支流曰甫

甫甫 ハツメテ 父ト同音ニテ其本トナリテ末ヲ生スル意アリ

周周ト葬兆甫窆ス

造造 ハツメテ 關之以有作曰造ト

造造 ハツメテ 今ニテナキヲヲ新規ニハジムルヲ云

伊伊造造攻攻自鳴條朕哉自毫 哉 ハツメテ 見于前

昉昉 ハツメテ 通作方 嚮其將益然曰昉ト

昉昉 ハツメテ 日出ノ始テ明ナルヲ昉ト云ヨリ轉用シタルナリ

子列象昉同疑

載ハシメテ見于前哉字ヲ体ニシテ言

巋ハシメラ

在ガイ

ニテ

眡其所止地位示之之稱

在ハ其地位ニツキテイフ

在ハ助字ニ非

在昔時世ヲ主

所在其物ニツ在所ツソノ地位ニ

有イッ

對無示其可實曰有

有ハ其物ニツキテイフ

有ハ一不惑者今モト一有ハ不惑者モヒトリ不可ハ一有ハ闕

不可ハ有ハ一闕カクタルコガ一不可ハ有ハ闕一字全体

元隱有文在其手曰為魯夫人禮彊晏子可謂知禮也已

恭敬之有焉論苗而不秀者有矣夫有字下ニルハ固有

有苗而不秀者有字上ニルハ今有北史內外擊手之有何不

濟成何盟之有論老吾有何患論何有於我哉

有有字上下ノチカヒ子皆上ノ例ト同シ子殺其父者有之以前アリ彊有殺其

父者今有子上太上無敗其次敗而有以成有以字句腰

有上ノ語ニカハリ成係ル而以有成而以二字複用ニナリテ以字十有一年

十トカ終ル存アリ著アリ逗ト

○任耐勝堪 怒強咋返

任 平声

鷹之務以有守曰任

任八身ニヒツカケテスルナリ

鵠病不任行

而 去声

被之困可久持曰耐

耐ハチツトコタヘテ居ルノ

復後漢西 堪耐寒苦同之禽獸

能 音耐 与耐同

鬻漢馬不能冬

勝 平声

比較之可以有尚曰勝

勝ハオサニテ其上ヘユク意ナリ

昭張句不勝其怒 子孟材木不可勝用也

堪 名 忍之許其有成曰堪

堪ハコラヘテ其ノヲナシトゲル 君欲已甚其何以堪之

忍 クニ 忍 ムコク心ニカハス 禁 タユ平声

怒 子カクハ 又作怒 セメハト詠 怒者惜之欲僅有為之辞

怒ハセメテハト惜ム辞ナリ

小雅不怒遺一老 晋怒庇州犂

強 キヤウ 強 レヒテ 勸之要其過分曰強

強ハムリニシヒルナリ 成ニ君弱皆強冠之

咋アカラセニ ウカト訣 言發於偶然曰咋ト 知イテ

咋ハ心ニ根方シテヒヨト言ヒ出スナリ 作ト同音ナリ

定 桓子咋謂林楚

近アカラセニ 事遇於意外曰近

近ハ思ヒガケナクヒヨト出テケルナリ 暫アカラセニ ハラクク意

○長每恒常 值會脫偶

長チマウ トコシ文ニ ヒサシク 去声 相持之久曰長

長ハイツマデモカワラヌ意ナリ 來ニ用ルトキハトコシナニト訓ス 往ニ用ルトキハヒサシクト訓ス

鸛 臣長不復見左右 頌長發其祥 永ナガク ナガク引ノスナリ

鎮トコシナニ トコシナニ 鎮長 鎮日

每ツチニ ゴトニ 數其所當曰每

每ハソノタビゴトニナリ 每各 每輒 每必

恒ツチニ 不易其守曰恒

恒ハイツ出テ來テモ同シ様ニナルト云々意ナリ

元 楚國之舉恒在少者

常ツ子ニ

生平所事事曰常

常アチ旦暮ハナレズ身ニ附テアルナリ

子列有不常勝之道全常不勝之道曰強不常ハ多クカツモアルノ

居恒ツ子ニ 居常ツ子ニ

終古ツ子ニ 終古ハ昔モ入テモカワラヌナリ

值ツ子ニ

忽已丁其時曰值

值ハ其時節ニ出合タルナリ

會ツ子ニ

兩事ノ出合ナリ

義見于前適ハ一事ノ上ニフト出合タルヲ言フ會ハ兩事ノ出合ナリ

援最勸適會閩越王弟餘善殺之以降

屬適

脫ツ子ニ

脫者虞其出於格外之辭

脫ハ常ニツレテカフ言フガアズト云意ナリ

晉張明公脫未之思子脫其不勝取笑於諸侯

偶ツ子ニ

不料而會之曰偶

偶ハ思ヒヨラズフトアリタルナリ

楚偶有金千斤進之左右以供芻秣

遇ツ子ニ 因ツ子ニ 適ツ子ニ 屬ツ子ニ 並見于前

○抑或果苟 卽儻設試

幼語審身

卷之十

抑ソモク

シカレト訣

抑者沮之而別設異見之辭

抑ハ揚ノ反ナリ上ニ言タル語ヲ抑ヘオキテサテオシカレシテ言フ

テ是ルニタカフイフ理ガアル上云意之抑ハ上ノ語ヲ反ス語ナル

論與之與抑求之與

有抑此皇父

此章首ニ上ノ語ヲ承テ抑ト云タルヲ發語ニハカラス

鄧侯曰人將不食吾餘對曰若不從三臣抑社稷

實不血食抑字上ノ鄧侯ノ語ヲ承テ抑若不從三臣ノ意ナリ

或アロルハ

有レノニ定ラヌヲ云モレクハト訓スルモタシカニ定リタルニハ 語其有時殆將然曰或下

アロルハ 有レノニ定ラヌヲ云モレクハト訓スルモタシカニ定リタルニハ 語其有時殆將然曰或下

莫之或止之字活

莫或之止或字活

未或之先未之或先

四麥十 或者其君實甚カシ

用累 或默或言馬本紀

恐或或字上語

下ノ語 或恐或字下語ナリ

雖或或雖猶或

或有句頭複

果クワ

决致之其熟曰果

果ハ上ニ言フテアルヲ言フトオリニ埒ラチ ヲツケルヲ云

果ハ多モノト訓ズ凡木ノ子

ヲ實トイフ既ニ熟シテ可食トコロ

果不用彼が用元

不果用我用元ヲラセヌ

果如此矣必濟

コレヲ熟

苟如此矣カダニモ

誠如此矣コレトコニテ

ツグルナラハ



中庸果能此道矣雖愚必明此道ヲヨシクシテ果スナラバ

僖二晉侯在外十九年矣而果得晉國既往ヲウケテ

苟コウイヤレクモコトニ草次為之曰苟カリシモト訣ス

苟ハカリシタニモカフナシタラバト彼ニ向テ言聞ス辞ナリ

無苟死死スルコトヲマシ苟無死先トカナレニ不苟苟不モ死ハスニオレユレニ准ス

王風苟無飢渴曲臨財母苟得不苟訾苟且カリシタニ

即レシク義見于前タラバト訣ス

苟ハ彼ニマセテニル即ハ我ヨリ其コトニナレテニル對ナレニ言フ如若比較シテ其形色ヲ言フニナリ

秦即天下有變王何以市楚也見于前

儻タウ俗作倘ヒヨト擬什佰中或一有偶然曰儻コヒチカハクハ

儻ハ千ニ一モ此コトガアルナラバニ儻ハ千ニ一モ

設セツモシマサト訣ス摸稜而陳之曰設

設ハ人テハナキコトナレバコレヲ言テ見ルニナリ

周設以國為王扞秦而王無之扞也

試コロニ使為之以量其能曰試

試ハチヨット其コトヲ見ル平原雖然試言公之私



則必獻其上而后敢服用其次

誠モシ 義見于前

復瀆如誠得水可令畝千石

モシト訓スル複用 若儻 脫若 若誠 如誠 誠即

第令 假令 向使 向若 假設 設為 設令

藉令 藉使 但令 但使 且誠 且如 譬使

假若 如使 即使 ミナ句頭複用

縱タトヒ 通作從 縱者欲翻之而先設其當之辭

縱ハサスハナラヌハツトレレツレニシタトコロガナリ

二 從其有皮丹漆若何 四 縱弗能死其又奚言

借モシ 藉同 彼之所姑處可詰曰借

借ハコニナキコトヲ外ヨリ取來リテ云

大雅 借曰未知亦既抱子 賈誼過秦論 藉使子嬰有庸主之材

假モシ 我姑設之待其誣之曰假

假ハ真ノ反ニ實ハ本キヨナレバカリニ斯ク云コナラバナリ 假ハ倣借ハ用

借假ハシメバナリ雲カナキナラバ月カ見ラルト云トキハ借假ナリ

管晏 假令晏子而在余雖為之執鞭所忻慕焉

譬タトハ 以此比彼之稱

譬タトハ 外イヲタクスニ取テ言フナリ 縱借ノ類ニ非ス

傳南越 成敗之轉譬若糾墨

○嚮匹使令 遣教俾致

嚮タトヒ 通作鄉 曷向 橫其往之或處此曰嚮

嚮タトヒ 既往ニ云カフテ云 策秦向者遇桀紂則殺之矣

向者 鄉也 曩者 日也 往昔 往者

匹タトヒ 冀比耦之曰匹

匹ハコレニ並ヘテ見ルナリ 匹如匹ハタトヘルナリ如ヲ加レハ

正タトヒ 見于前 王莽 駟正有宅心宜令州郡且慰安之

鏡タトヒ 縱而持之曰鏡 任タトヒ 見于前

タトヒト 訓スル復用 縱使 縱令 縱遣 縱饒 就使

就令 借使 假如 假之 籍第 正使 正是

向使 鄉令 向者 借曰 雖使 雖令 即雖

雖就 雖即 只使 假而柳文 用ノ例ナリ

使レム 使者運動之之辭

カ語又...

使ハ我ヨリ指揮シテ彼ニカフサヒル使介ノ使ヨリ  
轉用ニタルナリ

成十吾不獲鱗也使主社稷使字ハ群臣ヨリ使主ノ使鱗也主  
社稷トアレハ使字夫人我カシラ使ルニナル

禮聖王所以山者不使居川不使渚者居中原而弗敵

也不使字上ニアルハ彼ニ  
カリ下ニアルハ我ニカル 不使不使ハ不字我ニカリ使  
字彼ニカル使不ハ使

字我ニカリ不  
字彼ニカル 使無 無使上ニ同シ

令平声 令者抵致之之辞使ハ体ニ  
令ハ用ニ

令ハ一ウクテ彼ニカフナラセルナリ号令ノ令ヨリ  
轉用セルナリ

魏其案灌夫頭令謝周令五家為比使之相保禮

世使吏送令歸家

遣シム 遣者任委之之辞任カウスト訓シテ  
出ル処ヲ見テイフ

遣ハ指揮ヲナサズヤリ放シテ彼ニニサセルツカウスト訓シテ  
出ル処ヲ見テイフ

淮陰乃遣張良往立信為齊王

教カフ 教者指揮之之辞遣ハ体ニイフ  
教ハ用ニイフ

教ハ我ヨリ指揮スルニライフニ陰ニテヒツカニスル意アリ

韓非子進則教良民為姦退則令善人有禍

傳十子金教之言曰複勸高教令人言變事用傳

俾シム

ナニテ及之詔 俾者引此以及彼之辭俾來ニ屬ス

俾ハ畢竟サフテラセナリ

古ヨリ俾字ナルコシムト云テソレラツカフテ遠キニ及ハセハ意味ナリツク処ニイタラムルナリ

引ヨセテシムルキニアリ 將來ニテラセルナリ

衛俾也可忘

秦違之俾不通

致シム

來彼於此曰致

致ハ段ヲコヘテ至ルヲ云

複秦遂致使御而妻之

シト訓スル複用

使令 俾令 教令 致令 致使

シト句頭複用 ノ例ニテ見ルヘシ

○拜俾作為 庶幾上冀

拜シム

シム文十外ハ在テ曰

拜者見使之之神用之辭

拜ハ使字ノ用ヲ云ナリ

小雅拜云不逮

俾シム

俾者拜之深也

俾ハ拜ト同義シテ小重シ

拜ハ清音俾ハ次清音凡字音清モノハ意淺ク濁ル者其意深重ナリト知ルヘシ

洛予齊百工俾從王于周

作サシム

興以從事曰作

作ハ其事ヲシオコスナリ体ニ屬ス

ナスト訓スルモ同意ナリ

禮會同朝覲作大夫命

儀作上耦射

典伯禹作司空

文樂豫為司馬

作ハ外ヨリイフ  
為ハ其人ニテイフ

為

動以致用曰為

為ハ其コラナレテ居ルナリ用ニ属ス

語為後世之見之也

注為使也按スル此章注ニ從テト訓スレテ此為字ハ去声ニシテ讀ムモ亦可ナラン

莊與人為妻寧為夫子妾

人ニ求ラレテツヰトセラレヨリハ我ヨリ奔テ夫子ノ妾トナラレ

成范文子後人武子曰無為吾望爾也乎

無為フカヒナクト誤ス

母為無狀

庶

コヒ子ガハクハ

ナラトスル誤

殆將与彼匹曰庶

庶ハ同シテニナラテ下スル

庶モトクト訓スルトキモイロク品ハカワリテアリテモ大抵セシ位ノモノト云義ナリ

僖庶有益乎

禮書敢庶茲乎

幾

コヒ子ガハクハ

ナリカルト誤

其將泊之所關係曰幾

幾チカ、ラシコヒ子ガマト訓スルハ平声ニテサナリカマツテアルグ

アヒノ所ノ神用ヲ云ナリ  
易ノ見幾而作ノ幾字ナリ

疏廣子孫幾及君時頗立產業基址

復周庶幾夙夜以永終譽

夙夜ノ字  
下ニ係ル

上ミチカク尚同 ミチカク尚義見于前

魏ウヱ上慎シヅカ旃マ哉 復後漢明儻コヒチカク尚可救用帝紀

冀ミチカク ミロニト用意俟其若ツ是之稱

冀ミチカクハミロニチスルナリ 武帝冀遇蓬萊紀

沆キョウ 見于前 雅沆コノ可小康ス

許頃所可 空虛姑薄

許キョ 分リ 斥其所位ス付度之曰許ト

許ハ其程ノシカト定ラヌヲ云

百許里彼ノ体 百里許我ノ計

古河漢清且淺相去詎幾許ソバク 若干若字ノ

頃ハカリ ヨドニト詎ス 畫其間計ス量之曰頃

頃ハミバラク經タル間ヲ云久ノ反ナリ 食頃食スル

所バカリ シホトノハシヨト云ナリ 義見于前

留ル家父去里所復還傳 受讀解驗之可ス一年所

可バカリ サシヤトセラルト云意ナリ 義見于前

大宛去漢可萬里 所ハ明界ハシヨヲ立ス頃ハミホドノ間ヲイフ 可ハ幽界ニテ思ヒヤリテイフ 許ハミラニテカテイフ



可字ハ上ニオク所頃ハ下ニオク  
許ハ上ニモ下ニモオクナリ

如ゴトシト訓スルト同意ナリ

孟嘗君傳出如食頃

空ムナシク

スカト詠ス

無所捉搦曰空

空ハト之ヘ処ナキヲ云

田廣明傳引軍空還

虚ムナシク

枵澗無見存曰虚

虚ハ實ナキヲ云  
空ハ用虚ハ体

漢司馬相如傳虚藉此三人為辞

素ムナシク見于前

徒ムナシク見于前

襄二齊師徒歸

姑ムナシク

苟且待之曰姑

姑ハマアクノチヨツトノ間ト云意ナリ

僖姑少待我南我姑酌彼金罍

薄ムナシク

前後相逼之間曰薄

薄ハ今シバシト云キニナリ

召薄言還歸

少ムナシク見于前

僖輔之以晋可以少安

間ムナシク見于前

有間少之少焉少選

頃之暫而暫ハ目ノ前ノ明界ヲイフ字ナリ

○凡最率槩 抵歸類約

凡 オヨソ スベテ オシテ不誤 輯其所統平之日凡

凡ハ一ト通リノ処ヲヨセテイフナリ 凡庸ノ凡ヨリ 轉シタルナリ

鬼谷 ノ 爲人凡謀有道 凡字謀ノ 一字ノニカク 凡爲人謀有道 凡ノ字ヒロク スベテ人ノ爲

ニスルコニ 係ル

最 サイ スベテ オヨソ 大ニト誤ス 義見于前

傳 衛書 最大將軍青凡七出擊匈奴 複西域ステ 用傳 取凡國五十

連 オヨソ 見于前 列オヨソ 子連於形物亦然

應 イヨソ オヨソ 見于前 唐職官憲 應宗室賜名

百 オヨソ カスノソロヲタル云 オヨソ 百爾 凡百

率 オヨソ 入声 アシト誤 度其大節均之日率 律ト同音 三テ義通ス

率ハ大ツチノトコロナリ

貨殖 傳 食租稅歲率戶二百 複周 大抵率寓言也

槩 オホム子 又作概 ナラシト誤 量其所出入略之日槩

槩ハ一スカケノコト因テ打ナラシタル処ヲ槩去 梗槩 梗ハオホ

抵 オホカタト誤 氏底同 オホカタト誤 推其所頰當充之日抵

抵ハ大カタミラシコト、推ハカリテ云之抵ト率トハ彼ニツキテイフ

叔孫通傳頗有所増並減損大抵皆襲秦故槩ハ我ヨリナラシテミテイフ

歸オホム子 趣向本處曰歸ト

歸ハ其主意ノアル処ヲ云ナリ

王莽傳大歸言莽當代漢有天下ツ

オホヨソト訓スル類 大凡オホヨソ 大要ソ 大略ソ 大較ソ 大計ソ

オホム子ト訓スル類 大率ム子 大槩子 大抵子 大底子 大氏子

大歸子 大都子 大約子 大梗子 大要子 オホフソト云詞ハ子 事物ノ上ニ於スル

オホム子ト云詞ハミナ意旨ニカケテ檢ス用ナリ

類オホム子 區別於域中曰類ト

類ハワカレアリテモ外ニハナラヌヲ云

酷吏傳大抵吏之治類多成由等矣 類舉 類皆

約オホム子 大オホム子 占其括要曰約ト

約ハタリヨセルヲ云 抱朴子 鍊金內清酒中約二百過

致オホム子 較オホム子 並見于前ト

○慮諸統合 總切粗略

慮 リヨ スベテ

悉 スル 滙 ムラ 之 ニ 我 ニ 所 ニ 億 ニ 念 スル 曰 ク 慮

慮 ハ コ ラ ズ 我 工 夫 中 ヘ 引 テ 見 ル

無慮ハアメリ多クテ工夫ノトモ  
カヌ処ヲ云無字無数ノ無ト同シ

傳 スベテ 慮 スベテ 不 カ 動 カ 於 テ 耳 目 志 天 下 大 抵 無 ス 慮 ス 皆 ニ 鑄 ス 金 錢 矣 トモ

荀 スベテ 子 マ 慮 ス 率 ニ 用 ニ 賞 ニ 慶 ニ 刑 ニ 罰 ニ 勢 ニ 詐 ニ 除 テ 抗 シ 其 下 獲 テ 其 功 用 ニ 而 已 矣

諸 シヨ オヨ  
モロク

イ ロ ト ト 誤 ス 連 ス 其 所 各 列 曰 ク 諸

諸 ハ イ ロ ク アル ヲ 集 メ テ 云

尉 オヨソ 繚 オヨソ 諸 オヨソ 去 テ 大 軍 爲 テ 前 禦 之 備 者 曰 諸

統 トウ 以 テ 一 管 衆 曰 統

統 ハ ト ツ ニ シ テ イ フ ク 通 統 テ 舊 ク 國 ニ 五 ツ 新 ク 國 ニ 三 ツ 凡 ハ 八 ツ 大 國

合 ガフ スベテ 此ニ彼ヲアハセテトツニスルナリ 義 見 于 前

合 ハ イ ク ム オ アル ニ シ テ ソ レ ラ 合 セ ル ナ リ

三 皇 本 紀 凡 ソ 一 百 五 十 世 合 四 萬 五 千 六 百 年

都 ト スベテ 義見于前 子 列 都 テ 無 ク 所 ニ 愛 ス 惜 スル

渾 コン スベテ ヒトメルメト誤ス 殊 レ スベテ 見 于 前

總 ソウ スベテ シメテ誤ス 輯 テ 而 括 之 曰 總

總 ハ フ サ ト 云 字 ニ テ 其 本 ヲ ク リ タ ル 意 ナ リ

切モロク 去声音 砌 モロク 籠掩衆多曰切

切ハモロクヲコメテ云 李斯 請一切逐客ヲ

粗ホツ 又作犴麤ハツト 誤 率然未及粹密曰粗

粗ハ一事ノ上ニテソサウナルヲ云精之反ナリ

司馬相 如傳 請為大夫麤陳其略

略ホツ アミ 誤 簡乎遺其縷曲曰畧

略ハ數アル中ニテ取シテ云詳之反ナリ 粗ハ用畧ハ体

張蒼 略是紀征和以來子荀 大略君人者隆礼尊賢

○幾豈巨寧 孰疇誰各

幾キ アニ 上声 所 籌難直斥曰幾

幾イククト訓スルトキハ上声ニテ數ノシカト定ラヌ処ヲサス

幾何 幾多 幾許 幾詎 詎幾 幾所

北史盧 去傳 樂為此者詎幾人也

幾アト訓スルトキハ豈ト音近シテ通シタルナリ

子荀 幾直夫芻豢之縣糟糠爾哉

豈キ イ 誤 豈者檢詰以反覆之之辞

豈ハカダアル云テモトフデカフデハアルマイト云意ナリ覬覦  
シテ其興<sup>キズ</sup>ヲ伺ヒ指ス意味ナリ豈ハイツニテモ相手ヲトリ  
テ論シ詰ル辞ナリ

豈然<sup>然ルト云人ヲ立テ</sup> 豈可得乎<sup>可得ト云人ヲ立</sup>

十五 亦唯天所授豈必晋<sup>昭</sup>文之伯也豈能改物<sup>ヲ</sup>

已上ハ豈字ヲ用ル正法ナリ 桓<sup>十</sup>夫豈不知楚師之盡行也

成<sup>二</sup> 豈無備而能出君乎<sup>蔡</sup> 豈非士之願與

五 僖 晋吾宗也豈害我哉<sup>游</sup> 豈非人之所謂賢豪間者邪

已上句尾ニアル也乎与哉邪ナドノ字ヲハナシテ文義ヲ見ル  
ベシ其スチワケニ也字ヲ加ヘ人ニ云カケルニテ乎字ヲ加ヘ向フニ  
姦子テ与字ヲ加ヘツヨク云々メニ  
哉字ヲ加ヘ疑フテ邪字ヲ加ヘタルニ

魏<sup>共</sup> 太后豈以為臣有愛不相魏其<sup>鼂</sup> 变古乱常不死

則亡豈錯等謂邪<sup>曹</sup> 豈少朕與<sup>范</sup> 孺子豈有客

習於相君者哉<sup>已上ハ反語ニアラスコレハ臣有愛不相魏其</sup>

三テ豈字ヲ置タルナリ錯等謂テハアルマイト云テ  
邪字ニテニタリ返シタルナリ餘ハコレニ准シテ推スベシ

巨<sup>ヤ</sup> アニ 渠同 渠者詰彼<sup>テ</sup>斥其所程<sup>ヲ</sup>分之辞

渠ハ彼ヲ輕シテ程ノ者トコナレテ言フナリ

高祖紀 公巨能入乎 漢孫渠有其人乎

寧 ムシロ イツクシ 寧者較以就所靖焉之辭

寧ハヤスズト訓シテ先ノクカナリニソレヘ落ツクナリムシロ  
ト訓ズルモ先カナリニ其方ヘツク意ナリ人ニ云カケル詞ノ  
時ハカナリニ其方ヘセラレヤト云意ナリ

寧ト山豈トノ別ハ豈ハ歎ヲトリテ論シツタル辞ニテ辞緊シ 寧ハ  
心ノ上ニテコノ地位ニ落ツカルヤ落ツカレヌヤト應ヒタルニテ辞軟ナリ

昭十 子寧以他規我 襄二 寧僭無濫

已上ハ寧字ノ正法ナリマタ寧ハ反語ニ非レ下ニ 平邪トノ字ノバ語勢ニテ反語トナルナリ

魏其傳 帝寧能為石人邪 淮南傳 吾寧能北面臣事豎子乎

コノ類ハソレニ落ツカルヤト云カケタル  
ニテ落ツカレヌト云意ニモトルナリ

無寧 ムシロ云云スルナカラシヤ 毋寧 不寧 並ニ上ニ准

一 隱十 無寧茲許公復奉其社稷 襄三 賓至如歸無寧蓄患

十一 襄三 先君而有知也毋寧蓄患

昭十 元不寧唯是又使圍蒙其先君

成寧不亦淫從其欲以怒叔父 不亦上ニ字ツギキタル語  
上九ニ寧ハ一字ハナシ見ルヘシ

無乃 乃云云ナルナカラシヤ義 毋乃 同上





與誰モトタシト其誰令聽之タシモ其人今誰聽之タシト其人ヲ

各自各自自各韓文各各叠用物件皆異其所主之稱

○詎侯那奈 奚局何胡

傳大宛令外國客徧觀各倉庫府藏之積ヲ

詎キヨ通作渠巨遠ドククヲ井上擬斥其所程分日詎

詎ナガ程カレタ指ト訓スル奚憂焉キハ單用スル何渠不若漢モアレテナゾト

復列巨奚憂焉ヨムトキハイツラモ複用スル蘇君在儀寧詎張儀

能乎種世由此觀之何遠不為福乎蘇武詩

侯コシ義見于前的

那ナガ義見于前イカン

那ナガ上声ナゲト那義見于前

那ナガ彼カ所ナゲト失ナゲト詔ナゲト辭ナゲト

宣シ犀兕尚多シ弃シ甲則那シ

祭イカシ乃帶切通作耐乃簡切去声奚嚮之辭トモ

乃帶切通作耐乃簡切去声奚嚮之辭トモ

奈ハセシ方ナキヲナゲテ辞ナリ 那ハ彼ニシテ云 奈ハ我ニシテ云

奈 カモニ 字ニバ我心ニテドモ シヨガナイト嘆クナリ 奈何 何字ヲ付レハドフモシヨガナイ ト云フ人ニ云聞ハ意

無奈之何 ドモ仕ヨガナイト人ニ 相ダシシヨフモナイ 争奈 イカカモシ ドフシテシ ヲハナイ

詔嗚呼曷其奈何弗敬 敬ヨリ外ニ 淮南不可奈何願陛下

自寛 セヨ 子奈何哉其相物也 ドフデテキハセヌコト ガヤソノ物スルコトハ

奚 ケイ ナシク イツク 奚者探其出自之原之辞 トカラ出キテ探キ其出自之原

奚ハドウ云処カラ出テキテト其根モトヲ推テ問フナリ

管太山之阿奚有於深 深ト云ハナキト 根ヲオシテ云 何有於我 アリハセヌト 云ハカガナリ

辨此道奚出 全 法術之士奚道得進 道奚ハ奚字 イツクトモ 定ラヌモノニナレオキテソ

道ヲトフナリ 奚道ハ奚字 活シテイツクト云用ヲトフナリ 奚自 何從 焉從

曷 カク ナシク イツカ 通作過 コトトフニテ誤 曷者懼其必難然詰之之辞 トビル意アリ

曷ハカフアルニトフシテト道理ヲツメテイマイツカト待ワビル意アリ

元吾子其曷歸 伊ツカ 子苟彼固曷足稱乎大君子之門哉 周害澣室是古

害 カク イツカ イツレ 与曷同 子孟時日害喪 南害澣室是古

伊ツカト訓スル類 曷日 曷時 久如 早晚 幾時 何 カク イツレ イツレ 何者告己未有定見之辞 ワカレテ告何者告己未有定見之辞

何ハトカク入クミアリテワク知レヌ所ヲ問フナリ

謂何何トモ言ヤウガナイ又何謂何トイフウケ由何何トイフウケ

何由何トイフウケ以何オゴトラ何以ナシ何用オナ

何所用之用ダツバシヨ

晉荀息謂何東方朔傳歸遺細君亦何仁也

任安傳將軍而不知人何乃家監何曾曷嘗

何也 何乎 何哉 何耶 何歟也乎等ノ別

者何也

イカト訓スル類

如何イカ、イタサフ如何如何セシト我ト人商謀之 何如ドアイフウケツ此事ハドフテラズレ問ナリ

若何イカミナサルゾ若何若何スヤト彼ニ付テイフ何若イカ、ノオホシメシ彼ノ内ヲ問フナリ

如之何ソレラドフイフ若之何ソレラドフイフ

戲場ヲ見ニ行クハヨキカヨカラザルカト問フハ何如ナリ 戲場見ニ行ク

シヤルカ行カシヤラスカト彼ニテ問ハ若何ナリ

齊世家 公曰易牙如何 易牙ヲ相ニスル 蕭孝惠曰曹參何如 曹

ノ人カラ相ニヨカラ 兵起 兵起何如人哉



○盍闔遐庸 焉安惡烏

盍 カフスル 闔 ナシヤル 遐 カ 庸 ナシヤル 焉 カ 安 カ 惡 カ 烏 カ  
カスガクニ下設 盍者勸彼之宜爾之辭

盍ハカフスルガヨイト其ツマリヲ言聞ス辞ナリ闔ノ義ヨリ出

タルナリ何不二字ヲ輕ク軟ニ云タルアバイナリ

盍 カフスル 何不 ナセカフ 胡不 ナセカフ

奚不 ドフイフワケ 曷不 ドフシテサフ

僖子盍蚤自貳焉 十三

闔 カ 與 カ 盍 カ 同

復子闔胡嘗視其良 子管闔不起為寡人壽乎

遐者詰遠遠難度之辭

遐ハ遠クシテ分ラヌ処ヲ詰ルナリ 遐何音近ケレバ遐ハ外開

小樂只君子遐不眉壽 鄭風不瑕有害ノ瑕字旧説

庸 イコフ 義見于前

庸容ト通シテ上ニ置ク時ハソコヲユサルヤ

此天所置庸可殺乎 昭其庸有報志

復元庸何傷 荀女庸安知吾不得之桑落之下

莊庸詎可乎

焉イックシ

ハ言ハ多敷焉者提其地位以覆之之辞反辞

焉ハ語尾ニ凡時ハソレトコロニト地位ヨスエルナリソレヲ語頭ニ  
オケバ云云ノコニ地位ガスエラレヤト云カケタルニテスワリハセス  
ト云立意ヲ持テ反語トナルナリ

凡ナシト云詞ハ問フ辞ナリイックシト云詞ハ答スル辞ナリ  
イツクシハイツクシニテモ相手ヲ持テ論ツル程ノ意味ナリ

穢ニ父戮子居君焉用之穢ニ朝者曰公焉在

安アインクシカ  
平声

安者詰彼其所奠地位之辞

安ハドコヲニカトサカス意ナリコノ地位ニ安ニゼラルハヤト云カケ

タルニテ安ニセラレハセヌト云義ニ還ルナリ焉ト惡ハ用ナリ

安在哉ドコヲテアルカ 焉在不在ト思 何在アルトコロ

辯今吾安居而可然則寡人安所太仁安不忍人

傳酷吏言喪事縱跡安起

惡イックシ 平声 惡者蔑視以壓之之辞

惡ハドコニテアレガサフナラフゾトコナシテ云フ辞ナリ

焉惡別ハ焉ハ相手ヲ持テ受テ論スル辞ナリ  
惡ハ論スルニ及ハス我ヨリコナシテ云フ辞ナリ

聖爾幼惡識國ラ 書無天地惡生無先祖惡出ニ

鳥フ イツクシ ナトトテ 鳥者嘆其懸遠邈絕之辞ヲ

鳥ハ中ニナトシテ其段テハオイト嘆シテイフ辞ナリ說文ニ鳥呼也

司馬相如傳 使者曰鳥謂此邪一 鳥有先生全

○嗟噫嘻噫 唉歎嗚呼

嗟ア ク ト 嗟者感發之聲

嗟ハコシハクト感心シテイフ辞之喜賞ニモ悲嘆ニモ用ユ

嗟夫発語ニ用ルイアリ 嗟乎乎ハ人ニ云カケル

周南 嗟我懷人ラ 疊商 頌 嗟嗟烈祖

噫イ イハ 平声於宜切 噫者憤激之聲去声ノ時ハ鳥解切ニ噫氣ナリ

噫ハ抑鬱シテ通シガタキ時ノイキレオリノ辞ナリ

論語 噫天喪予梁鴻五 噫歌 陟彼北芒兮噫

意イ ア 平声於宜切 与噫同 子意毒哉

嘻キ ア 平声於宜切 嘻者銘刻之聲

嘻ハ心肝ニ徹シテ腹ノ底ヨリ出ル声ナリ笑嘻々トモ泣嘻々トモ

公慶父聞之曰嘻 莊 嘻善哉技蓋至此乎

褒<sup>ニ</sup>喜<sup>ニ</sup>喜<sup>ニ</sup>出<sup>出</sup>

戲<sup>ア</sup>、 噉<sup>同</sup>

クダカト誤ス 噉者歛歛之聲

噉ハ敬<sup>ニ</sup>驚<sup>ニ</sup>惋<sup>ニ</sup>シテ思<sup>ヒ</sup>ガケ<sup>ナ</sup>ク出<sup>タル</sup>声<sup>ナリ</sup>悲<sup>ニ</sup>喜<sup>ニ</sup>共<sup>ニ</sup>用<sup>ユ</sup>

唉<sup>ア</sup>、 平<sup>声</sup>

チイ子ト誤ス 唉者怨<sup>ニ</sup>恚<sup>ニ</sup>之<sup>聲</sup>

唉ハ恨<sup>ニ</sup>詈<sup>ル</sup>声<sup>ニ</sup> 王剪牙歛ノ歛ハ當作唉ナリ

莊<sup>ニ</sup>唉<sup>ニ</sup>我<sup>ノ</sup>知<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>將<sup>シ</sup>語<sup>ス</sup>若<sup>シ</sup>

項羽本紀 唉<sup>ハ</sup>豎<sup>子</sup>不<sup>足</sup>與<sup>謀</sup>

歛<sup>ア</sup>、 去<sup>声</sup>

歛者懊<sup>ニ</sup>懷<sup>ニ</sup>之<sup>聲</sup>

歛ハ愁<sup>ハ</sup>歎<sup>ク</sup>声<sup>ニ</sup> 歛平声ノ時ハ唉ト同シ去声ノ時ハ歎声ナリ字彙ノ注ハ混シテ別ナシ用ユヘカラス

楚<sup>詞</sup>九<sup>章</sup> 歛<sup>ハ</sup>秋<sup>冬</sup>之<sup>緒</sup>風

歛<sup>ハ</sup>寒<sup>羌</sup>トモニ韻<sup>文</sup>ノ外<sup>ニ</sup>ハ用<sup>カ</sup>タ<sup>レ</sup>

嗚<sup>ア</sup>、 烏<sup>同</sup>

テモサテモト誤ス 嗚者憂<sup>ニ</sup>歎<sup>ニ</sup>之<sup>聲</sup>

嗚ハ幽<sup>ニ</sup>界<sup>ニ</sup>ニテ目<sup>ニ</sup>見<sup>ヘ</sup>又<sup>遥</sup>ニ遠<sup>キ</sup>处<sup>ヘ</sup>心<sup>ヲ</sup>想<sup>ヤ</sup>リテ歎

ク辞<sup>ナリ</sup>憂<sup>ニ</sup>悲<sup>ニ</sup>ニ用<sup>ユ</sup>

呼<sup>ア</sup>、

又作噉 通作噉 ヤト誤ス 呼者喚<sup>ニ</sup>發<sup>ニ</sup>之<sup>聲</sup>

呼ハヨヒカケルナリ怒<sup>ニ</sup>モ畏<sup>ニ</sup>モ用<sup>ユ</sup> 嗚呼ト復用スルトキハ憂<sup>ニ</sup>悲<sup>ニ</sup>ニ用<sup>ユ</sup>

元<sup>文</sup>呼<sup>ハ</sup>役<sup>夫</sup> 怒テヨブ

檀<sup>弓</sup>曾<sup>子</sup>聞<sup>之</sup>瞿<sup>然</sup>曰<sup>呼</sup> 畏レテヨブ

○叱<sup>ハ</sup>啞<sup>ハ</sup>寒<sup>羌</sup> 嘆<sup>ハ</sup>咨<sup>ハ</sup>都<sup>ハ</sup>吁



叱シツア、 叱者呵咤之聲

叱シツハシ方ハルル辞ジナリ 趙叱シツ嗟サ而ニ母ハ婢ハ也

啞アア、 啞者暗諤之聲

啞アハ出デカスルル声シナリ 鴉カ字ジト同ト音オンニテカラスノ如ノクク只シアノト云フ声シナリ

非ヒ韓カン啞ア是シ非ヒ君クニ人ニ者ノ之シ言ハ也

謔ケツア、 謔者礙訥之聲

謔ケツハトモルル声シナリ 穽ケツ謔ケツ朝チウ諄チン而ニ夕シツ替ヘル

羌カウア、 スナハチ 羌者努強之聲

羌カウハツトメテテキキハハルル声シナリ 楚シ羌カウ中チュウ道ダウ而ニ改カ路ロ

慶ケウア、 与ヨ羌カウ同 楊ヤウ雄キウ反ヘン離リ騷サウ慶ケウ夭テウ悴ツイ而ニ喪サウ榮リョウ

嘍カウア、 嘍者咳渴之聲

嘍カウハ老人ノシハガレル声シナリ

外ガイ戚キツ世セ蒙モウ帝テイ下ゲ車シャ泣キツ曰イフ嘍カウ大ダイ姊シ何ナニ藏サウ之ノ深シ也

咨シア、 咨者託囑之聲

咨シハ我ガ心シンヲ向ムフフツケテ問トフ意イナリ 堯ヤウ咨シ四シ岳ツク

嗟サア、 与ヨ咨シ同 趙チウ嗟サ嗟サ乎フ

都トア、  
ソレトト誤ス 都者翕思之聲

都トハ向フト心ノ相合タル処ニ用ユ  
皇陶都亦行有九德

吁クア、  
ナリトト誤ス 吁者蘊念之聲

吁クハサリトト一ト思案シテイフ辞ナリ

堯ア吁ク囂シ訟リ可ク乎ナ  
蔡傳沢吁君何見之晚也

ア、ト訓スル類 數多キユニ標目ニ異各ス

於ヨア、  
見テ于前一  
堯ア於ヨ鯨ク哉ナ  
陸氏音鳥然居於鳥用ヒ処  
同レカラスヤハリ如守ニシテ可ナラン

猗イア、  
見テ于前一  
子シ莊ア我猶為人猗

繫イア、  
見テ于前一  
繫イ伯舅是頼  
四繫イ伯舅是頼

愨キア、  
見テ于前一  
昭ハ愨キ使吾君聞以為快

惡ラア、  
見テ于前一  
子シ惡ラ惡ラ可ク

猷イア、  
見テ于前一  
周シ猷イ殷王元子

啞イア、  
見テ于前一  
啞イ 見テ于前一  
氣ノ結ホレテ出ル声ナリ

惜サア、  
鄭重之声  
拂フア、  
愠拂之声  
サハアラヌト彼ニサカフテ云ナリ

哀アイ、  
心ノ内ニカナシムナリ  
諛キア、  
憎疾之声  
音希イヤニオモフ辞ナリ

噓キア、  
息ヲ吹クナリ  
李白詩噓噓噓危乎高哉

複嗟乎

傳嗟乎有故也

噫乎

河渠書噫乎何以禦水

噫嘻

魯仲連傳噫嘻亦太甚矣

於戲

周書於戲前王不忘

嗚呼

檀弓嗚呼哀哉尼父

烏乎嗚乎嗚呼嗚呼

於乎

於虜同

陸氏音嗚呼然レ在於嗚ヲ一ニスルハ粗ナリト謂ヘレ於乎ハヤリ於乎ノ字義ヲ見ルヘシ

雅於乎小子

咨乎

秦傳咨虜群公可不憂哉

猗歟

頌猗與那與

猗嗟

齊風猗嗟昌兮

于嗟

周南于嗟麟兮

于嗟乎

召南于嗟乎騶虞

俗語助字

コノ下ニ載ル所ノ助字ハ小説俗語ノ字ニテ雅文ニ入ベカラス勿論皆出ル所ニテ小説ノイナレハ舉引スルニ及ハズ只二三ノ熟語ヲ録シ俗譯ヲ附シテ初學ニ示ス

○馨麼地阿 頭邊許價

馨

古文ノ兮字ト同意ナリ兮字ノ下ニ詳ナリ

世正自爾馨

余リト云テ語ニ餘韻ヲ含タル

寧馨兒

コノヨフナ兒ト云フニテコノヨフニヨキ兒ト云意ヲコ

メタルナリ又コノヨフナアキキ兒ト云フニモ用ユ

麼イナヤ 平声 麼シダレテアリテ定ラヌ意ナリ 古文ノ耶字ノ意ト近シ

麼ドノヨラニシテヨカラシ様好 怎麼好モ同シ 什麼オ 作麼オダ 么麼ノ麼ハ上声ナリ

地ハレヨト 詛ス 一味地ハサン 一地里ヒトミクリ

特地マク 雙地フタツチ 田地ハレヨ 刻地見テ丸 立地タチド

拖拖地引ハル 撲喇喇地ト 撲地ハタト 隱隱地カスカ

阿ハ 物ノ名ヲ喚フ時發声ニ阿ヲ加フル詞ニトリラ付 タルク 晋人人名ノ上ニ阿字ヲ加フル古ノ於越ノ於ト同シテ北方ニテ平声ナルベケレ南音、清高ナクニ轉シテ入声ニナリタルナリ

阿堵物コノ 阿正サシク 阿姐アチ 阿哥アゴ 阿主ダン

阿老シユイ 阿蒙コドモ

頭コウ 向ムカフタル所ヲ云 古文ノ極字ノ意ト近シ

臨頭ノトキ 興頭イサレ 劈頭ツキカ 空頭スカ 一頭カクテニハ

二婚頭ニゴヨ 裏頭ウチ 探頭ヒ 當頭正面向ト云

邊ヘリ 多リト詛ス

這邊那邊コモカ 旁邊ソノハタ

許キヨ 渠同 其程ヲアテカフテ云意ナリ

諸許モロク 裏許ウチ 多許バカ 許久ヒサ 許儂ワ

縦許タビヒ 何許ナニカガリ

價カ ホー、訣ス

天價哭天ホドニ 地價哭地ホトニ 山價海價山ホドニ 海ホドニ

○恁儘做慣 件色上下

恁シカク、カヨフト訣ス 恁地ホリト恁兒同ト

恁麼シテ 恁樣人コソヨフ 恁地時トキ

儘シタトヒ、盡同 ナボフモト訣ス

儘力ナカラ 儘道タトヒ 儘着タトヒ

做ク 女 ニスルト訣ス

看做ミナス 做主ミコ 做家ミツ 做一家ナカ

慣カ ナラフ ナコニ丸ト訣ス 慣看ミナレル

件ケン シテト訣ス

兩件シタ 一件ヒト 那件那色ナレデモ

色シヨウ 其コノシテ方狀ヨク云件ハ体 色ハ用 本色モナ 名色イロシナ

上ウヘ 其事コトヲ重フシレシテイフ意ナリ

看上ミコ 添上ス一頂ラ 晚上バシ 個頭上コト





解ヨク 古文ノ能字ノハレヨニ用ユ

解道ヨクダウ ヲクダウノ意ニ唐句ニ無ク人解道取涼州ト云意ニ解道取涼州トヨハ非ナリ

省セウ ヲク 古文ノ善字ノハレヨニ用ユ

險ケン ホトシト 古文ノ殆字ノハレヨニ用ユ

險不ケンフ 不字反語ニナリテホトシト云云ナラサキト云意ニテ二字ニテホトシト訓スルナリ敢不トカキテ敢スルト云意ニテト同埋ナリ

然ゼン 前ニ出 直字ノハレヨニ用ユ

縱然ゼンゼン 險然ケンゼン 猛然マゼン 陡然トゼン 坐然サゼン 居然コゼン

些シヤ 前ニ出 子ヨイノ、訣、下 慊些ケンシヤ 好些コシヤ

這些コラ 那些ソラ 快些ハヤク 早些トシ 同上

○任放浪謾 不休没莫

任ニ 平声 下ヨト訣ス 饒ニ 前ニ出 從ニ 縱ニ 同 信ニ 下カス意ナリ

任從ニ 下皆同 任放 任遣 一任 任教

任他 從令 從遣 從他 從教 放教 儘教

放遣 渡莫 遣渠 聽他 從信 饒任 從聽

渡渠 饒渠 從個 以上皆サモアラハアト訓ジテ大抵同意ナリ

總ソウ 縱ニ 通ス 總道 任是 任個 說任 直饒



放シム 古文ノ遣字ハシヨニ用ユ 容イロクシヨリ轉シテ許ヨシムニス意

浪ミナリ タウイナシト訣ス

孟浪ミナリ 浪孟ミナリ 同上 孟八郎ミナチ

謾ミナリ 謾ミナリ 漫同 忽謾ミナリ 漫ミナリ 祖ミナリ

不フ 不字俗語ニテハ反語ニナルト多シ

不分ミナリ 分ミナリ 忿ミナリ 通ミナリ 好不大熱ミナリ テミナリ タミナリ ラミナリ ヌミナリ

休ミナリ 休道ミナリ 休論ミナリ

没ミナリ カクシテ見エヌトノ現ノ反ナリ 古文ニモ没 勿ト通ス

没巴鼻ミナリ 没交渉ミナリ 没奈何ミナリ

没主張ミナリ 没肚子ミナリ 没撩没乱ミナリ

没多時ミナリ 没天理ミナリ 没道理ミナリ

莫ミナリ 莫ハナカラシヤト訓シテナカラシヤ有ルニイモノテモイ

ト云義ヨリ轉シテナカレト訓スルナリ 有マイモデモイ用心ラセヨ ト云ナリ禁止ノ辞ニ非ス

莫道ミナリ 莫非ミナリ

○來去除只ノ說道得着

來ミナリ 百來里ミナリ 鳩來ミナリ

聿來 同上 向來 同上 却來 却後モ同 適來 イタ

原來 サス 又來 モタ 一來 ニハツ 總來 スヘテ

去 キ テト訣ス 老去 テモ 醉去 テモ 做去 テモ

除 タ ゼヒ正ト訣ス

除却 バ 除非 非字反語ニナリテタゞ云云ニ非ラシマノ意ニテ二字ニテタミト訓スルナリ

只 レ 前ニ出 タ 只管 シタ 只顧 同上 只麼 同上

只是 シカ 只好 同上 只索 イッソ

說 シ 最ナクテ訓ス也 斯 カ 畧ナリ

聞說 見說 言說 聞道 見道 言道 モ同

道 ナク 說 ト同 道 シヨ 用 ユ 轉用 ヒルナリ

那道 シドフ 難道 モ同 知道 怪道

得 タリ 了得 シヒラ 拚得 思ヒキツタリ

看得 トル 會得 コム 認得 シサヒ 帝得 アキラメル

着 シム 情着 情カ動 撞着 ユキ

乱着 イカカシ 托着 ウケテ 為着 タメ 背着 ハケ

朝着 向フ 着急 コト急 推着 キバ 安排着 サシツ

○負取率斗 打赤了却

負 カケ 彼ヨリセラル、之為所ノ意ナリ 欺負ル、サ 辜負ラレ

取 我ニテセラル、ナリ

判取ツラチ 認取トリ 好取クニ 着取ル、

率 タチ ツクカニト訣ス 猝ト同レ會 卒ノ意ナリ 率地

斗 タチ 陡同 トラクト、訣ス 猛 タチ ヒドクニエナキ

劃 タチ 切ツケルホドニ急ナリ 瞥 タチ 目ヲテリト見ル間云 霎時 ヒトキ リマ

打 ヨリ 雅反 打カスト訣ス 打聽カスゲ 打扮ハス 打恭ヨシラ

打點 カチ 打張 タチ 打躰 イキ 打頭 サニ 打磕 コト 打疊 タテ 包兒 タマ 不敢 コト 打市 ウチ 上走 ウチ

赤 ベニ 子遺 コノリ ナキ云 斥齒、斥 上同音 赤貧 エラヒシ 赤憎 エラシ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

了 シ 了百了 一、百 錯了 シ 結果了 ヲ 引了 ツ

却 サテ 却說 サテ 老却 オホ 賽却 タ 減却 ヘラシテ

却 サテ 却說 サテ 老却 オホ 賽却 タ 減却 ヘラシテ

却 サテ 却說 サテ 老却 オホ 賽却 タ 減却 ヘラシテ

却 サテ 却說 サテ 老却 オホ 賽却 タ 減却 ヘラシテ

○恰纜剛的 殺生樣脚

恰カフ アタカモ 其程位ヲ形貌シテ云ナリ 恰ハ用ナリ

恰好ホド 恰似 恰纜

纜サイ ヲクニト訳ス 方纜カフ ヨク 適纜イマ

剛カウ シニ オシヨクト訳ス 剛方カフ 剛道 剛地

的ニ タト訳ス 成精ニ 的ニ 粗鹵ニ 的ニ

老實的キチ 有的アリ 腌臢モクモク 出名的セン

伊呀イ 欸乃クニ 的ニ 流水スラク 的ニ

殺サ ハカ 又作煞 セツラ 殺ト訳ス

忒殺チ 可殺同上 妊殺ア 嫌殺キツカ 嚇殺ラトシ

生シ 始テ其コニ出合タル意ナリ

生憎シ ラシヤ 生怕ア 作麼生ジヤ

太俗生俗ナリ 太清生雅ナリ 何似生イカン

樣ヤウ 物カカドリテ云 小樣的ヤサ 什麼樣ナヨフ

脚キョウ ソク持マヘヨ云

手脚テナミ 元和脚白樂天元積ノ詩ヲ元和脚ト云

○向和枉賸 番回子兒

向キヤウ ヨヒテ 前ニ出

一向ヒタ 向上以上ト 向裏ウラ 那向ナノヨ

和ト 古文ノ與字ノバシヨニ用ユ 和着トモニ

枉マダシ マダシト 記ス古文ノ徒字ノバシヨニ用ユ

賸シヨラ シヨラハ 實證切又時正切 一タソノウヘニカフアルト云処ニ用ユ古文ノ矧

且ト二字アルバシヨナリ

番バン 去声 般同 一段一齣ノ意ナリ

這般コノ 恁般同上 今般同上 諸般イロ 盡般コトク

箕箒般箕ノ如クニ 一般兒ヒト

回クハ タビト 記ス 番ノ用 这回コノ 次回キタ 次回キタ 下同同上

子コ ソノ内ニ 持タル意テ子字ヲ添ルナリ

耐着心子カンシ 耍子スガ 寒栗子ミツク

様子モノ 鏡子カバ 筆子フデ 簪子ガカン

兒コ 物ヲ小サクヤサキモノニシテ云トキ兒字ヲツケルナリ

方勝兒ムスビ 一字兒イチモン 醃菜葉兒ナガキ

彎角兒 ヒトカサ 一塚兒 ヒトカサ 蠢老兒 アホラ

砲兒 ビヤレ 熊兒 クマ 蛇兒 ナハチ 被襖兒 フトシ

珠淚兒 ナミダ

○靠交消厮 哩呢咄咦

靠 カウ 交 カウ 消 シム 厮 シム 哩 リ 呢 ニ 咄 ツ 咦 イ

古文ノ由字ノバシヨニ用ユ

教ト同音ニテ通シ用ユ

消 シム 須 ス 叶音ニテ通シ名ナリ

厮 シム 人声思必切 古文ノ相字ノバシヨニ用ユ

哩 リ ワイト訳ス カフビロイ カクアルゾト云聞ス辞ナリ

嘸 ハ ハト訳ス カフスルハ ドフスルハ

咄 ツ コレサテト訳ス其コトノ不滿ヲ叱スルコトナリ

咄 ツ 咄 ツ 咄 ツ 咄 ツ 咄 ツ 咄 ツ

咦 イ 呼笑ノ声ナリ

○古今語辭 槩具于斯

精之覈之 勿錯毫釐

助語審象卷之下

文化十四年丁丑仲冬新鑄

京御幸町 御池通下

皇都書肆 菱屋孫兵衛

御 池 通 下	京 御 幸 町	皇 都 書 肆	菱 屋 孫 兵 衛
------------------	------------------	------------------	-----------------------



